…年八月二十五日第三種郵便物認可大正三年八月二十五日發行八月二十五日印刷納本(毎月二回五日二十日發行)

再版

# 歐洲戰爭實記

第一巻 第一號




東京
博文館

# 歐洲戰爭實記第一號目次

（大正三年八月二十五日發行）



## 口繪

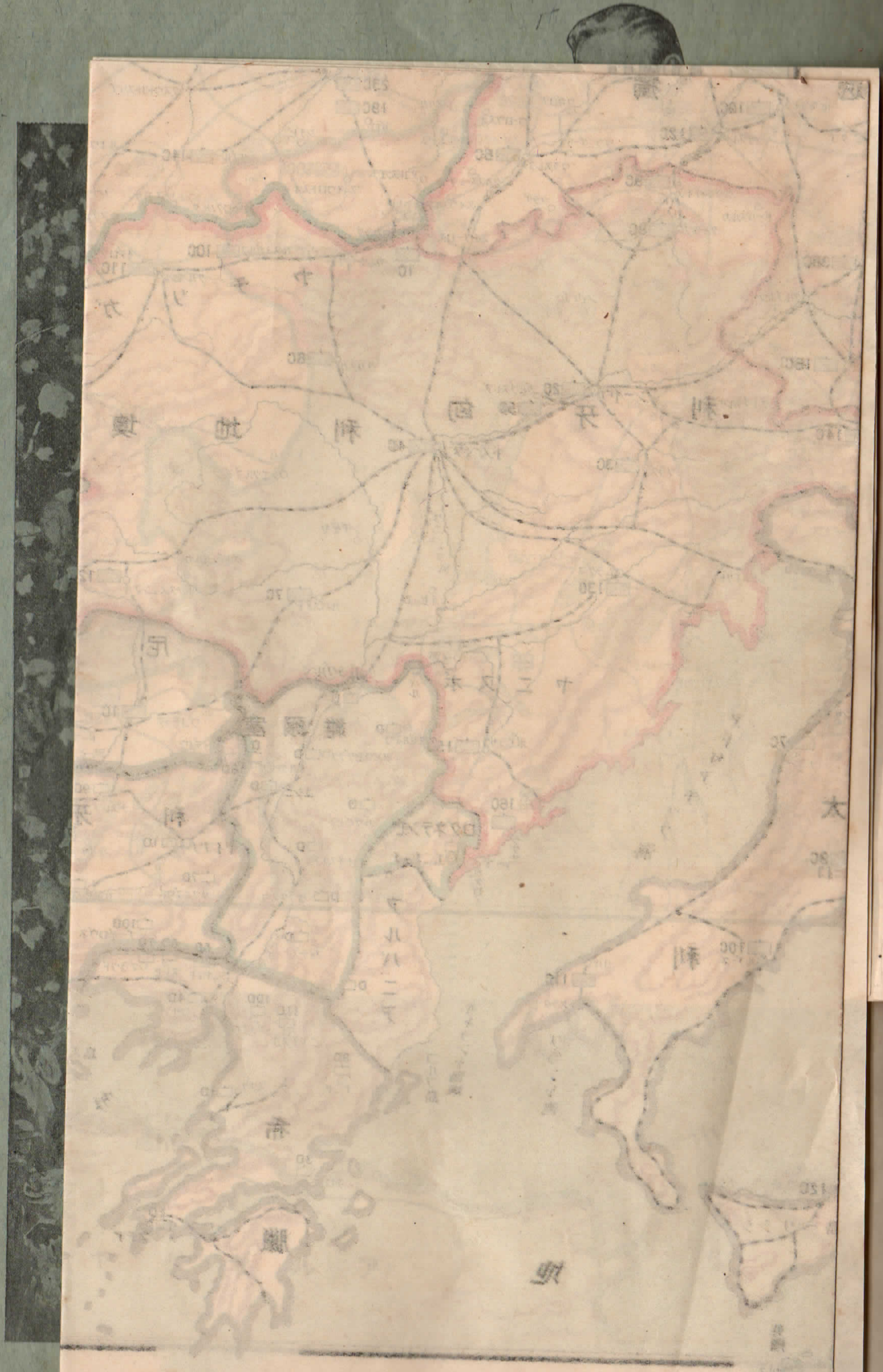
◎悲歎にくれ給ふ墺國皇帝◎獨帝とアルサス、ローレンス總督エーデル伯◎英佛元首の握手◎觀戰中の露帝◎白。塞兩元首とルクサンブルグ大公國主◎最近の膠州灣◎本邦駐剳の列强大使◎獨逸軍を擊退しつゝある白國リエーヂ市

## 地圖

歐洲列强戰局地圖（本誌四倍大）

（以下本文中挿入）◎膠州灣青島（三）巴爾幹諸國の略圖（九）◎獨佛白の軍備略圖（二六―二七）◎白國リエーヂ、ナムール附近（三六）◎白國リエーヂの要塞（三七）◎リエーヂ市街（三九）◎アルサス、ローレーヌ及佛國々境（四八）◎交戰國兵備略圖（六〇）

此の他本文中挿入寫眞及木版數十箇





# 壯絶なる海の側面史を讀め

▼九月一日發行

# 海上雄飛號

▼本號に限價卅錢 郵稅二錢五厘

■**歐洲大海戰**（三色版）森田晝伯筆
艨艟相搏ち飛行船出現す、其凄壯慘絶なる讀者をして骨鳴り肉躍る感あらしむ：

□悲むべき**戰敗の印象**……露國幕僚

□小說か事實か**島帝國の封鎖**　三津木春影
▽神祕の雲に包まれたる顚理巴大遜の死……北野海嘯

■天下御免**海賊功名物語**：酒呑童子

**冒險世界秋季倍大號**

■寒氣肌に迫る**怒濤の暴威**　海底魔人
▽海賊橋の由來と東京近海に跋扈した海賊團……平塚斷水

□**蹴波一萬二百廿哩**：天風漁夫

□**コロワン島の海賊戰**……海底魔人
▽支那革命の飛將軍戴天仇の支那海賊譚……冒險記者速記

■獨逸皇帝の御座所に侵入したる**英國間諜**　天風

◉**露獨の間諜戰**……阿武天風
□西海に覇を稱した世界的海賊の張本

◉**藤原純友の侵略主義**……

△北海に於ける**英獨海戰**　阿武天風

◉小說**探偵「臨終の一言」**……春波樓主人譯
▽悲痛慘絶籠城日記……鐵拳狂禪

◉捕鯨王**岡十郎奮闘談**……怒濤郞

◉雄飛**海上男子の面目**……春風樓客
△海の富源……金澤謙藏

◉米西戰爭**馬尼剌灣頭の激戰**……長瀨春風

▽**金牌懸賞問題**……

◉時代の**權兵衛の兵學寮**……某督提談
△驚嘆すべき科學の威力……

◉**弩級艦建造物語**　紺野工學士

東京本町　博文館　振替二四〇番



大西洋
北海
英吉利
蘭
諾威
瑞典
バルチック海
抹
和蘭
白耳義
獨逸
佛蘭西
ビスケイ湾
西班牙
葡萄牙
瑞西
伊太利
墺地利匈牙利
ガリチヤ
ボスニヤ
塞爾維
モンテネグロ
アルバニア
羅馬尼
勃牙利
土耳古
亞
西




壯

▼九月一日發行

■歐洲大海戰　森田畫伯筆（三色版）

⊙露獨の間諜戰……阿武天風

悲歎にくれ給ふ墺國皇帝陛下

Pathetic scene in the Chapel of the Imperial Palace in Wien.




暗殺されたる墺國皇太子及び同妃の靈柩前に佇める老帝
（墺都皇城内の禮拜堂）

## 獨帝陛下とエルザス、ロートリンゲン總督

The Kaiser and Count von Wedel, Governor of Alsace-Lorraine.



（總督は陸軍大將エーデル伯）

# 世界大動亂と本紙

歐洲の戰亂は惹て世界の大動亂となれり。今や日本は東洋平和の盟主として起てり。日本國民は武裝せり。我が東京日日新聞は大阪每日新聞と東西相呼應して凛々しく武裝せり。本紙は實に武裝して世界の大舞臺に起てるなり。東京日日新聞は實に世界的の通信機關を完備す。日本國民は東京日日新聞を離れて時局を談ず可からず。

## 東京日日新聞

東京日日新聞は世界各地に特派員と通信員を有す。墺匈國の宣戰布告の第一報は實に東京日日新聞に依つて報ぜられたるに非ずや。東京日日新聞の外國電報は最も誇として日日の紙上を飾れり。而も戰況や軍事に關する通俗的記事は老練なる軍事記者に依つて平明に詳細に報ぜられつゝあり。是れ本紙を離れて時局を談ず可らざる所以、

(三ヶ月分前金郵稅共一圓二十錢)

東京丸の内 東京日日新聞發行所 振替口座二八〇〇番



## 讀書家之福音

▲月刊雜誌が安く買へて讀書し乍ら金が儲かる

現今文運の隆盛と出版業の發達に伴ひ東京博文館同文館春陽堂實業之日本社を始めとし其他各雜誌社の發行する月刊雜誌は著名なるもの而已にても數百種を數ふべく如何に愛書家と雖各自好める雜誌を原價にて買ひ整ふる事は容易なる業ならじ、此時代の要求に應ぜん爲東京淺草北淸島町百十六齋藤治三郎商店にては、各有名雜誌發行所と特約し絕へず殘本を引受け、政治、文學、實業、婦人、青年、少年、少女向等、注文に應じ口繪、寫眞版等も其儘新本同樣なるを各種取混ぜ一貫目三十八錢、三貫目一圓、十貫目三圓、送料一貫目七錢と云ふ殆ど紙屑の直段にて 振替東京 貳八九〇四番 或は一割增の郵劵にて送金すれば着金次第送本する由なるが一貫目にて凡四十冊有り之を小賣にするも優に一冊二三錢位には賣れ、副業とするも多大の收益あるべく、讀書しながら金が儲かると云ふ至極面白き思ひつきなり。

天下の此書の僞物多し若し買求めんとせば先づ見本を要求せよ

其の實物及び內容を確かめたる後ちに注文せよ

▲內容見本入用の方は郵劵四錢送れ

安蘇病院長 秋山金也先生 產科婦人科專門 吉岡三次郎先生合著

好評・十版

# 生殖器の研究と疾病療法

實物寫眞版木版五十個挿入 紙數三百七十頁 價壹圓廿錢 送料八錢

本書は最近の醫學及生理學より最も嚴密に男女生殖器に關するありとあらゆる諸問題を五百餘章に分ち何人にも分り易き樣最も通俗平易に興味深く詳說したる者なれば萬人の一讀すべき良書たり■發行所 東京神田表神保町二●振替東京壹七〇九壹番 島田書店

一國の興亡は航空機の威力如何に有り先づ國民は何人も航空機の智識なかるべからず ▲大好評▼

海軍機關中將男爵宮原二郎閣下閱 バチエラ、オブ、サイエンス井關十二郎先生新著

# 新式 飛行機の原理と模型製作法

▲說明圖繪及模型製作圖解二百個挿入・紙數三百餘頁・定價金壹圓廿錢▲小包料金八錢

宮原中將曰く――本書を一讀するに誤りなく能く其原理を最も通俗に說明し何人にも分り易く飛行機の理論や模型の製作法等を會得し得らるゝ樣詳說したる良書也

倉田白羊新著

# 最新 洋畫の手ほどき

最新刊 價壹圓廿錢 小包料八錢

本書の內容を四門に分ち一を挿畫鉛筆畫ペン畫肖像畫二を寫生、器物寫生樹木の描方人物の寫生、建築物、風景寫生、石膏寫生、三を彩色畫、淡彩畫、色鉛筆、色チョーク、草花寫生、水彩畫、油畫、四を圖案畫等にして理窟を廢めて何人にも實地に練習出來得る樣著述したる者なれば初學者には好個の指南車となり不明の箇所には現代廿名家の執筆したる百餘の圖畫を寫眞版として一々作例を示しあり

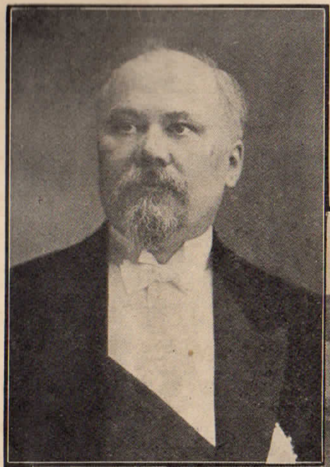
▲發行所 東京市神田區表神保町二番地 振替口座東京壹七〇九壹番 文盛館

## 英佛元首の握手

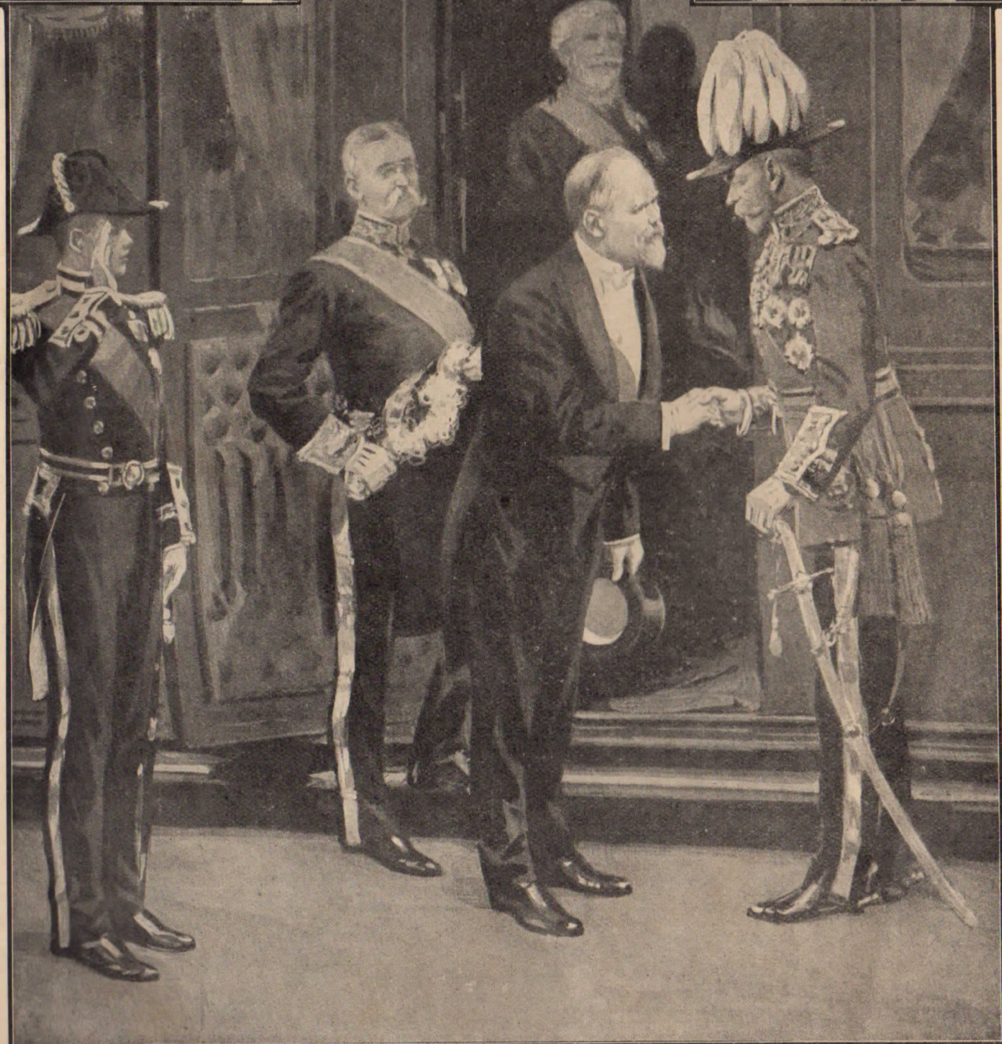
The Entente: The British Sovereign Greeting the President of France.



英國王ジョーヂ五世陛下



佛大統領ポアンカレー閣下



倫敦ヴイクトリア停車場の兩元首

# 露帝の觀戰

The Czar Reviewing the Manœuver.



皇帝ニコラス二世陛下

ツアルスコエ、セロ附近に於ける大演習の光景にして、上圖は砲兵陣地、中圖は觀戰中の皇帝（中央横向なるが皇帝。其傍に背を見せたるは佛國將校）下圖は歩兵の射擊。

# 世界的戰爭と時事新報

近世史上、未曾有の大事件たる、歐洲の大戰爭が始まりし以來「時事新報の讀者は非常に殖へた」現に尙ほ日々殖へつゝある、何故であるか、其の海外特電を始め、戰爭に關する内外の記事報道が總て迅速であり、正確であり、詳細であり、且つ公平であるからである「時事新報を讀まなければ、本當の事は能く分らぬ」とは識者の公評である、何事に就ても、信用を重んずる日本一の時事新報は、此の塲合に於て益々其の特色を發揮して居る。

議論より事實「先づ今日の時事新報を御覽あれ」

發行所 東京京橋區南鍋町二丁目 時事新報社

取次所は全國各地到る處に在り即時御申込ありたし

白塞國王と大公國主

Albert, King of Belgium.

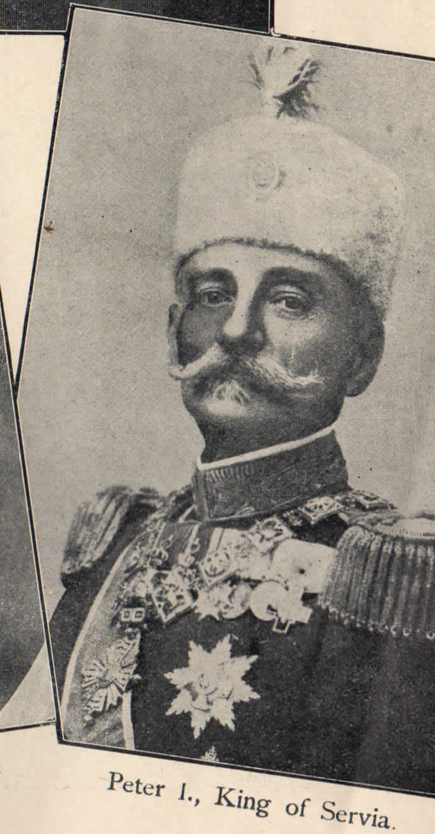


白耳義國王アルバート陛下



ルクサンブルグ大公國主マリー、アデレード殿下

Grand-Duchess Marie-Adelaide of Luxemburg.



塞爾維國王ピーター一世陛下

Peter I., King of Servia.

# 膠州灣青島

Scenes from Tsingtao, Kiau-tschow.

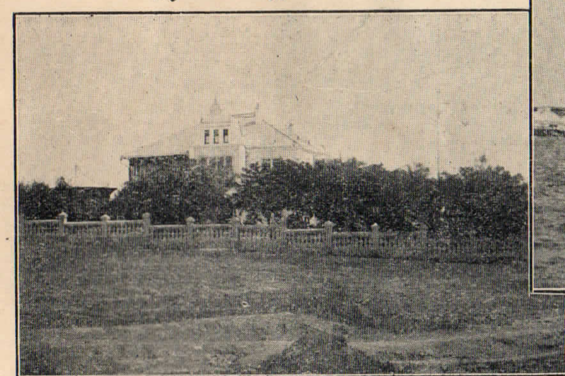
海軍陸戰隊

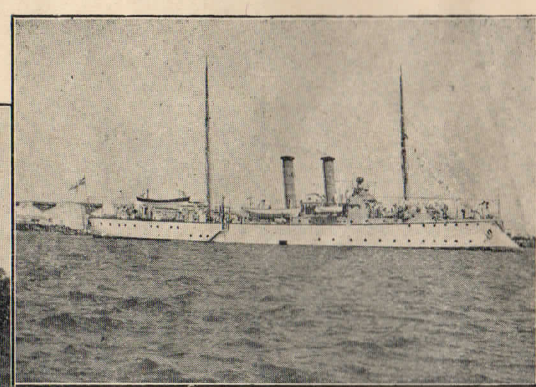




ビスマーク山上の兵營

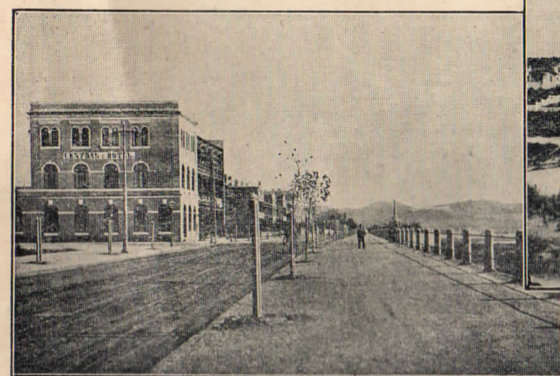
港務局

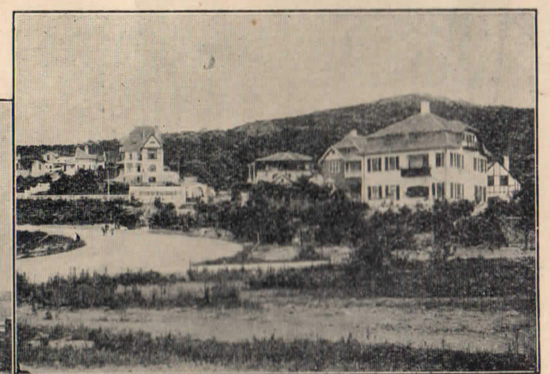




港灣防禦の砲艦

ウイルヘルム海岸通り





將校官吏の住宅

## 膠州灣青島

Scenes from Tsingtao, Kiau-tschow.

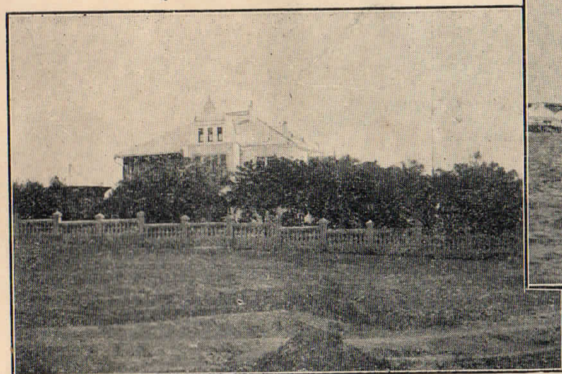
海軍陸戰隊

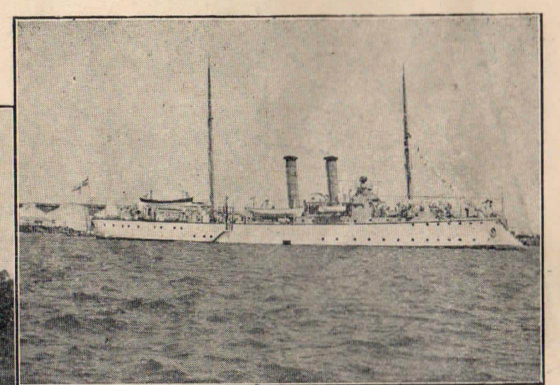




ビスマーク山上の兵營

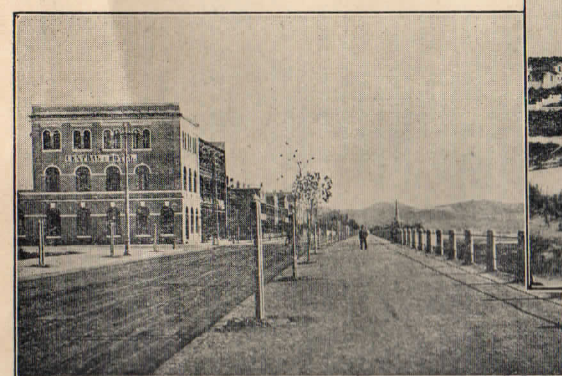
港務局





港灣防禦の砲艦

ウイルヘルム海岸通り





將校官吏の住宅



戰(丁の一)

# 洋畫講義録

水彩畫を始め油畫木炭畫肖像畫ペン畫等を頗る詳細に講述す毎號美麗なる挿畫多數あり

# 繪畫講習録

日本畫の技術と學科とを平易懇切に教授し初學者と雖容易に上達せしむ毎號著色繪畫多し當代一流大家教授、會費月卅六錢、一ケ年卒業。規則無料進呈

東京市麻布飯倉町四丁目 電話芝三九六八番 大日本繪畫講習會

# 洋畫材料品目録

無代進呈

百餘箇の精密なる圖を挿入したる詳細目録は御一報次第郵税を要せず無料進呈す可し好畫家必携の好冊子也

---

## 最古の新聞

# 東京毎日新聞

▲號を重ぬる一萬四千(歴史は信用を證す)

▲列強大戰亂 記事は敏捷正確を期す

▲齡を重ぬる四十五年(經驗は正確を語る)

▲新小説 **戰ひ女** 連日掲載 江見水蔭作 武内桂舟畫

## 最新の記事

▲本紙定價▲ 一ケ月廿三錢(新家庭共)郵税一ケ月十五錢 三ケ月前金に限り郵税共金壹圓(郵券代用一割増)

東京麹町區有樂町 東京每日新聞社 電話本局 二〇八六番 三〇八七番 五〇六八番 一七九〇番

---




# 歐洲大亂戰爭幻燈映畫

既製漸次新畫製出

●輕便電氣アーク燈用二丈寫金六拾圓●アセチリン瓦斯用一丈寫甲金五拾圓乙金參拾八圓●五本芯一丈三尺寫金參拾五圓 金參拾圓●四本芯一丈二尺寫金廿七圓●三本芯一丈寫金廿四圓 金貳拾圓●二號形三本芯六尺寫金拾壹圓●三本芯五尺寫金十六圓半

●幻燈器械並映畫定價表大册寫眞銅版密畫入明細表御入用の諸君二錢郵券を要す

●幻燈器械並映畫は小包郵便にて郵送す●郵便爲替拂渡局は藏前支局宛のこと

東京市淺草區御藏前片町(長電話下谷五五九〇番)(振替口座一五三三六番) 四世 **池田都樂**

---

# 野球と讀物

最新刊

■内外選手 **球界茶咄** 小泉葵南君著 竹久夢二君裝畫 定價金四拾五錢 郵税四錢

■**野球繪物語** 竹久夢二君畫 小生夢坊君作畫 定價金四拾錢 郵税六錢

■現行 **野球規則** 直木松太郎君解説 附試合記錄法 解譯問題 定價金五拾錢 郵税六錢

發行所 野球界社　發賣元 東京本町 博文館



---

以下十三種は百年後でも三重縣桑名弘報館で賣りますから思ひついた時買給へ

# 萬物製法秘術寶典

(目錄)輕便電氣燈●輕便電話機●輕便晴雨計●煙火●癇癪玉●齒磨●石鹸●洗粉●香水●紙石盤●のみ取粉●萬年草紙●メッキ法●リモナーデーやラムネ●ジンジャエル●滋養酒●蜜柑水●甘酒●味噌●醬油●水彩繪具●朱肉●空氣枕●萬年手帳●無刀彫刻術●酢●豆腐●甘露水●屠蘇酒●燒酎●葡萄酒罐詰等の手輕製造法其外器械いらず

**早取寫眞術** 器械不用 **早印刷**等**百**餘種記載してあるが皆諸君の家にあり合せの道具で出來るやうにしてある、殊に早取寫眞術は最新の發見にて名の如く器械を用ひず僅の藥品を混合して器械にて寫せし者と少しも變らぬやうに人物風景其他如何なる者にても大小の差別なく思ふ儘に即座に鮮明に寫し得る輕便大愉快なる寫眞術である藥品無き地方は弊店より送る、又器械にて寫せし通りに寫らざれば何時でも**返金**す、又早印刷法は器械を用ひずして繪でも文字でも大小の論なく速座に數百枚印刷する事が出來るから名刺書畫廣告其他如何なる者にても安價で綺麗に印刷する事が出來る、

定價郵税共廿二錢 郵便切手又は振替貯金なれば廿四錢

# 最新大奇術

(目錄)天空に文字を顯す術●天空に怪人の姿を顯す術●白晝を暗黑にする術●風を吹かす術●吹き居る風を止める術●妖光幻術●水の流れを止める術●人を空中に眠らす術●十字架の殺入術●忍術●仙術●夢に天國へ遊ぶ術●飛ぶ鳥を地上に落す術●切支丹バテレンの妖術●モルモット術●太き火箸を指先にて自由に曲げる術●金錢自由吸集の妖術●縄抜けの妖術●掛軸の鳥を鳴す術●髑髏を踊す術●口中にて廿本の針に絲を通す術●幽靈對話術●千里眼の寬術●ランプの火にて手を燒く奇術●火渡りの奇術●人の力を取り我身を重くし持ち上げられぬ妖術●**十字架殺人術**●八歳の子供を重ねて上られぬ術●武士道竹折術●火を喰ふ術●七**隱身術**●棒を手の平につけ押しても取れぬ術●二人で持ち居る棒を指二本で取る術●讀心術●二本の指にて大人を自由に上げる術●不動金縛りの妖術●數人にて一人を倒せぬ術●其外澤山記載してある、何人にも實行し得る獨習書なれば早く求めて友人を驚かすも亦愉快であらう。

定價郵税共二十三錢 切手代用廿五錢

# 最新奇術手品種あかし

何れも實驗ずみにて何れも口上附にしてある手品のみなれば酒席又は多人集會の折に手品をして見せて拍手大喝采を得ば愉快ならん(目錄)鳥の首を切りて再び生す法●德利の口より噴水の法●煮たる蟹をはわす法●天理王天降りの法●豆を口に入れて眼から出す法●暗夜に幽靈を顯す法●煙管を踊らす法●コヨリにて火を釣る法●箸の上に玉子を立てる法●室内に景色を顯す法●卵を雀にする法●座敷中を化物屋敷にする法●水中に火のある玉をころがす法●伏せたる茶碗の中の文字をあてる法●盃の酒を切つて半分飲む法●他人の所持金をあてる法●不思議な水の驚術●他人の思つて居るカルタを當てる法●水上に文字を浮す法●指先にて火を點す法●火の中から鳥を出す法●白紙に煙を吹き掛け文字を顯す法●銀貨をふやす術●口中より火焔を吐く術●針を飲む術●鬼火の妖術●月世界の術●豆腐の上にて獨樂を廻す法●籠に水を入れ魚を游す法●熱湯中に手を入れる法●火を喰ふ大奇術●空の帽子から色々の物品を取り出す法●亦インキを金魚にする法●三尺の棒を丸呑みにする術●錢を水上に浮す法●水を燃す大奇術●附錄には**驚神的大魔術**其他まだ〳〵澤山記載してあるが皆子供で出來る者許であるから安心して買ひ給へ

代價郵税共廿二錢 郵便切手又は振替貯金なれば廿四錢

本書は世にありふれたる種あかしの類にあらず著者は

---

# 禮法及婚姻法

日本の禮法に關する[illegible]結納の[illegible]●婚禮の支度[illegible]三九度盃の仕方●嫁の舅姑と親子盃の仕方●[illegible]時の心得●[illegible]●其他婚姻に關する事柄は最大洩らさず附錄には婚姻出産其他に關する法令を大略記載しある、實に斯道の大寶典なり。郵税共廿四錢

日本美人 **裸體寫眞** 六枚一組郵税共三十二錢

西洋美人 **裸體寫眞** 六枚一組郵税共三十二錢

◎繪本 **樂み草紙** 郵税共卅五錢

◎男女 **生殖器の研究** 郵税共卅五錢

# 學理應用 世界奇術大全

如何程黑き人にても白色になる法●必ず子供を設くる法●必ず子供を姙まぬ法●胎内の兒の男女を知る法●人間百歳迄長壽する法●人の生死を前知する法●胎内の兒を男女自由にする法●顏を櫻色にする法●カルタに必ずまけぬ法●日に燒けぬ法●書き損ひの字を拔く法●首字速成術●髮の毛を黑くする法●記憶術●身體を肥す法●身體をやせさす法●龜の綠毛を生ず法●百日眠らずとも氣力衰へぬ法●縄なくして人を縛する法●他人の年齡をあてる法 附錄 **催眠術自由自在** 其他百餘種記載してあるが何れも實地に出來得る者許りなれば諸子是を繙かば蓋し益する所尠くあるまい

代價郵税共廿三錢 郵便切手なれば廿五錢

# 一讀千笑 滑稽頓智笑話

泣いて暮すも一生笑ふて暮すも一生笑ふ門には福來る早く讀めアゴをはづさぬ用心して腹をおさへて讀み給へ本書を讀んで居れば退屈する時がない。郵税共廿四錢

# 道具不用 食パン和洋菓子製造法

皆さんの家に有り合せの道具で食パンや其他ドンナ和洋菓子でも子供にて直に製造が出來るやうにしてある本は買うたが菓子は出來ないと云ふ事のないのを請合ひます

郵税共廿三錢 郵券代用は廿五錢

# 一名 無上の快樂

定價郵税共廿四錢 郵便切手又は振替貯金なれば廿六錢

本書の内容は公に廣告する必要はないが本書を見れば男女共無上の愉快なる者が何物なるかを知ることを得ると思へばよろしい。(人に見つからぬやう嚴封にて送ります)

# 大好評 機械不要 輕便早取寫眞インキ

特別上製 大瓶一個(説明書付) 郵税共十二錢

此インキを塗りて製したる原紙と他に一枚の普通ガラスさへあれば他に機械藥品を要せず人物風景凡て其通り美麗鮮明に速寫するを得て愉快限りなし萬一寫らざる時は返金す安心注文せよ●本品を用ひて自分の肖像入繪葉書、名刺を製せば大愉快ならん●説明書は丁寧説明細なれば誰にもよくわかる

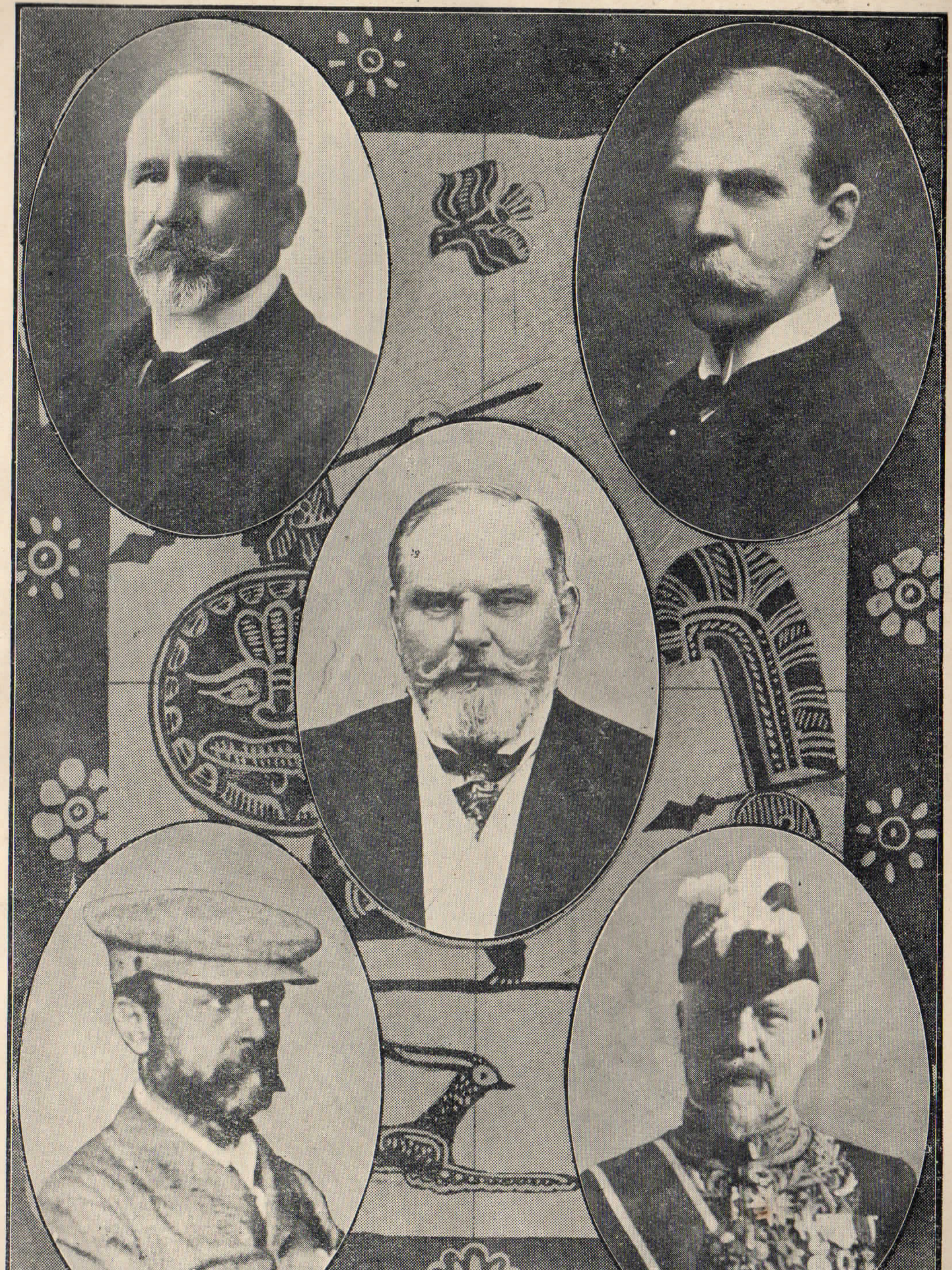
發賣元 三重縣桑名矢田磧 **弘報館** 振替口座(東京一六九二八番)(大阪一四五一七番)

## 本邦駐剳列强大使

Amb ssadors of the Powers in Tokyo.

露國大使マレーウイッチ閣下

英國大使サー、グリーン閣下



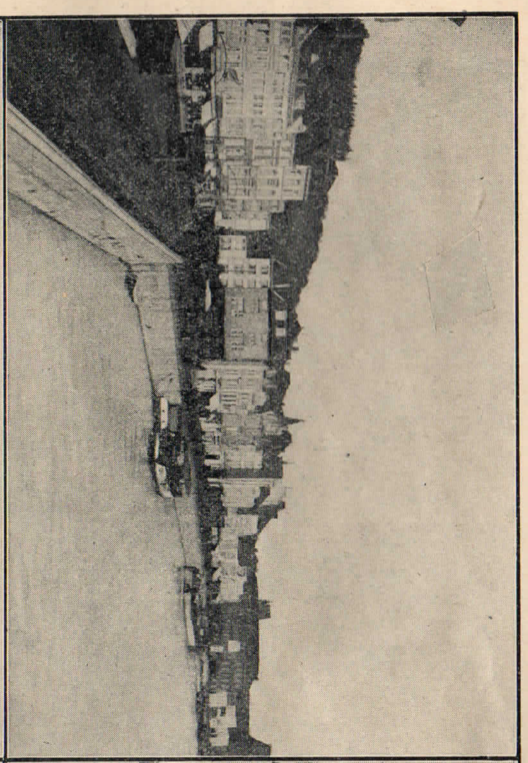
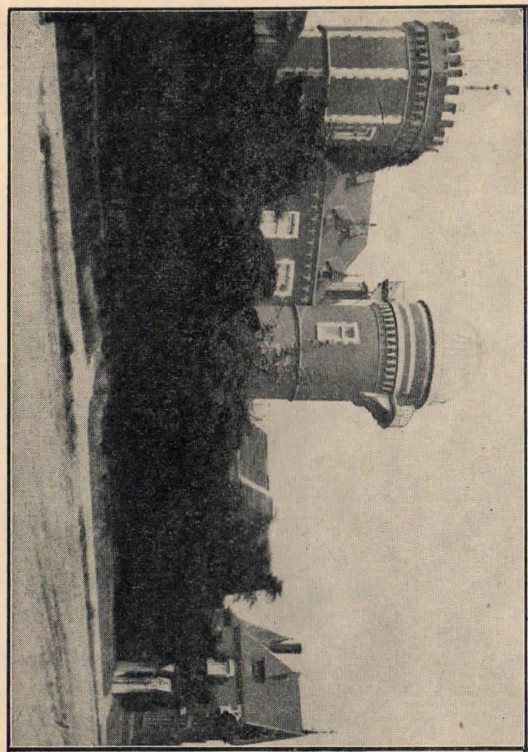
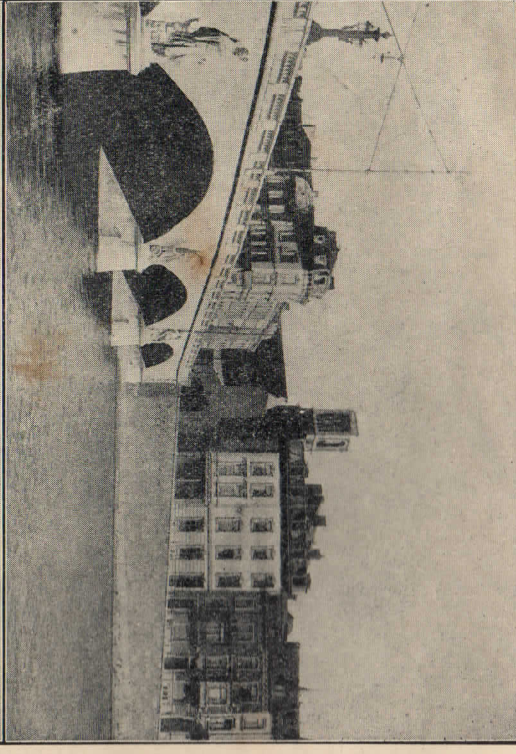
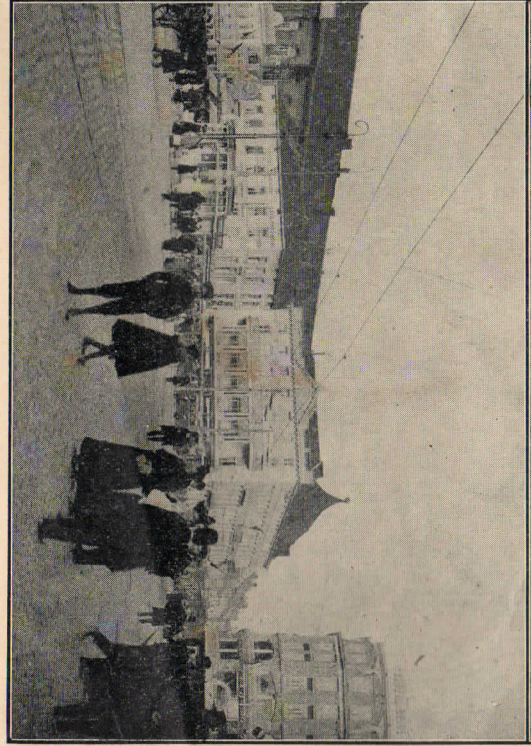
墺洪國大使男爵ミユルレル閣下

佛國大使ルニヨール閣下

獨國大使伯爵レツクス閣下

獨逸軍を撃退しつゝある白國リエーデ市

Views from Liege, a city of the brave Belgian.

バッド河岸通り

天文臺

レオポルド橋

サンランベルト街（裁判所前）

本誌三九頁の市街圖を參照せよ。レオポルド橋はサン・ラムベルト街より右方に當る橋。
バッド河岸は此橋より下流の河岸。天文臺は圖中左の下隅にあり。

# 詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本國皇帝ハ忠實勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ獨逸國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海軍ハ宜ク力ヲ極メテ戰鬪ノ事ニ從フヘク朕カ百僚有司ハ宜ク職務ニ率循シテ軍國ノ目的ヲ達スルニ勗ムヘシ凡ソ國際條規ノ範圍ニ於テ一切ノ手段ヲ盡シ必ス遺算ナカラムコトヲ期セヨ

朕ハ深ク現時歐洲戰亂ノ殃禍ヲ憂ヒ專ラ局外中立ヲ恪守シ以テ東洋ノ平和ヲ保持スルヲ念トセリ此ノ時ニ方リ獨逸國ノ行動ハ遂ニ朕ノ同盟國タル大不列顛國ヲシテ戰端ヲ開クノ已ムナキニ至ラシメ其ノ租借地タル膠州灣ニ於テモ亦日夜戰備ヲ修メ其艦艇荐ニ東亞ノ海洋ニ出沒シテ帝國及與國ノ通商貿易爲ニ威壓ヲ受ケ極東ノ平和ハ正ニ危殆ニ瀕セリ是ニ於テ朕ノ政府ト大不列顛國皇帝陛下ノ政府トハ相互隔意ナキ協議ヲ遂ケ兩國政府ハ同盟協約ノ豫期セル全般ノ利益ヲ防護スルカ爲必要ナル措置ヲ執ルニ一致シタリ朕ハ此ノ目的ヲ達セムトスルニ當リ尚努メテ平和ノ手段ヲ悉サムコトヲ欲シ先ツ朕ノ政府ヲシテ誠意ヲ以テ獨逸帝國政府ニ勸告スル所アラシメタリ然レトモ所定ノ期日ニ及フモ朕ノ政府ハ終ニ其ノ應諾ノ回牒ヲ得ルニ至ラス

朕皇祚ヲ踐テ未タ幾クナラス且今尚皇妣ノ喪ニ居レリ恒ニ平和ニ眷々タルヲ以テシテ而カモ竟ニ戰ヲ宣スルノ已ムヲ得サルニ至ル朕深ク之ヲ憾トス

朕ハ汝有衆ノ忠實勇武ニ倚頼シ速ニ平和ヲ克復シ以テ帝國ノ光榮ヲ宣揚セムコトヲ期ス

御名御璽

大正三年八月二十三日

各大臣副署




第一巻第一號
大正三年八月二十五日發行

# 發刊の辭

突如、歐洲全土の平和破れて、修羅場の喚聲悽慘たり。其の影響する所、全世界に及び、吾が帝國また人道正義のために蹶起せり。有史以來地球全面に亙りて戰雲の暗澹たる實に今回の如きは莫く文明の歷史は將に一大廻轉をなさむとす。これ我れ等が奮闘努力して、帝國の偉大なる發展を計り、進んで世界文明に多大の貢獻を爲すべき時機なり。こゝに本館が本誌を發行する所以は、豈只大動亂の詳報を確實に傳へむと欲するのみならんや。併せて列强の現勢を紹介し、以つて國民の大活動に好個の材料を提供せんとするに在り。自覺せよ、帝國は當に世界人類の運命を支配すべき强大國たり。我が日本魂の眞價を世界に發揮すべきは此の刹那なり。

# 帝國政府の聲明

## ◉對獨最後通牒

△外務省公表

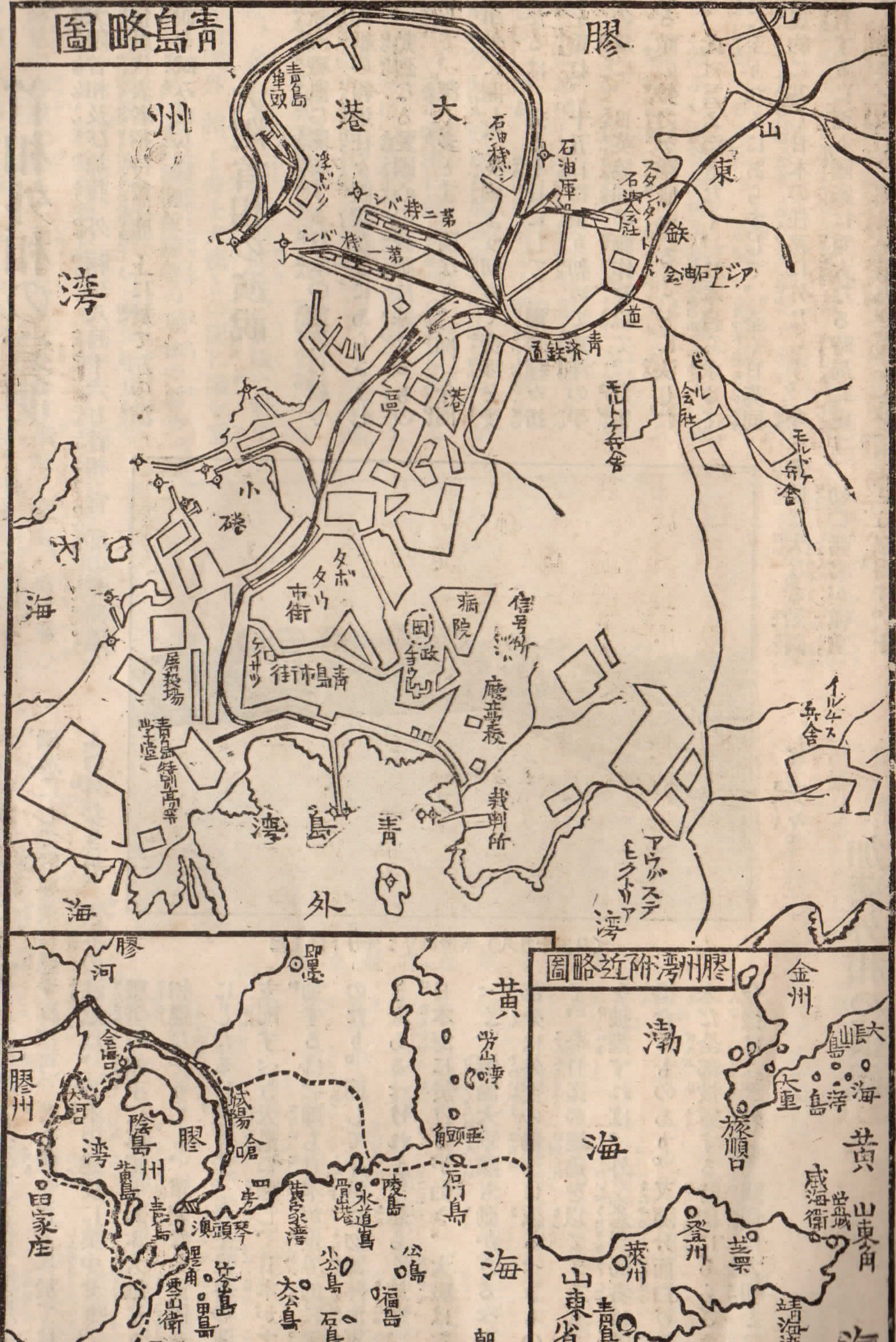
帝國政府は現下の狀勢に於て極東の和平を紊亂すべき源泉を除去し日英同盟協約の豫期せる全般の利益を防護するの措置を講ずるは該協約の目的とする東亞の平和を永遠に確保するが爲めに極めて緊要の事たるを思ひ玆に誠意を以て獨逸帝國政府に勸告するに同政府に於て左記二項を實行せられむことを以てす

第一　日本及支那海洋方面より獨逸艦艇の即時に退去すること、退去すること能はざるものは直に其武裝を解除すること

第二　獨逸帝國政府は膠州灣租借地全部を支那國に還付するの目的を以て一千九百十四年九月十五日を限り無償無條件にて日本帝國官憲に交附すること

日本帝國政府は一千九百十四年八月二十三日正午迄に無條件に應諾の旨獨逸帝國政府よりの回答を受領せざるに於ては帝國政府は其必要と認むる行動を執るべきことを聲明す（八月十六日發表）



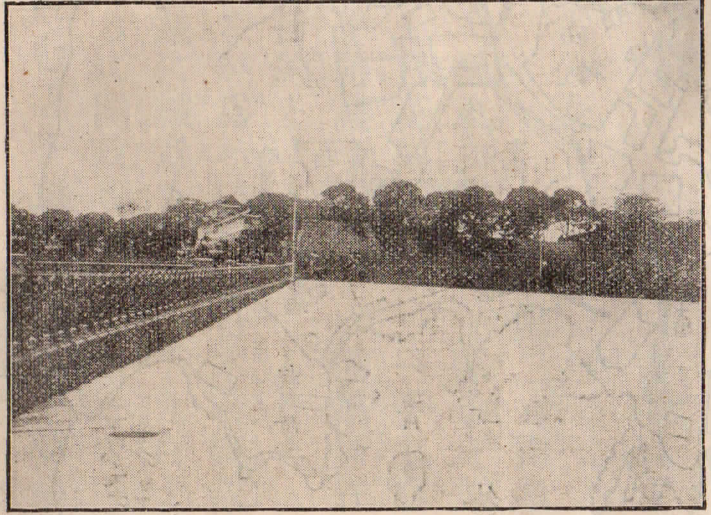


# 首相外相の宣明

大隈首相及び加藤外相は八月十六日首相官邸の新聞通信社代表者招待會席上に於て左の演説を試みたり。

## 大隈首相の演説

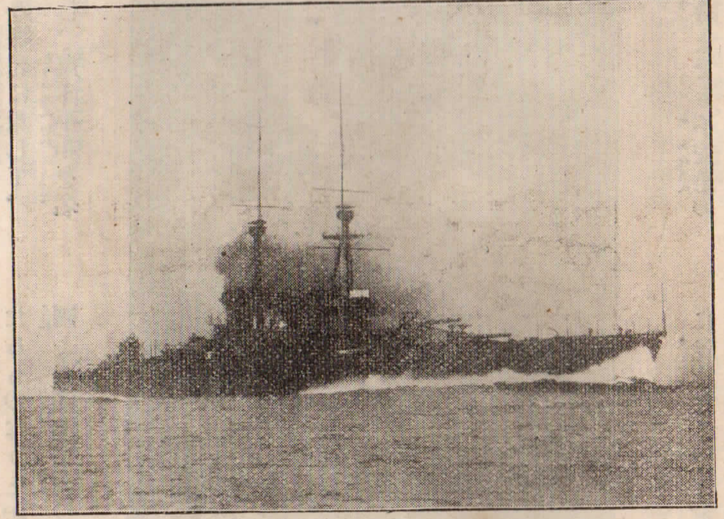
歐洲戰亂に關聯する日本の態度に就き新聞紙の報道往々誤謬なきにあらざりしも、熱烈なる愛國心の發動に基けるものにして、深く多とする所なり。抑今回の事件に關し、英國より初めて交涉を受けたるは、去る七日にして、爾來種々折衝を重ね、十五日に至り初めて東洋の平和の爲に、日英協同の動作を以て、危害ある敵の勢力を擊破することに決したり。此は言ふ迄もなく、日本自ら求めて茲に至りたるにあらずして、全く日英同盟規約に基く日本の任務に外ならず。今や我國は大なる敵國を有するに至り、國家は重大なる時局に處す。切に諸君が愼重なる態度を以て、國民を指導せんことを望まざるを得ず。十六日御裁可を經て外交上、所謂最後通牒を獨逸に送りたり。獨逸にして我要求に應ずれば可、若し應ぜざるに於ては、戰ふの外なきが、世界の注意は、日本の態度に集中せり。日露戰爭の相手は露國と云ふ大敵なりしに相違なかりしも、單獨なる露國を相手にしたるに過ぎず。今や世界の運命を支配すべき大亂に際し、日本が之に參加するは、即ち日本が世界的に働くものたり。而して今回は勿論陸海軍の働きもあるべけれど、恐らく旅順、奉天、日本海に於けるが如き、大戰はなかるべく、無論大軍隊も動かざるべく、大部分は外交の働きに依るべきものにして、今日迄の經過を以てするも、全部を披瀝すれば、外交當局者は苦心慘澹たるものあり。又隨分面白けれど、未だ全部披露する時機にあらざるが、今後は益外交關係は大切となるべし。云々。



聖上陛下日光より御還幸（八月十五日）

## 加藤外相の演説

今回の動亂に際し日本の態度は各國より注目されたるが、我國の態度は曩に諸君を煩はし、新聞紙上に發表（外務省公示）したる通りにして英國之が渦中に投じ、且禍亂東洋に及ぶにあらざる限り、我國は無關係たるなり。然るに其後英國も戰爭に參加し、而して東洋に於ては、砲火相見ゆると云ふが如きことなしと雖も、相互に商船を追擊又は拿捕し、既に戰爭狀態を成せり。七日に至り、英國政府より我國に對し、東洋方面に於ける英國貿易威嚇さるゝが故に、之が救濟に就き適當の助力を借ることを得ば、仕合なりとの要求ありたり。之に應ずるは日本の義務にして、且我國の爲にも利益なるを以て、爾來我國にては、余と英國大使との間に、英國に於ても同國外相と井上大使との間に議を重ねたるが、通信機關故障等の理由の爲め、案外手間取たるが結局、日英同盟規約の豫期せる、利益保護の方法を講ぜざる可らずとの兩國政府の意見の合致を見るに至りたり。左れば獨逸に對し、直に戰ひを宣し、戰鬪行爲に移るべき筈なれども、日英兩國政府の所期は東洋の平和にあり、平和の手段を以て目的を達し得れば、結構なるが故に、成功甚だ覺束なけれど、獨逸に對し要求を爲すことに決し、十五日御裁可を得、同日直に一方船越代理公使をして、獨逸政府に他方當地に於ても、獨逸大使レックス伯に對して、之を交付したるが、前後返答期間九日を附したり。外交上の慣例に依れば、最後通牒なるものは普通二十四時間、若くは四十八時間を限れるに、今回九日間となしたるは、通信機關不備の爲め、自然遲延せんことを慮れたるに依る。之に對して獨逸が如何なる回答を爲すかは、全く豫期する能はず。各人見る處に任すの外なきが、我國は戰はずして目的を達するを得ば、幸ひ之より大なるはなし。若し期限内に獨逸が回答をなさゞるか、若くは其回答不滿足にして、無條件を以て我要求の全部を容れざるに於ては、不祥ながら我國は、直に戰鬪行爲に移り、日英同盟の目的を遂行せざるべからず。以上大體の經過にして、其詳細は未だ之を公表する能はざるを遺憾とす云々

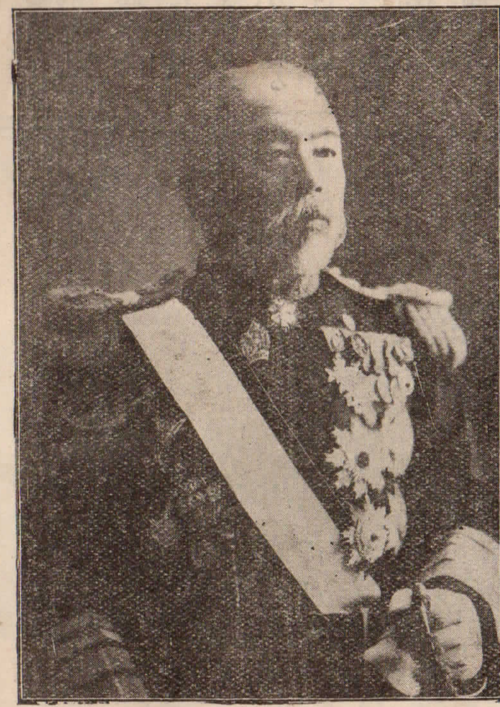


帝國弩級巡洋艦金剛

# 二十年前の回顧

讀者よ、回顧すれば二十年前、日清戰役の終局に際して、獨逸は、或る他の二國と共に、我が國に對し、東洋平和を名として、遼東半島の還附を勸告したりき。忠勇なる國民の血を以つて占領したる該半島は、終に清國に還附せざるを得ざるに至れり。此の苦き經驗は今尙ほ吾人の記憶中に鮮なり。當時本邦に駐劄したる獨逸公使が、我が外務省に送りたる勸告文には、羅馬字綴の和譯文を添附しありたり。曰はく

獨逸國政府が日清媾和の條件を見れば貴國より請求したる遼東の所有は清國の都府をして何時までも不安全の位地に置き、且朝鮮の獨立をも水泡に屬させ、因て東洋平和の永續の妨げになることであると認めなければなりませぬ。夫故に貴國政府が遼東の永久なる所有を斷念なさるやうに、本政府が御勸告致します。



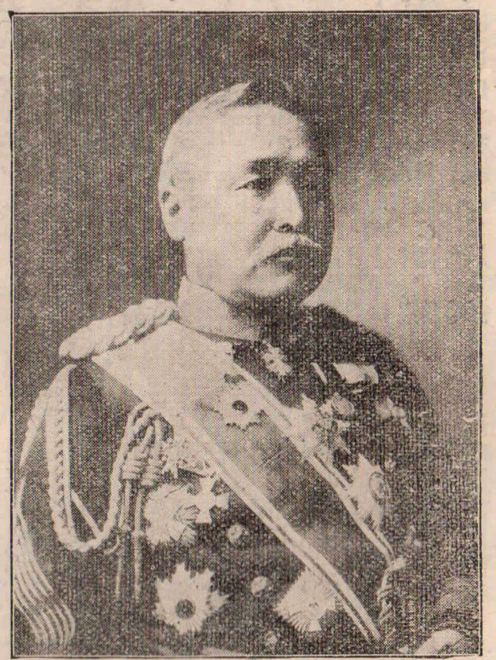
出羽海軍大將

尙此の原文中には『貴國弱く我國强し、若し戰を交ゆれば貴國敗れむ』との文字ありしも、我が注意に由りて削除したるものなりとか。今や圖らずも彼我位地を顚倒して、我が國より獨逸に向つて、誠意の膠州灣還附を勸告す。天の配劑また妙なるかな。

## 獨逸の膠州灣租借

獨逸帝國は日清戰役に關する彼の干涉の報酬を獲むことを欲し、竊かに機會の到來を待てり。然れども一八九七年希土戰爭起りて歐洲列强の關係亦平時の如くならず、獨逸はいかに策略を廻らすも、東洋に於ける勢力を擴張する能はざりき。然るに銳敏なるカイゼルは、先づ露と結ぶの必要を感じ、同年八月露國を訪うて親交の誠意を表しぬ。越えて十一月一日山東省袞州府に於いて獨逸宣敎師二名殺害され、其の原因は山東省巡撫李秉衡の煽動なりとの報傳はるや、獨逸は此の機逸すべからずとなし、同十七日巡洋艦四隻に命じて、山東省東岸の膠州灣を占領せしめ、更に皇弟ハインリヒ親王を極東巡洋艦隊司令官に任じ、三艦を東洋に派遣したり。かくして清國政府に向つて强硬なる外交談判を持ち込み終に同灣を爾後九十九年間租借すること、若し此の期限內に支那が還附を迫る時は獨逸が同島の經營に投じたる資金全部を辨償し且他に之に替る良港を割讓すること等の權利を得たり。

爾來獨逸は青島の經營に全力を注ぎ、先づ西北風を防ぐ大防波堤を築き、市街に水道を設け、諸方に植林し、諸官衙、學校、病院、絹絲紡績工場、麥酒釀造所、煉瓦製造所等を開けり。防波堤內は二百二十五萬平方メートルにて六千噸の船舶十二隻を一時に入るゝに足る。港灣の幅は三百メートル深さ九メートルといふ。同地は風光明媚にして氣候溫和なれば、啻に軍港商港としてのみならず、また海水浴場として最も適當なり。今日の人口約六萬、其內日本人三百あり。獨逸殖民地の行政監督權は、すべて外務省に屬するも、獨り膠州灣のみは海軍大臣の指揮の下に在り。なほ同所の兵備は次の如しといふ。



第十八師團長陸軍中將神尾光臣君

△陸軍步兵五箇中隊（內第二中隊半數（△機關銃隊第五中隊（全部乘馬步兵）△野砲兵一箇中隊△工兵一箇中隊△海軍要塞砲兵五箇中隊△駐屯兵五百名△豫後備兵二千五百名△合計六千名。

外に秩序維持のため、國民軍を組織しあり。其の數百餘名といふ。要塞司令官は、膠州灣總督海軍大佐マイヤー、ワルデルヒ氏なり。同氏はトルフペル中將の後を襲ひたる人にて敏腕家の聞えあり。參謀長は海軍大佐サクザー氏なり。なほ現在の艦艇は左の如くなりとか。

旗艦シャルンホルスト△巡洋艦
　グナイゼナウ、エムデンの二隻
砲艦タイガー、イルチスの二隻△水雷艇エスクヂユ△測量船コンドラ△運送船チタニア△捕獲の露國義勇艦ラャチエン（リャザン？）及び墺艦カイゼリン、エリサベット
△合計十隻

# 大戰亂の由來

## 開戰前の列強國關係

墺地利匈牙利帝國の新領土、ボスニヤ州の首府サラエヴォに於て、今年六月二十八日の朝、皇太子フェルヂナンド太公夫妻が、刺客の短銃に斃れてから、一波動いて萬波沸き、忽ち世界未曾有の列強國大戰爭を引き起した。

其の墺匈國皇太子暗殺が、何故に大戰爭の原因と爲たかと云ふに、其の暗殺の陰謀が、隣邦塞耳比亞王國の參謀本部に於て、秘密の間に計畫せられたといふので、墺匈國上下が烈火の如くに怒り出したからだ。殊に墺匈國の背後には、關係の最も密接なる同盟國の獨逸が、常に助言操縱して居る故機會あらば塞國を併呑せんと期して居るので、好機乘ずべしと爲し嚴重なる談判を塞耳比亞に對して提出し、若し要求に應せざれば、直ちに最後の手段に訴ふべく迫つた。塞耳比亞王國小なりと雖も、近年土耳其及び勃牙利の二國と、兩度戰ふて勝ち、漸く境域を廣め、更に大に國勢の發展を期する矢先とて、何でふ不當の要求に應ずべき、回答はしたが、要求の要點を拒絶した。是に於て塞耳比亞駐在の墺匈國公使は、七月二十五日に首府ベルグラードを引揚げ、續いて七月二十七日、終に墺匈國は塞耳比亞に對して宣戰を布告し、同日から兩國軍の一部は既に砲火の交換を始めた。

茲にまた塞耳比亞の背後には、同一スラブ人種の露西亞が在て、常に同人種間の盟主として援けて居る。殊に往年日露戰爭の結果、露國軍備の疲れて居るを好機として、獨墺兩國が、露國に對し傍若無人の動作を縱にしたるも、當時露國の上下は切齒して辛抱し專ら國力の恢復を圖り、今は最早十分に戰鬪力が整頓したので、先づ墺匈國に對して、塞耳比亞に對する要求の寛和を望み、若し其れが聞かれぬ場合に備へんとて、七月二十四日の夜に御前會議を開き翌日の夜歐露の全陸軍に大動員令を下し二十八日の樞密會議には露國皇帝親臨して『吾人は最早隱忍すること七年有半に及べり』と斷言して、帝の決心を明かにせられた。去れば墺匈國の力で塞耳比亞を攻れば、忽ちに殲滅することは出來るが、更に露西亞帝國が塞耳比亞を助けるとなつては、實に容易ならぬ大事である。是に於て今まで陰に隱れて墺匈國を操縱したる獨逸皇帝も、此時忽ち表面に現はれ、露國に對して動兵を止められたいと要求し、若し聽かざれば、獨逸もまた兵力を以て同盟の墺匈國を助くべしといふ最後の通牒を送つたが、今は戰備の整頓したる露國が、何とて其の要求に應ずべき、期限に至つて之に答へない。スルと兼ねて期したる獨逸では、最早先日來秘密の間に自らも動兵して居たから、電光石火の如き機敏を以て、兵を露國の境に進め、八月一日には、早くも兩軍巡羅兵の衝突を見るに至つたから、同日、露獨兩國互に宣戰を布告した。

獨逸が墺匈國と同盟國であると同じく露西亞と佛蘭西とがまた同盟國である。殊に佛蘭西は過る千八百七十年及七十一年の大戰爭で、獨逸の爲に大敗し、二十

巴爾幹諸國の略圖

（地圖中線を引きたる部分は昨年バルカン戰後諸國の新に獲得したる土地即ち土耳其の失ひたる領土とす）



億圓の償金と、アルサス、ローレンスの二州を割讓させられて、國民の遺恨骨髓に徹し機會だにあらば報復せんと、上下日夜渇望して居たのだから、直ちに同盟國の露西亞と共に獨逸と戰ふべく、全國に動員令を發した。去れば獨逸は露佛兩國の爲に、腹背に敵を受くる形勢と爲たので、先づ大兵を西に向けて、佛軍を擊ち破つてから、更に轉じて露西亞軍に向はんとの作戰を定めた其の佛軍に向ふには、西隣のルクセンブルグ太公國と白耳義王國とを通過して進出するのが最も便利であるが、兩國ともに、歐洲列國間の條約に依て、久しき前から、永久中立國と定められ、濫りに兵を其國内に入れられぬことと爲て居る。然れども今は獨逸の爲に危急存亡の時機と爲たから永久中立なんどを遠慮して居られぬ。で、終に大兵をルクセンブルグ太公國と白耳義とへ進入せしめた。



セラエヴオーに於ける墺皇太子及同妃の暗殺事件（六月二十八日）

ルクセンブルグは、日本の一郡ほどな小邦で、トテも獨逸の亂暴にも抵抗は出來ぬが、白耳義は小國ながらも相當の軍備を有ち、上下擧つて勇敢の國民とて、不法に侵入したる獨逸軍に對し猛然起て應戰し、激戰は早くも此所に始まり、獨逸は圖らずもまた白耳義といふ一敵國を呼び起した。斯くて波瀾は益ます大と爲り、今まで英吉利は局外に立て獨墺露佛伊塞列國の爲に、調停の勞を執て居たが、本來英國は他の佛露二國とは協商して、緩急相救ふ約束がある。去れば愈いよ時局が破裂せば、佛露と行動を共にすべき國である上に、獨逸とは久しく海上の權力を競爭して、互に機會あらば、他を斃して、國利と國權とを擁護せんと計畫して居た。尚ほまた白耳義の永世中立國たることは、從來英國が白國の背後に立て之を維持して居くのだ。然るに今獨逸軍は理不盡に此永世中立國へ進入したから、最早英國も傍觀する能はず、終に八月五日を以て獨逸に對して宣戰を布告し、同時に海戰は北海に於て英獨の間に始まつた。去れば全歐羅巴列强國の中で、唯だ伊太利が局外中立を宣言したのみで、其の他は一方に獨墺二强國の連合して八方に當るあれば、他方には露、佛、英の三强國と、白耳義及び塞耳比亞との外に、塞の隣邦の黑山國まで、起てスラブ民族の塞耳比亞に味方し、墺匈國に對して宣戰を布告したので、各國ともに宛から蜂の巣を突き壞した樣に大騷ぎとなり、其の餘波は歐羅巴に止らず、極東にまで及ぼし、英吉利の同盟國たる我が日本帝國も、また動くに至り、實に世界開闢以來未曾有の大戰亂とはなつたのである。



暗殺されたる墺國皇太子フランツ、フエルヂナンド公及同妃と王子

開戰後の戰況は詳かに追々叙すべく、以下先づ開戰に至るまでの事情に就き、更に委しく項を別ちて述べることゝす。開戰前の各國の形勢も次號以下に委しく述べやうと思ふ

## 墺匈國皇太子暗殺事情

歐羅巴列國大戰爭の原因は、元來種々なる歷史上の關係が

紛糾かつて、何時か一度は破裂すべく、低氣壓は次第に強くなつて來た所へ、圖らずも墺匈國皇太子の暗殺が導火となつて忽ち大破裂と爲たのだから、種々な遠い原因を語る前に、先づ此の皇太子及夫人暗殺の事情から述べよう。

墺匈國の南隣に、ダニューブ河を境として塞耳比亞といふ一國がある、國の面積は一萬八千六百五十平方哩で、我が北海道よりも小さく、人口は二百九十餘萬の小國であつたが、昨年七月のブカレスト條約によりて、大に領土を擴張し、今は三萬三千八百九十一方哩、人口四百五十七萬九千餘である。國民の大部分は露西亞と同じスラブ人種で、露國と同じ希臘正教を奉じ、平時には二萬四千四百餘の陸軍が、戰時には三十五萬二千と爲り、國民擧つて勇敢で、近く數年の間に一たび隣國の土耳其と戰ふて勝ち、續いてまた隣國の勃牙利と戰ふて勝たので、國民自ら東歐に於る日本と稱し、鼻息頗る荒く、漸やく國境を廣めて、巴爾幹半島の盟主と爲らんと期して居る。其國は北方に墺匈國と境を接し、南は希臘、東は勃牙利、羅馬尼、西は黑山、アルバニヤの諸國の間に介まつて、舊時は土耳其の一部分であつたのが、一千八百三十年に自治權を得、今から三十三年前なる千八百七十八年露土戰爭の結果、媾和條約に因て獨立王國と爲た。ダニューブ河岸のベルグラードを國都とし、將來は西隣の黑山國と合同して



墺皇太子及同妃の暗殺されたるセラヱヴオの市の全景



其の境域をアドリヤチック海の岸に擴げ、附近の同民族國を併せて、大塞耳比亞國を建設せんと欲し、隣接の黑山國もまた之を喜び、塞王ペートル一世と黑山王ニコラスの瞑目したる後は塞國皇儲アレキサンドルは未來の塞黑合同國の王位に即くであらうとは、近來一般に信ぜらるゝ所である。また此等のスラブ民族國が巴爾幹半島を横斷して、アドリヤチック海まで頭角を現はすといふは、背後に在る彼等同民族の盟主露西亞の多年希望する所である。而して同人種で、同じく前には土耳其領であつた所のボスニヤ、ヘルツエゴヴヒナの二州は、黑山國の北方に連接して、細長くアドリヤチック海に沿ひ塞耳比亞人が大塞耳比亞主義としては、黑山とゝもに合同して一國を爲すべく期して居たのに、日露戰爭の敗戰で、彼等の盟主なる露西亞が、疲れて立つ能はざるを好機として、墺匈國は、ボ、ヘ、兩州を自國と合併して了ふた。此時露國皇帝は、地團太踏で憤激したが、力足らずして空しく手を引た。其の墺匈國の背後には獨逸の皇帝が策を授けて之を決行したのだ。露國皇帝が今回開戰前の樞密院會議に臨み『吾人は最早七年有半我慢した』と斷言せられたのは偶然で無い。斯くして獨逸の目的は、ボ、ヘ、二州を墺匈國に併せ、更にボスニアから巴爾幹半島を縱貫してマセドニヤを過ぎ多島海のサロニカ港に出で、以て半島の盟主とならんとするので、丁度、露西亞の巴爾幹半島横斷策と、獨逸の同半島縱貫策とが、斷へず暗闘を續けて居る。塞耳比亞は其の中間に立て、而かも露土戰爭の結果、戰ひ勝つたる露西亞の爲に獨立し、露西亞の後援の下に發達したのだ。



セラヱヴオに於ける墺人のセルヴイア人排斥熱
（諸種馬車の破壞）

形勢此の如くであるから、墺匈帝國の爲には、塞耳比亞及黑山の二國は目の上の瘤で、殊に新附のボスニヤ、ヘルツエゴビナの二州も何時塞比耳亞と呼應して、反旗を飜へすかも知れぬので、斷へず其れに備ふる計畫を怠らぬ。去れば今年も六月末に、ボスニヤ、ヘルツエゴビナの二州に於て行はれたる陸軍大演習は、第十五、

第十六の兩軍團を以て、塞、黑二國を想定の敵として擧行せられ、墺匈國皇太子フェルヂナンド大公には、自ら統裁して大演習地に臨み、月の二十七日大演習を終へ、翌る日ボスニャの首府セラエヴオーに入て、其所に待ち受け居たる最愛の夫人と共に、圖らずも暗殺の災厄に遭ふに至つたのだ。

## 墺匈國皇太子夫妻の横死

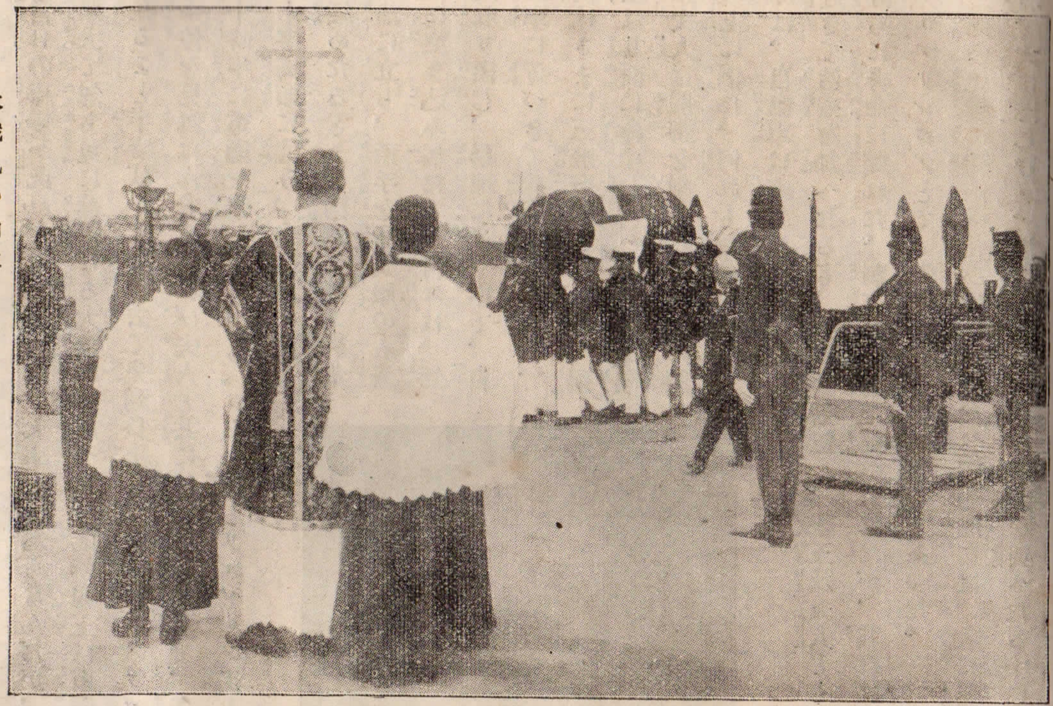
茲に墺匈帝國の皇太子フランツ、フェルヂナント親王と申さるゝは、現皇帝の弟カル、ルードウキッヒ親王の子で、千八百六十三年に生れ、今年五十二歲であつた。現皇帝は今年八十五歲の高齡を以て、不幸にして長男の皇儲ルードルフは、或る事情の爲に無慘にも自殺せられ、他に男子無く、皇姪フランツ、フェルヂナンド親王を皇太子としたのであるが、親王は生來不覊剛邁の氣質で、皇帝の委任で陸海軍の全權を托せられ、墺匈國近來の政策は多く親王に依て決し、前年ボスニャ、ヘルツェゴビナ二洲の合併も、主として親王の英斷で、尙ほ將來の施設も刮目して見る可きものがあつた。去ればこそ墺匈國に怨を抱く者は、主として親王を斃さんと目指されたのである。また親王の夫人は、本來ならば何國かの皇女を娶つて皇妃と仰がるべきを、親王の任意で、千九百年七月、伯爵ソフキヤ、コテック（後にはホーヘンベルグ公女と稱す）を娶つたので、子女はあつても將來皇太子として墺匈國の帝位を繼ぐことが出來ぬ。隨つて親王の配偶も、皇妃と呼ばずして夫人と呼ばれて居た。



セラエヴオ市に於ける墺人のセルヴイア人排斥熱
（毛織衣服物の破棄）

去程にフェルヂナンド親王には、多年豫期する所の塞耳比西、黑山の兩國を想定の敵としたる大演習も、遺憾なく終了して、大滿足を以てセラエヴオー市に入つたのは、六月二十八日の朝で、其所には最愛の夫人も數日前より來り待ちしかば、市民歡迎の雜沓中を、夫人と自働車を共にして、停車場から市廳へ赴かるゝ途中、突如として一青年は群集中から躍り出で、親王目がけて爆裂彈を投げつけた。親王は素早く腕にて爆彈を撥ね除けたる故、彈は後方に飛んで破裂し、次なる自動車のボース、ワルデツク伯と、副官メリッチ陸軍中佐とが輕傷を負る外に、群集中に六名の重傷者と五名の輕傷者を出した。素破や曲者！と、憲兵巡査が驚き騷ぐ間に、青年は飛鳥の如くに遁れ、身を躍らして傍の河中に飛び込だが、巡査も續いて飛び込み、難なく捕縛した。此の兇行者はベルグラードの活版職工で、カブリノウイッチと云ふ者であつた。



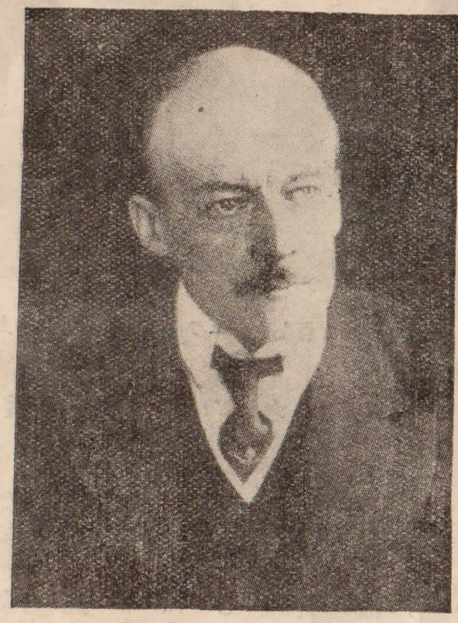


墺皇太子及同妃の靈柩セラエヴオを發してウイーンに向ふ

警報一たび傳はると、セラエヴオー全市は沸くが如き大騷ぎと爲たが、幸ひに親王は無事であつたから、市民は口々に之を賀し、歡迎は一層熱烈を加へた。斯くて大膽なる親王は市廳に赴き歡迎會場に臨み、市長が將に歡迎の挨拶を述べんとするとき、流石に沈着きたる親王も、餘程亢奮せられたりと覺しく『暫らく待て』と制し『市長足下、余は足下等を訪問せんとて此のセラエヴオーに來たのに、爆裂彈を投げるとは何事か』と言はれたが、暫時沈默して『宜ろしいサアお言ひなさい』と述べて座に着いた。市長は頗る恐縮しながら漸く歡迎の辭を述べ了り、親王もまたボスニヤ、ヘルツエゴビナ兩州人民の熱誠なる歡迎を悅ぶ旨を述べられ、市民は、市廳の前に群集して、盛んに親王の爲に祝福した。

當日の事變が此れだけで濟めば、大事とは爲らなんだが、一難去て忽ち更に悲慘なる大難事が起つた。此朝親王は市廳に在ること半時ばかりで、去て先刻負傷したる副官のメリッチ中佐を見舞はんとて、再び夫人と共に無蓋の自動車で、午前十時半に市廳を辭し、フランツ、ヨセフ街とリユドルフ街との十字街頭に臨み、自動車の速力を緩めたるとき、兩側に並ぶ群集の前に立ち、兩手を背廣服の衣嚢中に突き込み居たる一青年は、短銃取り出し、驀地に躍り出で、自動車に近づきて親王夫妻に對し、續けさまに三發發射したれば、親王は其面に命中し、ハツと言ふ間に夫人は服部を射られて親王の膝の上に倒れ、何れも致命傷なりしかば、自動車は直ちに衞戍病院に赴きて治療を加へたるも、終に其効無く、親王及夫人ともに直ちに非命に斃れた。刺客は現場で捕へられたが、其れはガリロプリンジプとて、當年十九歳の一學生であつた。

此の兇變の報が一たび傳はるや、各國の間には、大に喜ぶ者、大に悲しむ者、思ひ〱に烈しき感動を與へたる中に、



墺國外相ベルヒトルド伯

最も氣の毒なるは墺匈國老帝である。前にも述べた樣に、帝は本年八十五歳の高齡で、唯だ一人の皇子は自殺し、其他は皇女のみなる故皇姪フエルナンド親王を皇太子と定めたるに親王はまた往年老帝の承認を得ず、縱まゝに今の夫人と婚して、既に十四歳の長女と、十一歳及十歳の二男子あれど、母の素性が皇族で無い爲に、皇儲とすること能はず、況や近來國政の大事は、多く其人に依て決せられたる親王の死去せしことゝて、折柄恰かも維納を發して地方に行幸中なりし老帝は、變報を聞て潸然と落涙し、『嗚呼！嗚呼！此世には最早予が爲に何物も殘さぬ』と嘆息せられた相で、其心事を想ひやれば、何人にも同情を禁ずる能はざらしむ。斯くて親王夫妻の遺骸は、二十九日にダルマチアなるメトコウイッチ港に送られ、其所から軍艦で墺地利のトリエスト港に護送し、トリエストから特別汽車で、維納に着したが、普通ならば、皇太子は、維納の皇室墓地に葬むるのだが、夫人が皇族の待遇で無いのと、夫妻を別々の地に葬むるに忍びぬとの理由で、親王は豫め一家の墓地をダニユーブ河岸なるアルッテッテン城の傍に定め置かれたる故、葬儀は極めて質素に、其所で行はれた。其場には老帝も臨まず、外國君主の參列も謝絶した唯だ獨逸皇帝のみは參列すべく、事變の當日獨帝はキール海上に、快走船を走らせて居たのが、急に中止し、翌日ボッダムの離宮に還幸せられたが、老帝の臨場も無いといふので、其れも沙汰止となつた。

## 暗殺陰謀裏面の大疑問

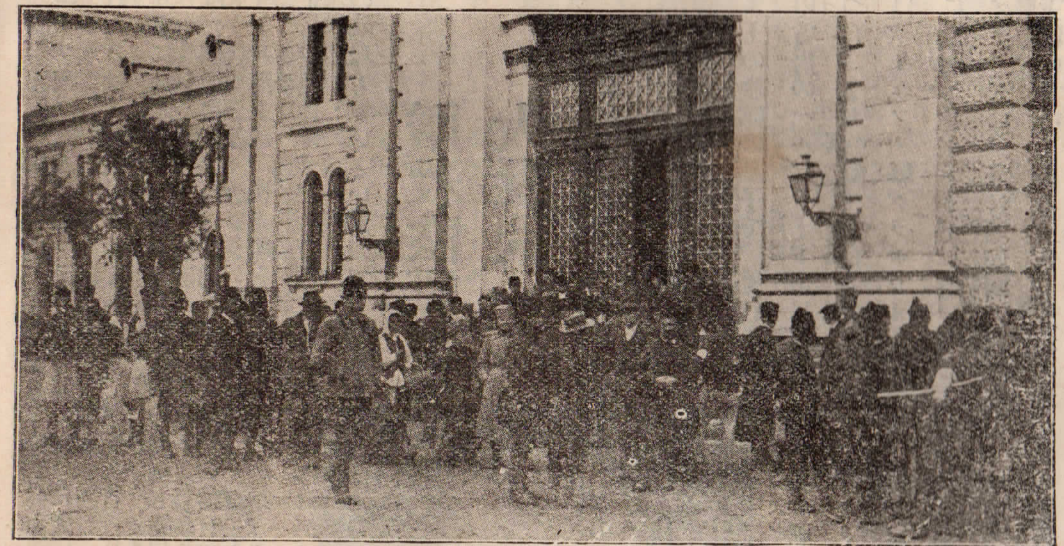
墺匈國皇太子夫妻は、當初一活版職工の爆裂彈に免かれて、次に一學生の短銃に斃れた。其の爆裂彈を投げた刺客のカブリノ、ウヰッチは、セラエウオーの旅館の息子で、兇行の四箇月前まで塞耳比亞の首府のベルグラード市に赴き、活版屋の職工であつた。また短銃で目的を達したガリロ、プリンジプは、リユフノ縣グラホウオの出生で、修學旅行の爲に數回ベルグラードに赴いたことがある。其のベルグラードは、常に墺匈國と白眼みあふ所の塞耳比亞王國の首府である上に、兇行の地が當の被害者フエ



セルヴィア國ベルグラード附近の砲兵陣地

ルヂナンド親王の政策の爲に、墺匈國に奪取せられたるボスニヤ州の首府セラエウオーである。其のまたボスニヤ州は、塞耳比亞と同じスラブ人種で、塞國及び黑山國が、他日組織せんとする大塞爾比亞國の一大部分として希望する所である。況や親王の其所へ行たのは、塞、黑兩國の假想の敵としての陸軍大演習に臨んだので、此に於て親王の遭難には、刺客の背後に塞耳比亞との關係が無きかとは、何人にも當然起るべき疑問である。

兩刺客は何れも捕へられ、兇行の原因に就て嚴重なる糺問を受けた。其中で短銃で目的を遂げたるプリンジプは曰く『余はベルグラードの一富商ミコシユカノヴイクより爆裂彈を貰ふた。また彼れより金をも貰ふた。去れば余は大演習中に暗殺を實行せんとしたが、不幸にして憲兵に妨げられて親王に近づくことも出來なんだ。然ども余は親王を暗殺する爲には、最早數週前から準備して居た。余等が斯く親王を暗殺したのは、若しも彼れが墺匈國の帝位に即くことあらば、塞耳比亞の運命が、ボスニヤ、ヘルツエゴビナと同一に陷るであらうと思ふが故だ』と、他の二人の刺客カブリノウヰッチも白狀して言



セルヴィア國ベルグラード市の動員（豫後備兵停車場に集る）

ふ『余は數週前にベルグラードの一珈琲店で新聞を見ると、六月末にフェルヂナンド親王がセラエウオーに來ると記載してある。で傍に居たる同志のプリンジプに其新聞を示し翌日ベルグラードの一公園に再會して、國家の爲に身を犠牲にして、親王及其夫人を殺害することを約して、兩人は前に塞國陸軍の軍籍に身を置たことがある。で塞國參謀總長附陸軍少佐ミラン、プリビチエウイッチに爆裂彈を請ふた。當時少佐の紹介で、或る壯士に面會し、其人が、また兵器廠内に知友ある爲に、其所より爆裂彈と六挺のブローニング式の短銃とを得た。同志は余等兩人の外に尚は四人ある。其等の同志は二十八日午後十時に、某パン屋に集つて、兇器を分配し、部署を定めて待ち受けた』と。またボスニヤ州會議長も曰く『皇太子は短銃または爆彈を持てる十名以上の刺客に附き纏はれた。で、假令プリンジプの短銃を免かれ給ふとも數分間の後にはまた他の刺客は現はれたであらう。また幸ひに街路で生命を全ふし給ふとも、旅館で斃れ給ひたであらう。現に晩餐會の行はるゝ筈であつた卓の下に、時計仕懸の爆彈も裝置せられ、また寢室にも爆彈が裝置せられてあるのが發見せられた』と。斯かる審問の結果、七月二日豫審判事は『今回の兇行が、陰謀であることは十分證明せられた。兩犯人は政治的目的並に塞耳比亞民黨の爲に行動したるものだ。殊にプリンジプの住宅で、金貨が二千クローネ發見せられたが、巴爾幹では、特別の任務に對しては、常に金貨で支拂ふのであるから、此の金貨の發見は最も怪しむべきことである。但し今日までの所では、陰謀が塞耳比亞で企てられたか否かは未だ明確で無い』と。

暗殺の陰謀が塞耳比亞で企てられたか否か、明白で無いとは、豫審判事の報告であるも、疑惑は激しく塞耳比亞政府の要部に懸けられ、墺匈國の各新聞紙は、一齊に筆を揃へて塞耳比亞攻擊を始めた。すると、獨逸の新聞も之に和し、『眞の罪人はベルグラードに在り、責む可きは塞耳比亞の政治家なり』と呼號し、薪に油を注ぐが如くに墺匈國民を煽動したから六月二十九日には、三百有餘の學生が一團と爲り、在維納の塞耳比亞公使館に押し寄せ、同國の國旗を卸して燒き棄てたるを首として、斯の種の示威運動は、連日連夜到る所に行はれた。

## 塞耳比亞對墺匈國の嚴談

墺匈國政府は、國論の沸騰に乘じ。て、ボスニヤと塞耳比亞との國境に、多數の兵を配置して、漸く塞耳比亞を威嚇し、七月二十三日に至りて、愈いよ大約左の如き嚴重なる要求を提出した。

一、塞國に於ける大塞耳比亞主義の運動を一切禁止し、且つ同主義の運動を標榜せる各協會を解散せしむる事

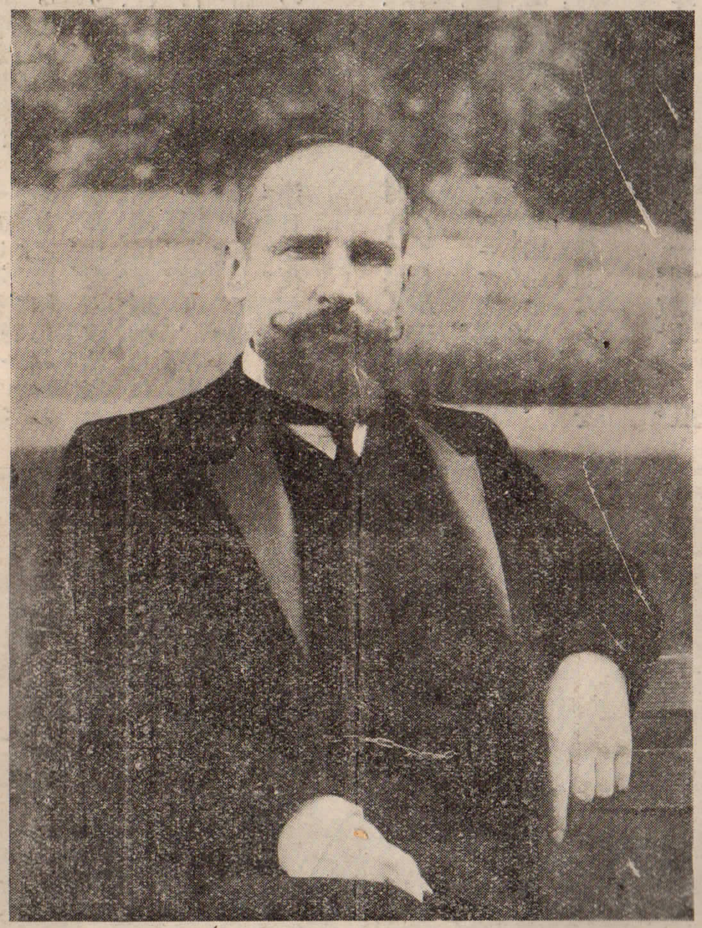
一、陰謀事件に關する裁判所の審問には墺匈國政府代表者を參加せしむる事



墺軍の攻擊を蒙れるセルヴィア國ベルグラード市全景

一、陰謀に關係したる文武官を罷免處罰すべく、且つ其の處罰は墺匈國政府監督の下に之を行ふべき事

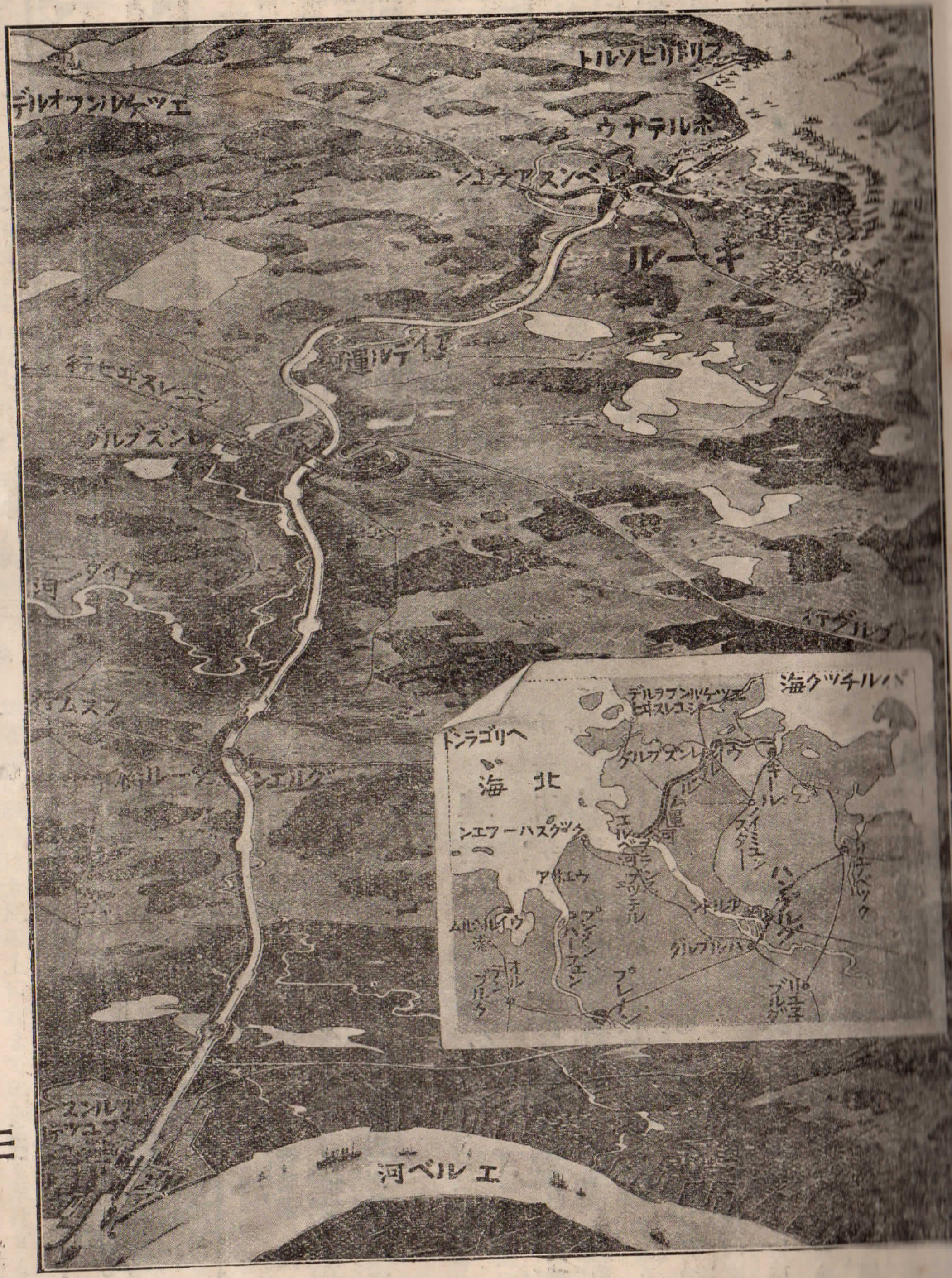
之に對して回答を二十四時間内に制限し、若し期限内に回答を得ざれば、墺匈國政府は自由行動を取るべしと通告した。暗殺事變の背後には、塞耳比亞の文武官が關係した事は、既に兩被告の口から洩れて居る。然るに今また墺匈國政府の代表者を參加せしめて審問し、且つ塞國要部の文武官まで、墺匈國政府監督の下に處罰させるといふのだ。斯うなつては、塞耳比亞の獨立が怪しくなる。是は勿論承諾する譯には行かぬ。殊に塞耳比亞の背後には、露西亞が居て、塞國の獨立を害さるゝことを坐視せぬばかりか、露國は墺匈國及獨逸に對しては他に重大の怨恨を有て居るので、塞國を助けて承諾させせぬ。


露國首相ストリピン氏

墺匈國もまた塞國が承諾せぬ場合には、開戰の覺悟で持ち出した嚴談である。其の背後には獨逸が煽動して居る。斯くて塞國は滿足なる回答を與へざりし故、七月二十五日墺匈國は塞耳比亞に對して宣戰を布告した。續いて三十日には早くも墺兵がダニューブ河を渡つて塞國へ進入する樣になつて戰爭の幕は開いたのだ。

既に墺匈國と塞耳比亞との間に戰端が開かれると、塞國の後見役たる露西亞は、直に大動員令を全國に下し、之に對して墺匈國の同盟國なる獨逸が又大動員令を下しつゝ、一面に露國の動員中止要求の最後通牒を發し、其の要求の容れられざるや、直に露國に對して宣戰を布告した。それから後、列强國互に分れて宣戰を布告し、陸に海に震天動地の大戰亂と爲つた實況は、以下項を追ふて叙せんとす

# カイゼル、ウイルヘルム運河の鳥瞰圖



カイゼル、ウイルヘルム運河の鳥瞰圖

カイゼルは本年六月二十四日エルベ河より運河を渡りてキールに向ひ、初てホルテナウの新成二重大水門を通航したり。此の大運河の擴張大工事は五年前より着手せられ二億二千マークの經費を要したり。此運河全通して北海と東海の水相通じ、海軍戰術上に大變化生ず。

# 全歐土の大戰亂

## 戰慄すべき大戰爭の暴發

全歐を鐵火の裡に投ずる大動亂の暴發、近世武器の發明による戰鬪の悲慘といふことは、普佛戰爭以來幾度か歐洲列國の帝王、政治家、實業家、軍人の夢魂を驚かし平和論者の肝膽を寒からしめた。其禍根はいふまでもなく巴爾幹である。尤も巴爾幹諸邦相互の小衝突で濟む間は、子供の喧嘩も同然であるが、其背後に隱れてゐる傀儡師が、平和の假面を脱いて舞臺面に現はれて來ると、忽ち世界の四隅に反響する程の大活劇が演ぜらる丶。最近の巴爾幹戰爭でも露墺兩國の國交は屢〻斷絶の危機に瀕した。事體重大と看て取つた英國外相サー、エドウァード、グレーは、巴爾幹の代表者等を睨め付け、高壓的に平和條約に調印せしめて、兎も角も一段落は着いたが巴爾幹は依然として東歐の伏魔殿である。露墺兩國の反感は一層加はつて互に開戰の口實を發見しやうとしてゐる。表面は平和を裝ふもの丶、墺は同盟國の獨逸と語らひ、露は協商側の英佛兩國と、内々氣脈を通じて、只管戰備に汲々たる折柄、塞爾維人の墺國皇儲フェルヂナンドを暗殺したのが導火線となつて、歐洲大戰爭の幕はダニューブ河畔の墺塞國境上に切つて下された。

## 墺塞の國交破る

千九百十四年七月廿四日午後、墺匈國政府は塞爾維國政府に對して、數箇條の最後通牒を發した。其内容は別項戰爭由來記に詳記してある通り、隨分峻嚴苛酷な要求であるから、如何に弱小とはいひながら、苟も獨立國の體面を有つてゐる塞爾維國として、これに屈從すべき筈はない。墺匈國の決心は固より強固で、開戰を豫期してか丶つてゐる。いはゞフェルヂナンド皇儲暗殺に對する問罪の師を出さうといふのだから、塞爾維政府からの回答猶豫の請求も刎ね付け、露國よりの交渉にも耳を假さず、大兵を墺塞國境に出して戰意を示した。七月二十六日塞國首府のベルグラードでは、朝來閣議を開いた結果、愈開戰と一決し、宮廷及政府は直にベルグラードを去つて、南方のクラゴエヴアッツに遷ると同時に、全國に亘る動員は行はれ、墺國公使も本國の訓電によつてベルグラードを引揚げ、戰雲ダニューブ河を蔽ふて、國交は事實上斷絶して了まつた。

## 墺帝戰を宣す

墺國皇帝フランツ、ヨセフ陛下が塞爾維に對して正式に宣戰を布告したのは廿六日正午であつた。之より先き墺匈國では全帝國に通じて聯合陸軍の一部動員令が下り一部隊は徐々塞國領土に向つて進軍を開始したのである。開戰布告の日首府維也納の街上にては古今來曾有の大示威運動が行はれて、數十萬の群衆は皇帝萬歲、陸軍萬歲を叫んだ。塞爾維國でも墺國に對する敵愾心は頂點に達し、主戰黨の如きは、縱ひ塞爾維王室を犧牲に供するも、墺匈國に對して極力抵抗すべしと叫び、大塞爾維帝國建設の雄圖を妨げた墺國に對する憤恨の情一時に激發したといふもの丶自國は多寡の知れた巴爾幹の一小邦、三百萬足らずの人口（但し領土擴張後は四百五十餘萬）、戰時人員約三十萬の兵力で、五千萬の人口、百五十萬の兵を擁する墺匈國に對つて戰ふのであるから、これこそ龍車に向ふ蟷螂の、勝敗の數は固より明かである。塞爾維の恃む所は其背後に控えた露國大陸軍の、それから露國と特別の關係ある英佛二國の後援である。墺匈國も獨逸といふ強大な同盟國を引入れてあるから、却々に鼻息は荒い。塞國などは固より眼中に置かぬ。獨逸と結んで佛露と戰ふといふ大事な前途を控えてゐるから、塞國に對しては、唯其侵入を防ぐだけの備へをして、國境に約三個軍團の兵を出したに過ぎない。



獨逸宰相ベートマン、ホルウエヒ氏

## 墺塞兩國の戰況

### ダニユーブ河畔の砲聲

開戰以來新聞電報の檢閲が極めて嚴重なると、通信機關が一部杜絶した爲め、何の方面からの情報も詳細を悉くしてゐない。塞國が開戰と同時に首府を南方に移したのは、作戰上宜しきを得たもので、同國の地勢は南に山を控えて居る。漸漸山地に退却すると墺軍の前進は頗る困難となるのみならず墺塞國の戰爭は大局の上に左までの影響を及ぼすものでない

から兩國互に守勢を取つて進擊の機會を待つてゐるに過ぎない。

七月廿六日倫敦よりの電報によれば、墺國官憲は宣戰と同時に、ベルグラードに向け歸還の途にありし塞爾維參謀總長をブダペスト附近に於て逮捕し、同國參謀本部員四名も亦逮捕せられたりと、諸種の情報を綜合すると、墺軍は開戰劈頭ダニユーグ河を渡つて、首府ベルグラードを占領せんとするもの丶如く、其前衞は廿七日、既にダニユーグの支流なるドリナに於て衝突したのを始めとし、塞爾維軍はセムリン、ベルグラード間の鐵橋を爆破し、墺軍の步兵及砲兵はダニユーブ河に在る墺國軍艦の援護を得て、塞爾維軍を攻擊したるに、塞爾維軍は漸次後方に向て退却を始めた。


獨逸外相ゴツトリフ、フオン、ヤコノ氏

廿九日倫敦電報は報じて曰く、維也納に達せる報道によれば、セルヴィア軍は墺軍に向て集中しつゝ、數個の飛行機はプロペラーの音勇ましく國境を偵察しつゝあり、黑山國の一旅團は砲兵と共にプリボグ附所にありて塞爾維軍を支持しつゝありと。

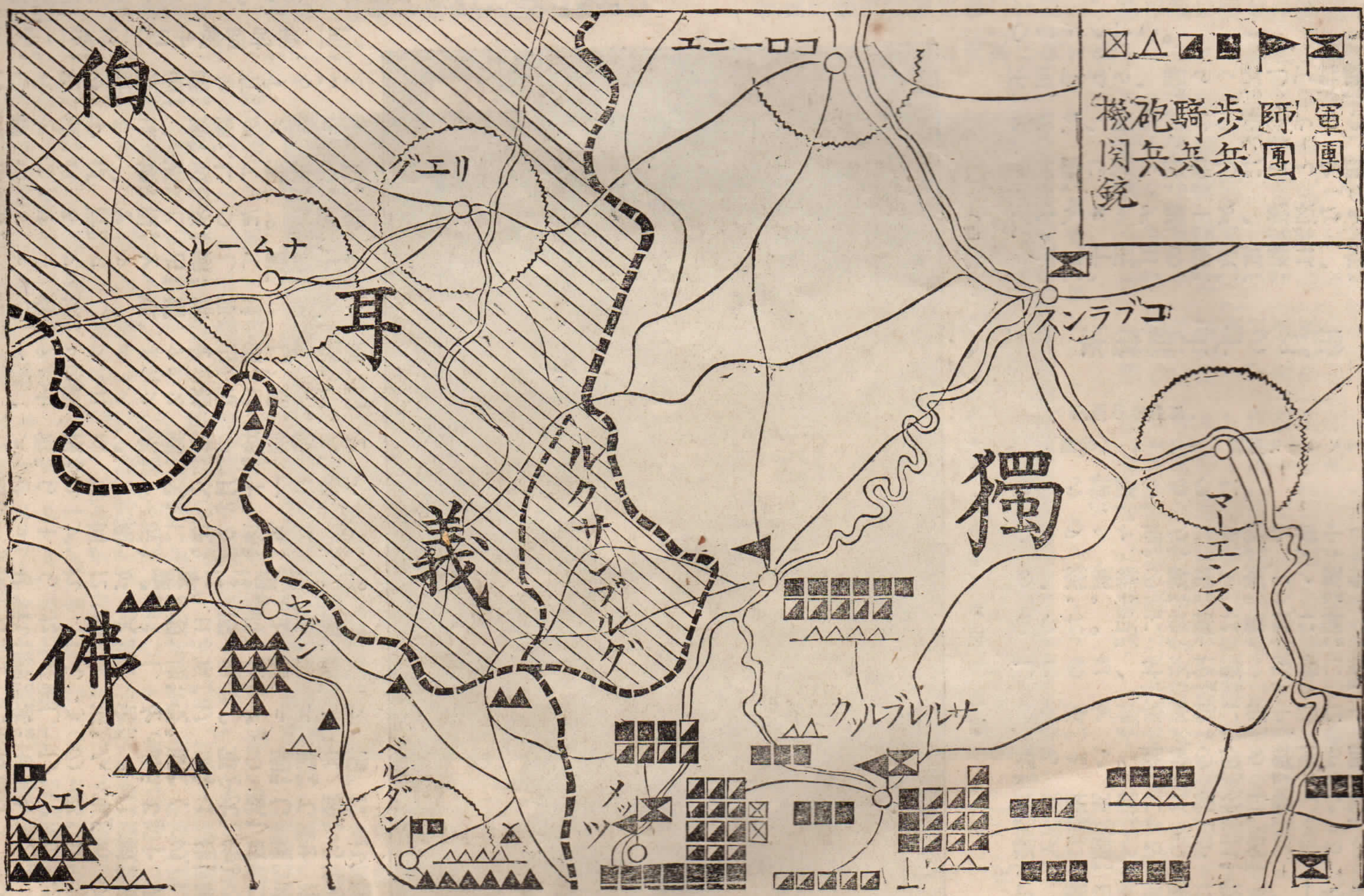
伯林電報は塞軍の大敗を傳へて曰く、塞軍の三個師團ボスニア國境附近に於て墺地利の一軍と衝突したとの風說維也納に於て流布せられ、其戰鬪に於て塞軍は擊破せられ多大の損害を被つたと、又同電報は維也納よりの公報なりとて、首府ベルグラードの火藥庫墺軍の機關砲火の爲に爆發し、火災市の各所に起り炎々天を焦しつゝある旨を報せり。尙別報によれば、二十九日夜十一時、墺軍はベルグラードに對し激しき砲擊を開始し、二回までべ市に突擊を試みたるが、ゼムソン要塞の砲火は曉の二時迄連續し、之が爲め數十の建物破壞せられたるも、塞軍は多くは沈默して稀に應戰せしのみ。此間墺軍の砲艦は備砲に甚しき損害を受け、ダニユーブ河を渡らんとせし墺軍の企圖は斷絶せられた。砲火は翌日四時まで繼續交換せられたが、塞軍には損害なし。ダニユーブ河附近に在る墺軍は屢擊退せられたと。又八月十一日發ハヴアス電報は、塞國軍の墺國侵入を傳へ、十四日メッツ發電は黑山國軍のヘテレウエーツを占領して塞爾維軍と合同し、塞爾維軍はワルデーシテド、フロンを占領して敵數十を捕虜とせる旨を報じ來つた。尙露都通信によれば、墺塞戰にて塞軍の最も困難を感ずるは、墺國がダニユーブ河に八隻の假裝砲艦を有することだが、中二隻は二百十噸四吋砲二門、速射機關砲を備へ居ると。要するに墺軍は主力を獨軍に合して、佛白兩國軍に當り、一方露軍の侵入に備へるのが目的であるから、墺塞兩軍間には當分目覺しい戰鬪は起るまい。開戰の切め墺國が四十萬の大軍を墺塞國境に集中したと聲言したのは、外交援護の威嚇に過ぎなかつた。現に墺國は露國に備ふる爲め、塞爾維の戰場を棄てゝ露墺國境のガリシヤ地方に軍隊を集中してゐるとの情報があつた。

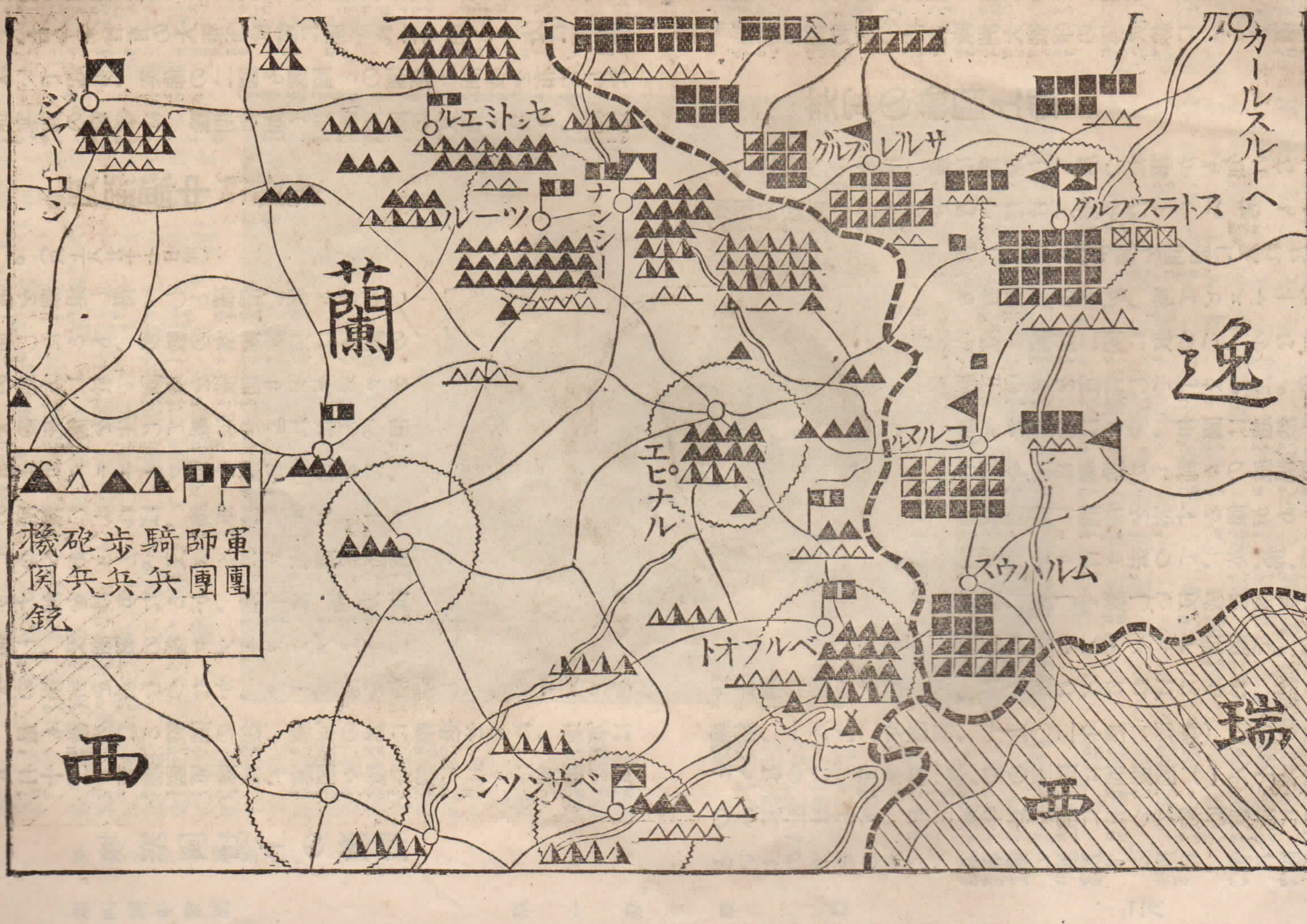

佛國內閣員（中央はヴイヴイアニー首相）

（備考）ガリシアは露領ポーランドに接する墺國の公領地。

## 塞爾維王子の負傷

八月十五日の倫敦電報は、塞爾維王子グオルチ親王が、激烈なる墺塞步兵戰に於て負傷したことを報じて來たが、何時何れの戰爭であつたか不明である、暫らく記して詳報を待つことゝする。


伯耳義
佛
獨
コローニエ
リエジ
ナムール
コブランス
マーエンス
ルクサンブルグ
セダン
ベルダン
メッツ
サルレブルック
レエム
軍團
師團
歩兵
騎兵
砲兵
機関銃


佛蘭西
獨逸
瑞西
カールスルーへ
シャーロン
セントミエル
ナンシー
ツール
サルレブルグ
ストラスブルグ
コルマル
エピナル
ムルハウス
ベルフオト
ベザンソン
軍團
師團
騎兵
歩兵
砲兵
機関銃

## 墺塞國境上の激戰

八月十三日夜墺國軍隊は、塞國々境全線に亘りて襲擊を試み、最も激烈なる戰鬪の後、塞軍の爲に擊退せられ、墺軍は多大の損害を被むつたが、サーヴ河を横斷して、シャバッを占領し、又激戰の後ロヅニッツアより、ドリナ河を渉りたるが、塞軍は極力抵抗しつゝありと。又タイムス塞爾維通信員の所報によれば、墺軍はベルグラード附近よりダニューブ河を横切りたるに、多大の死傷を生じて擊退せられたと。但他の地方に於て國境を横切りシャバッを占領したるも、多數の塞爾維兵は墺國の入寇を擊退し得べしと確信し居るとのことだ。（以上八月十七日記）

## 列强渦中に投ず

墺塞間の戰爭は、豫期の如く墺露兩國の宣戰となり、獨逸亦次いで起ち、英佛の二國も露國との關係上開戰を布告したので、古今未曾有の大戰爭は茲に開かれた。即ち一方は獨逸、墺地利の同盟軍が、英、佛、露の三國聯合軍と勝敗を決しやうといふのであるから、其戰亂の波及する所は、啻に歐洲全土のみに止まらず、殆ど東半球全體に亘つて戰時狀態に入ることゝなつた。元來獨、墺、伊の三國は同盟國（一八七六年三月締結、一八九二年改締、一九〇二年更に改締）であるから、伊太利は義理として獨、墺を援けなければならぬ。然るに最近巴爾幹のアルバニア問題で、伊國は墺國に對して激しい反感を抱き、寧ろ同盟側より背き去つて、英、佛、露の三國協商側に同情を寄する傾がある。而して今回は獨逸から種々の威喝壓迫を加へたに拘はらず、伊國は超然として嚴正中立を宣言して了まつた。伊國の中立は獨墺二國に取つて、少なからざる打擊であるが、嘗てビスマークの公言した通り、伊國を同盟に入れたのは、敵國佛蘭西を援助させないだけて充分だといふ考もあるので、伊國の中立は、或は豫期して居つた事かも知れない。



獨逸陸相　フアルケンエーハイン將軍

## 英軍の佛國上陸

墺塞の開戰が、直に歐洲大戰爭の導火線になると看取した英國政府は、墺、露、獨の間に斡旋し調停に務めた。其苦心は實に慘憺たるものであつた。外相グレーは下院に於て演說して曰く、余は駐英獨佛大使に對して若し戰爭が佛國に強いらるゝに於ては、英國の輿論は實に佛國に趨ふべし若し獨逸艦隊にして英國海峽又は北海に於て佛國の船舶若くは佛國の沿岸を攻擊せば、英國艦隊は其力の及ぶ限り佛國に保護を與ふべしと。外相の宣言は議員より大喝采を以て迎へられ、新聞紙及一般の輿論は、英國が三國協商に飽く迄忠實にして、歐洲に於けるチュートン族の野心を抑制すべき任務ありと叫び、斷じて中立を守るべからずとの主戰論盛に唱へられた。終に英國政府の方針は佛露を援助することに決定したので、政府は議會に對して防備費五千萬磅の支出、及陸兵五十萬增員の議を提出したが、一方獨逸が佛軍を攻擊する爲に、白耳義の中立を侵し、永久中立地帶たるルクセンブルグ大公國に出動したといふ報に接して上下の公憤其極に達し、民衆は倫敦ウェスト、エンドに集まり、次いでバッキンガム宮殿前に目覺ましき示威運動を行ひ、一齊にルール、ブリタニア及マルセーユを歌ふて意氣既に獨逸を吞むの慨があつた。之より先き英國政府は、萬一に備ふる爲め、全國に亘る陸海軍の動員を行ひ、八月四日午後十二時を以て、終に獨逸に對して開戰を布告したのである。次いでキッチナー元帥を陸軍大臣に、フレンチ元帥を陸軍總司令官に、ジェリコー中將を英國艦隊總司令官に、マデン少將を參謀總長に任命し、令を北海の第一艦隊と地中海

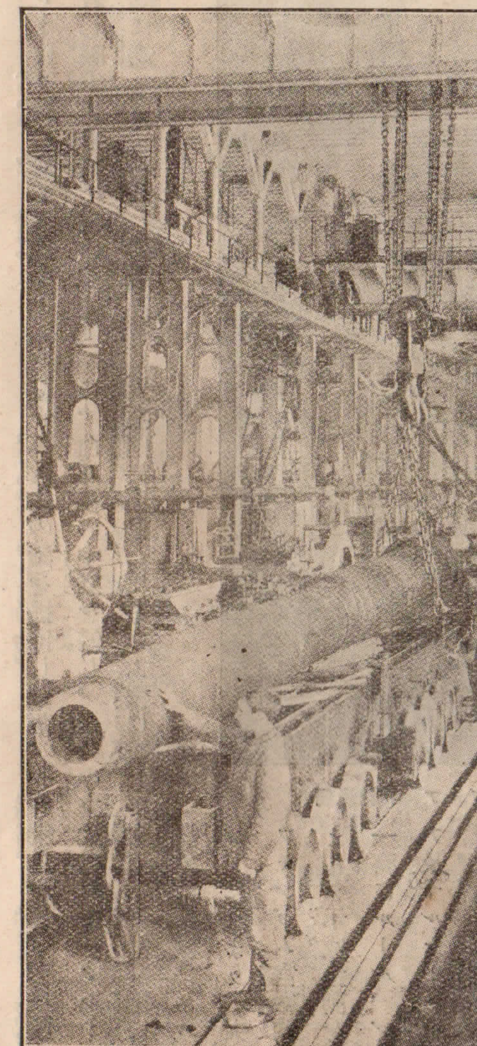


獨逸海相　アルフレツド、フオン、チルピッツ大將

に傳へて出動せしむる外、佛國及白耳義と協力して獨逸に當らんが爲め、遠征軍を大陸に派遣することに決し、斯くて北海及英國海峽の制海權を確實にしつゝ、大陸に活動する準備に着手した。八月九日には英國陸軍の一部は、白耳義のオストエンド及佛國のカレーに上陸し、白耳義のナミユール方面に向て前進を開始した。

## 獨逸中立國を侵す

墺塞開戰と同時に、獨露兩國は交戰の準備に忙殺されて、殆ど他を顧みる遑がなかつた。殊に獨逸の如きは、辭令だけを巧みにして、外交上の折衝をやつてゐたが、其實初めから開戰の覺悟で、逸早くもルクセンブルグ(永世中立國)に侵入して、佛軍の機先を制し、一面白耳義を威嚇して、攻守同盟を結ぶか、吾に屈從するか返答せよ、との難題を持ちかけ、其後勝手に白耳義に侵入して了つた。七月三十一日獨逸は露國に對して、十二時間內に動員を中止せんことを要求し、同時に佛國に對しては、如何なる態度を取らんとするか、十八時間內に言明せよと迫り、極めて强硬の態度に出たが、以上の要求に對しては、露國は塞爾維人を保護するが爲めなりと答ふるの外なく、佛國は吾國の意圖は他邦の與り知る所にあらずと刎ね付くるの外はなかつた。此結果八月一日を以て、巴里駐劄、及聖彼得堡駐劄の獨逸大使



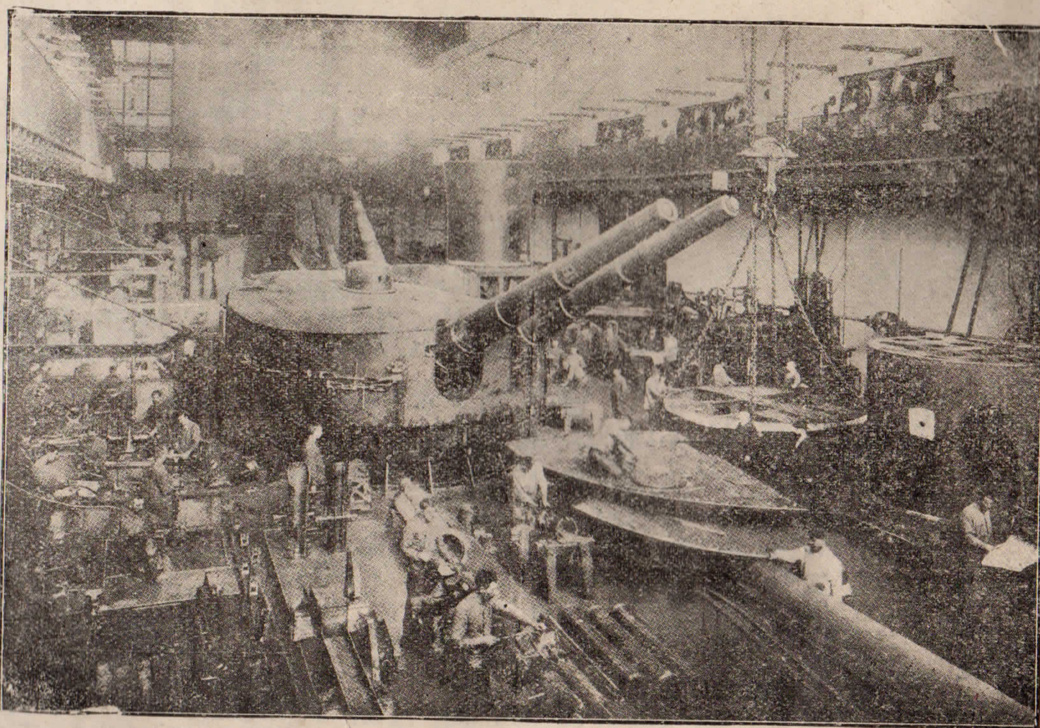
獨逸エツセンのクルツプ兵器所の內部



は、其れ〴〵任地を引揚げ、露、獨、佛の三國々交は、相前後して斷絕するに至つたのである。獨逸が開戰を布告した日、多數の民衆はウンテル、デン、リンデン及ルストガルテンに集合した。獨逸皇帝は宮城の露臺より民衆に對して演說して曰く『今や獨逸國民は重大なる危機に際會しつゝあり、吾人は劍を執つて起つの已むなきに至らんとす。戰爭は膏血及び財帑の多大なる犧牲を要求すべきも、我敵國をして濫りに獨逸を攻擊すること能はざるを知らしめざるべからず』と。斯くて獨逸は逸早く西部地方に大動員を行ひ、丁抹海峽附近には艦隊を集中して、バルチック海の商船全部を徵發し、陸軍は佛國に對して攻勢を執り、露國に對しては防禦の策に出づることに軍議一決したやうである。

## 露の戰備成れり

開戰前に行はれた獨逸に對する露國の動員は大成功であつた。今は輿論悉く一致して政府を援助することゝなり、開戰論の熾なること、日露戰爭當時とは全く雲泥の差があつた。八月二日午後三十萬以上の人民は、宮城前の廣庭に跪座して、露帝の祝福を祈り、愛國の熱誠群集の眉宇に現はれたといふ。露帝は宮城の露臺より此光景を見て、大滿足の意を表せられ朝臣に勅語を下して曰く『露國は他より戰爭を强請せられた

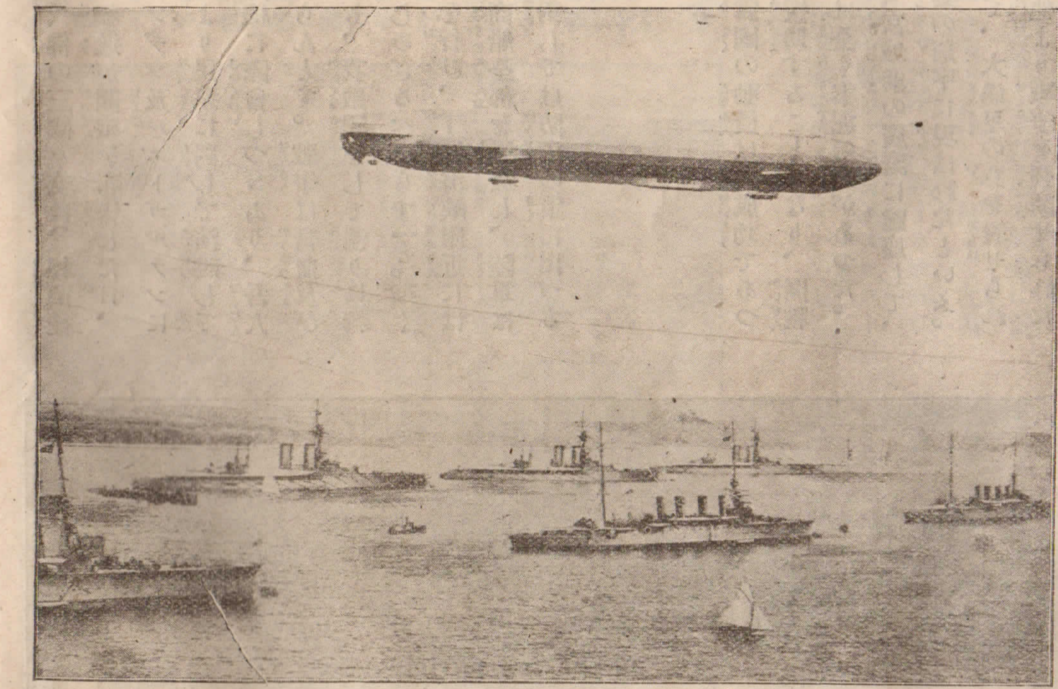


獨逸エツセンのクルツプ兵器所の內部

り。朕は露國の領土に敵の一兵たりとも存在する間は、決して媾和せざるべし』と。八月二日獨逸に對して開戰を布告すると同時に、ニコラス、ニコライウイチ大公を露軍總司令官に、陸相スホムリノフを總司令部參謀長に、參謀總長ヤヌシ、ケーウヰッチ中將を出征軍參謀長に、ニキチニ、イワノフ、レネカムプ、イリンスキー諸將を各軍の司令官に任じ、全線に亘る作戰の計畫既に完成して、獨國境に第一彈を發たんとした。

## 獨軍腹背敵を受く

陸戰に於ける獨軍は、腹背敵を受けて最も困難の地位に立つてゐる。西方に於ては佛國の侵入を防ぐ爲め、ストラスブルグ、



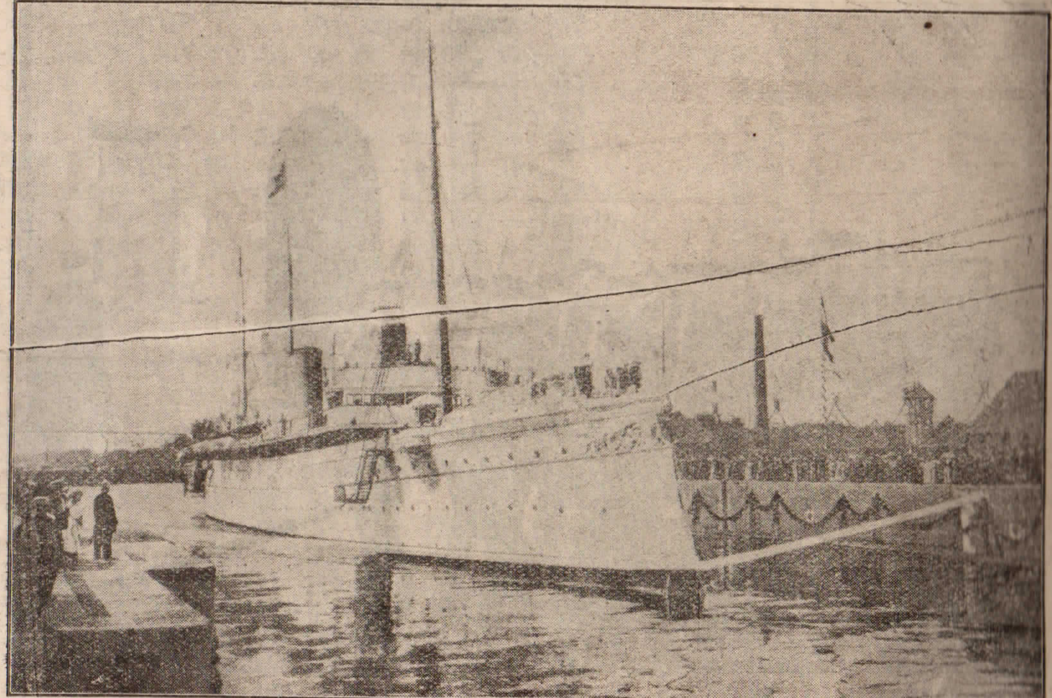
キール運河上の獨逸飛行船

メッツ兩要塞の守備を嚴にすると同時に、白耳義方面に備へねばならず、北方露國の强大なる陸軍に對しては大部隊を以て國境を守る必要がある。獨逸の陸軍は戰術の研究、平素の訓練に於て佛、露兩國に優る點があるとはいへ、佛軍の意氣亦當るべからず。アルサス、ローレヌ兩州を奪ひ取られた、四十餘年前の恨綿々として、何時か報復を圖らんとする熱血は、佛國人民の血管に漲り切つてゐるのであるから、臥薪嘗膽獨を敵として戰ふべく、あらゆる研究訓練を重ねて、勇ましく此一戰に臨んだのである。露國も亦日露戰爭の瘡痍を回復するに全力を注ぎ雌伏十年、今や羽翼成つて蹶起したのであるから、これまた獨逸に取て恐るべき大敵である。



海を距て、は世界第一の海軍國たる英國が、露佛二國に加擔して大西洋、北海並に英佛海峽の制海權を維持しやうとしてゐる。斯の如く三方四方に强敵を控えては獨逸たるもの寸毫も油斷はならぬ。

獨逸の佛國に對する作戰は平素の研究に基き、メッツよりストラスブルグ間に於て佛に侵入すべく思はる、佛のエピナール、ベルダン何れの要塞に向はんとするかは今尚不明であるが、兎に角佛獨の國境は北方の白耳義と南方の瑞西との間僅に我が約三十餘里に過ぎない。此處より大軍を進行せしむることは頗る困難である處から、防備薄弱にして運動の自由なルクセンブルグ及白耳義を通過せんとした。而かも獨軍が、八月一日に動員



キール運河に碇泊中の獨帝御召の快走船ホーヘンツオーレルン

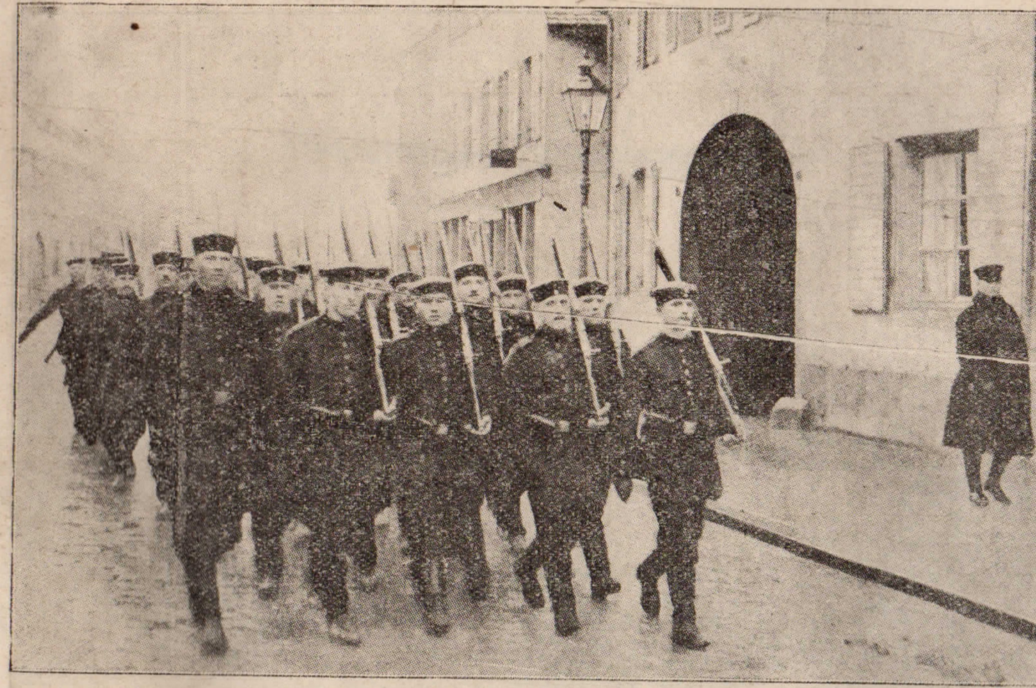
令を下して三日には前進を開始し、五日早くも白耳義に侵入したのは、流石に迅雷耳を掩ふの遑なき快速の行動で、獨軍の長處は全く此處に在ると思はしめた。一方佛も二日に全部の動員を了り、獨に對する作戰計畫は既に熟して居る。元來佛國は獨に對して守勢を取り、巴里を中心として鐵條網を形成したが、千九百十一年のモロッコ事件以來、此方針を一變して攻勢に變じアルサスより南佛に入るべき方面のベルフォール、エピナールの二大要塞、北中央部のナンシー、及ツールの二要塞及北方マース河に沿ふ幾多の小要塞中、中部の最左翼たるベルダン要塞等の第一防禦線に向て走るべく一切の鐵條網を修正したので、此方面に於ける佛軍の威力

は到底昔日の比ではない。

## 獨軍ルクセンブルグを突破す

倫敦電報は報じて曰く八月三日獨逸は宣戰布告を爲さずしてルクセンブルグに侵入し、鐵道を占領し、佛國々境に十萬の兵を集中し、ロンギヰーを攻撃せんとす、既に同要塞附近に於て兵火は開かれたるが獨軍は更に南方アルサス、ローレヌ方面よりも進軍を開始しベルフォール其他の地方に於ても小戰鬪ありたりと。

（備考）ロンギヰーはメッツの西北十哩を隔つる佛蘭西、白耳義國境の佛國要塞所在地にしてベルフォールは瑞西北方の獨佛國境に近き佛國の要塞所在地なり。



獨逸帝國領アルサス州のザベルンに於ける獨逸九十九聯隊歩兵

## リエーヂ附近の激戰

### 獨軍の白耳義侵入

佛國に對して機先を制すべく。一氣に焦り立たる獨軍は、一部隊を以て永世中立國たるルクセンブルグに侵入し、更に白耳義に進出せんとし、八月三日白耳義に最後通牒を送り、若し白耳義にして獨軍の白耳義領土通過を許すに於ては白耳義と提携すべしと、白耳義王烈火の如く憤り、一方英國皇帝に打電して、白國の獨立を援助せられんことを請ふと同時に全國に動員令を下し、極力獨軍の入寇に抵抗せんと決心したが、何ぞ知らん、獨逸は白耳義の回答に接せぬ中、既に大兵を白耳義に出動せしめて、リエージ附近に



現はれたのである。獨軍が鎧袖一觸とのみ見縊つたリエージ要塞の守備頗る堅固にして獨軍の形勢毫も振はず、多大の痛手を負ふて第一作戰を變更するに至つた顚末は、左に示す諸種の情報で明かである。

（備考）リエーヂは獨國々境に近き繁華の都會にして、人口十七萬四千を有す。古より有名なる大砲の製造を以て名あり。附近にはブリアルモン將軍の築ける要塞十二所あり。市街はミューズ河を挾み、製造業甚だ盛なり又此地方の住民は勇敢にして、古より名あり。

### 獨軍休戰を申込む

獨逸軍は八月六日リエージに對し決死的攻撃を爲し終夜砲撃を繼續し獨逸の携槍騎兵は、最も勇敢に活動しリエージに侵入したるも殲滅し、戰場に於て收拾せられたる獨逸負傷兵は千二百人に達した。而して獨逸軍の地雷敷設地帶を通過せる際、若干の地雷爆發し、步兵一個大隊爲に全滅したと、本戰鬪に關する獨逸の通信は、何れも獨軍の大勝を報じ、中にはリエージ市占領の報を傳へたるものあるも信を措き難い。八月七日外務省着の報告によれば、リエージ戰爭に關し未だ公報なき爲め、報道困難なるも四日以來獨逸の第七、第九第十軍團はリエージ諸要塞に對し、猛烈なる襲撃を續け居るも、白軍勇敢に防戰し、未だ一要塞も陥らず、獨軍の死傷頗る多く、之が收容の爲め八月七日二十四時間の休戰を申込みし程にして、其死傷二萬五千と算せらる。白軍は兵少く苦戰疲勞の狀あり。佛軍は既に白國に入り英軍の上陸を切望しつつありと、此戰鬪の激烈なりしは實に豫想外にして、白耳義軍は呼吸をも續かず、戰爭し其勇敢なる態度は軍談中の英雄を偲ばしむるものがある。獨軍は絶えず新手を以て敵の一線に攻撃を加ふるも、折柄の豪雨の爲め諸川氾濫し、鐵橋破壞流失し、獨軍の進軍全く阻止せられ、目下リエージ砲臺外に在りて、立往生の姿なり砲臺は毫も損害を被らず（七日タイムス電報）英國皇帝ジョーヂ五世陛下は、白耳義國皇帝アルバート陛下に對し、戰捷祝賀の御親電を發せられた。（六日倫敦電報）

### 勇敢なる白義耳軍

ブラッセル通信によれば、リエージの戰鬪に於て白耳義軍は勇敢なる抵抗を試み、二個聯隊は獨の大軍中に突撃し、縱横無盡に斬捲り、流石の獨軍も大損害を受て退却した。獨逸軍は五日より六日朝にかけ、最も猛烈なる攻撃を試み、ミンブルグ州ブレマイユ及ボナカレスの要塞を襲撃したるが、兩要塞間の溝渠は全く白耳義兵を以て滿たされた。獨逸軍は密集部隊を成して突貫せるも、要塞より打出す砲彈、機關砲並に野砲の亂射に抵抗する能はず、軍器數十、捕虜負傷者合計千

四百名、砲四門を遺棄して敗退、是に於て白耳義第五十一旅團は直に逆襲に移り獨逸軍を其攻擊地點以外に驅逐し去つた白耳義兵の勇氣は稱讚に値する而してレマン將軍が電信を以て各要地に對し『堡壘壁の敵は悉く白耳義軍の野砲に依り掃蕩せられたり』との信號を發するまで、尙白軍は盛に砲擊を續けたと。白耳義陸軍大臣は報じて曰く、白耳義各砲臺及其の間に陣せる白耳義兵の砲擊は頗る正確なり、之に反し獨逸の砲兵は十分後援を有せず、步兵縱隊も徒に兵數多きのみにて砲火正確ならずと。

## 婦人小兒死を決して起つ

タイムス通信員の報告によれば、二千の獨逸兵先づリエージに入りたるに、各民家より猛烈なる銃火を浴せかけられたり、各戶には武裝せる男子、婦人、小兒等ありて、皆小銃彈藥を所持し居たり。獨逸兵は已むなく一時退却し、槍騎兵を先頭に、再び市街に入り、攻擊を開始したるに、白耳義軍隊及人民等は猛烈に抵抗を試み、殊に多數の人民は小刀、拳銃を以て戰へり、婦人、小兒より、白髯の老人に至るまで、戰鬪に參加せざるなく、獨逸軍は終に辟易して退却し、全線總崩れとなりたりと。

白耳義リエーヂ、ナムール附近の地圖



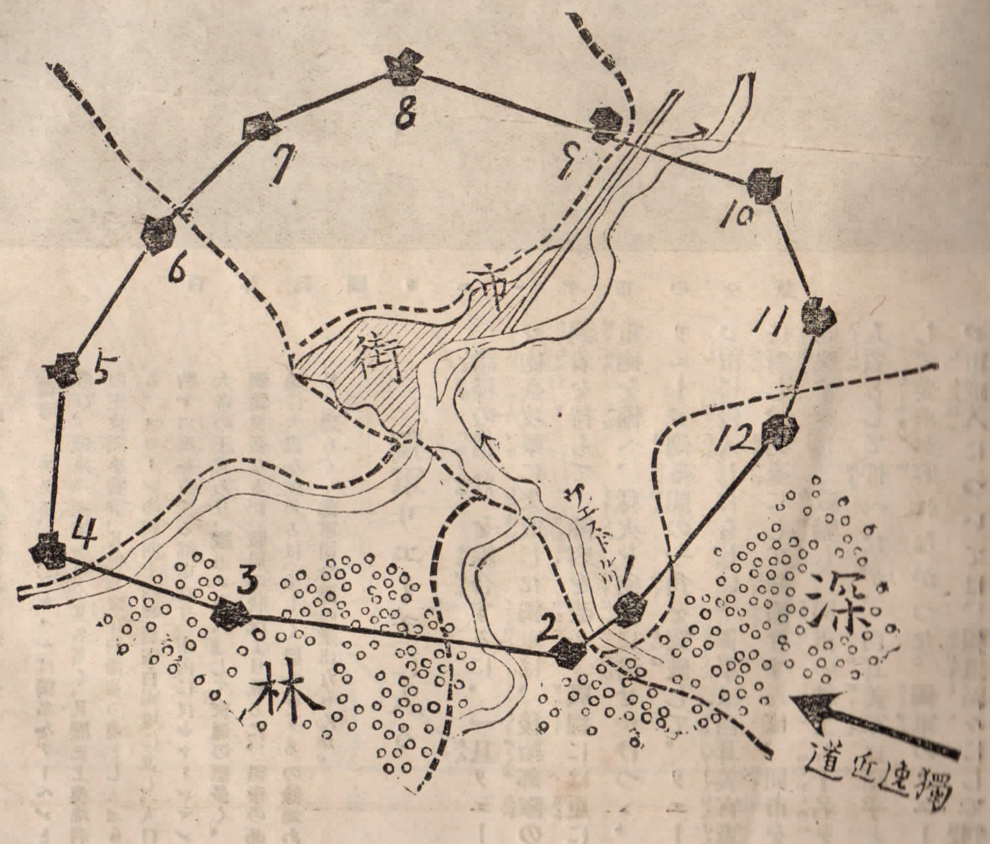

## 第一回の空中戰

獨逸のツエツペリン飛行船、八月六日リエージ砲臺上通過の際、爆彈を投下した、而して砲臺の沈默せしを見れば、爆彈は命中せしものと信ぜらるゝも、詳報に接せず。獨逸飛行機は卑劣にも白耳義國旗を揭げ居れりとの報あつた。

## 獨軍の戰鬪批評

軍事通信員の報に依れば、失敗に歸したる獨軍のリエージ密集攻擊は、彼の旅順戰の當初、即ち勇猛なる乃木軍が露國の要塞を强襲せんとて、徒に數千の生靈を犧牲に供したる當時を思はしむ。獨軍の士氣は全然沮喪した。要するに白耳義に對する進擊は、突嗟の間に行はれて、

白國リエーヂの要塞（市街は河の右岸に在り三十九頁を參考せよ）



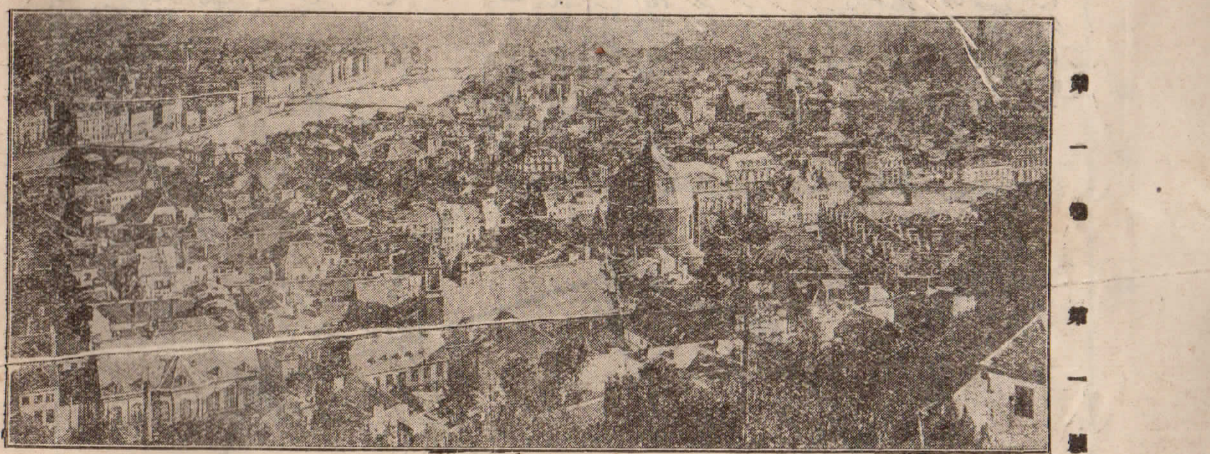
充分の準備なく、其行動には統一を缺ける所があつたやうだ。歩兵縱隊の密集過重に失し、砲兵の掩護宜しきを得ず、彈藥は不足を告げ、兵は食ふべき食物なきに至つたと。

## 獨逸貴族父子の戰死

十日夜リエージ要塞の白軍は、敵の攻擊に對し、數時間沈默して應戰しなかつたから、獨軍は白軍既に要塞を棄てゝ退却したと見て、要塞に入らんとするや、待設けたる白軍は、爆彈を以て橋梁を破壞し、爲に獨軍は數百の死傷者を出した此時リッペウキリアム公父子は、既に橋を渡りて歸路を斷たれ、爲め死物狂ひに突擊を試みたが要塞より猛烈なる十字砲火を浴せられて、戰死したとの報知がある。

## 獨帝愈陣頭に立つ

十日獨逸皇帝は親しく白耳義侵入軍統帥の任に當る爲め、白耳義に向て出發せられ、今や白獨國境なるエクス、ラ、シャベルに到



白耳義國リエーヂ市の全景

着せられたとの報倫敦に達したと。

（備考）エクス、ラ、シャペルは獨名をアーヘンと呼び、礦泉の產地を以て其名高く、且歷史上奧地利の王位繼承戰爭、其他數後條約締結の處として知らる。コローンの西四十四哩弱獨白國境に位し、人口約十六萬を有する都市なり。市內にはシャーレマン大帝の王宮あり、鐵道四通八達して交通の便多く、商業又盛なるが、戰局の狀況より見るに、獨帝の此地に大纛を進めるは、少しく疑を存するの餘地あり。恐らく一部軍司令部の進出ならんか。

## 獨軍リエーヂに入る

諸種の情狀を綜合するに、一旦リエージ砲臺攻擊に失敗した獨軍は、後續部隊の到着を待ちて、陣容を改め、戰線には更に重砲を備へ、猛火を砲臺に浴せかけつゝ、リエージ砲臺間の一角を突破して、リエージ市に侵入したらしい。獨軍は白耳義官憲に對し、砲臺にして降服せずんば、同市を砲擊すべしと威嚇し、同市の紳士若干名を人質として押へたが、白耳義軍は斷乎として要求を容れなかつた。獨軍のリエージ市進入については、報道區々にして判










白國リエーヂ市街略圖（口繪を參照せよ）

斷に苦しむも、白耳義軍が獨軍の猛擊に遭遇し、少しく苦戰の狀あつたのは事實のやうだ。獨逸軍は西リエーヂ、ヘスベイ方面に於て規則立ちたる偵察を行ひ、騎兵斥候先づ進み、步兵之に續きてナミュル方面に進出し、六千の獨兵大砲を備へて、ナミュルの東北に位するランデンを占領したといふ。此際獨逸軍はリエーヂ市の周圍に在る白耳義村落に於て、殘忍なる蠻行を爲し、短銃又は旋條銃を所持する村民は、何人の別なく立所に射殺し、數百名を虐殺したといふ。

## 大戰の期近づく

英國新戰時通信局の公表に曰く、約二個師團の獨逸騎兵はトングル附近に滯陣し、リエーヂの彼方にも三個軍團あり、他の一隊はエーン河に沿て塹壕を築きつゝあり、又獨逸軍の大集團は、ルクセンブルグを經て進軍し、其前衞は今や白耳義の國境上に在り。リエーヂの重なる砲臺は依然として獨逸軍に對抗し、既に陷落せるは唯二三の小砲臺に止る、砲擊は間斷なく繼續し、獨逸軍は着々援兵を待ち士氣漸く盛なり。獨軍は今やリエーヂ、ルクセンブルグ間に、廿六個軍團の兵力を集中しつゝあり。英佛聯合軍も白耳義軍と聯絡を通じたれば大戰近きにあるべしと。

## ヂースト附近戰況

今や白軍の戰鬪線はリユーヂ市より北々西に向ひ、トングル、ヂースト等の諸市に達する約四十哩に亘り、佛軍並に英國遠征隊も、白軍を援助して、獨軍に當りつゝある。ブラッセル報によれば、白獨騎兵隊の間に、一日間に亘る激烈なる戰鬪あり、今回の歐洲戰爭開始以來最も激烈なる衝突なりと認められ、獨軍の損傷多大にして、其全軍の五分の三は戰死或は負傷したりと。

（備考）ヂーストはリエーヂの西北に位し、獨軍の迂廻して、アントワープ及び首府ブラッセルを衝くべき要路に當れり。

右の情報より察するに、リエーヂの陷落容易ならずと見るや、獨軍は主力をリエーヂとルクセンブルグとの間に集中し、別に數隊をリエーヂの北部より進ましめ、迂廻してアントワープ、ブラッセルの線を衝かんとしたのである。開戰早々一氣に殺到した獨軍は、今は死物狂ひである。リエーヂの攻擊に失敗したのは、獨軍の士氣に大打擊を與へた。倫敦電報によると負け嫌ひの獨帝は豪語して曰く『獨逸軍はリエーヂに於て勝利を得べかりしなり。されど鮮血を徒費することを避け、十分なる後續部隊の到着するを待つが故に、惡魔は再び吾人より何物をも奪ひ去るを得ざるべし』と八月十三日以來

獨軍對英佛白聯合軍の會戰は、全線に亘りて行はれ、獨軍は聯合軍を擊退する爲めに十萬の兵を犧牲に供する覺悟であると聲言してゐる。

## 白軍大本營ルーウアンに進む

通信の檢査嚴重なるが爲め、リエーヂ方面に於ける確實なる報道を得難きも、各方面の情報を綜合するに、白耳義に於ける獨逸軍はリエーヂ、ブラッセル間の鐵道線及ランデン停車場を包圍し、又獨白兩國の騎兵斥候隊は、ブラッセルより二十八哩の地點に於て衝突し、此外兩軍前哨兵及偵察隊間に頻々として小戰鬪行はれつゝある。兩軍の動作より考ふれば兩軍の大會戰は近日中に起るであらう。尙リエーヂの南方にある獨逸軍はミューゼ河に沿ひ、塹壕を築きつゝあるが、是れ獨軍が守勢を取るの意と解せらる。なほ白耳義の大本營はルーウアンに進んだといふ情報があつた。

（備考）ルーヴアンはブラッセルの東約十五哩、リエーヂの西北約四十哩に在り。



白耳義の警官と警察用の犬

## 英佛司令官相會す

八月十四日英國遠征軍總司令官フレンチ元帥は、佛國總司令官ジョッフル將軍の總司令部に於て會見したとの報があつた

## ヘーレンの戰

リエーヂ要塞の防禦は、依然として堅固、十三日の獨白兩軍接戰は、後世戰史上ヘーレンの戰とも稱せられるであらう。戰鬪は終日に亘つたが、夕刻に至りて白軍はヂースト、ヘーレン及びツエリック方面の獨軍を一掃し、獨軍の屍骸到る處に累々たり。白軍は獨の速射砲裝置自動車の多數を鹵獲したと（十四日倫敦電報）

（備考）ヘーレンはリエーヂの西北、アントワープの近傍に在り。ブラッセルより達したる公報に依れば、白軍は八月十三日を以てリエーヂの北方に在りたる獨軍を擊退し終れりと。

## 白軍獨の飛行機を粉碎す



駐英獨國大使リヒノウスキー公

八月十四日ブラッセル電報によれば、白軍砲兵隊は十三日ヂースト市の上を飛翔せる獨軍の飛行機三箇を砲擊して、航空の自由を失はしめ、内二機は墜落粉碎して操縱者即死し、他の一機の操縱者は墜落の際、即死を免れたるも重傷を負へりと。

## 獨逸側の白佛戰報

本邦駐劄の獨逸大使館着電によれば、一大決戰の期近きに在るもの丶如く、白國に在る獨軍は、ミューズ河の南方に進み、其左翼を以てナミュル要塞に進軍中。同時に一軍は英佛聯合軍牽制の爲めリエージよりブラッセルに向へり、此一軍に屬する騎兵一師團は八月十三日ヂーストに於て、白軍の大攻擊を受け、北方に退却したるが、今や同師團は、アントワープ市に向へり。獨の前進軍は八月十三日ハッセル、ランデンに進み、ブラッセルを隔つること二日の行程に在り。獨の主軍は佛のマールス、ロンギー、ナンシーに侵入せり。佛軍はアルサスに於て大敗し、獨佛の國境に接せる佛領ターン市に擊退せられたりと。

## 獨軍司令官の戰死

ブラッセル駐在エッキスチエンヂ通信員の報ずる所によれば、獨逸のリエージ攻圍軍司令官フォン、エンミッヒ將軍戰死し、フォン、デル、マルウキッツ將軍其後を襲げりと。

（備考）エンミッヒ將軍は、陸軍大將にして、戰爭前は獨逸第十軍團長の職に就き居たり。

## 獨軍聯合軍を包圍せんとす

獨軍と英白佛聯合軍の形勢は、情報の傳ふる所區々に亘つて、觀測に甚だ不便であるが、今や戰線は約二百五十哩に及び、獨軍は北方白耳義アントワープの西東南より、リエージ、メッツ、ストラスブルグの線に亘つて、長蛇の陣を布き、英白佛の聯合軍に當らんとしてゐる。而して昨今傳ふる所の戰況は、總て此等廣汎たる戰線に沿ふ前衞軍の衝突と見るべきものであるが、今日迄の處、聯合軍の形勢大に振つてゐる。獨逸騎兵はヂースト、メッツ間の幾多の地點より突出したが悉く擊退せられ、又ルクセンブルグの南方でも、獨逸騎兵一個聯隊は、佛國砲兵の攻擊を受けて、殆ど一掃された。此の如き形勢であるから、兩軍の主力が相對戰する迄には、尚數日を要することゝ思はる。

## キッチナー元帥の作戰

タイムス軍事通信員は、キッチナー元帥の軍略を評して曰く、佛國は實際に於て、其兵員全部を戰場に送りつゝあり。然るに露軍は守勢を執るには非常に有力にして、資格十分なれども、攻擊軍として未だ其力を試みたることなく、其攻勢の價値を知るに由なし。且一方獨逸軍は屢擊退さると雖も豫備兵の大軍後方に在り、且獨逸は最後の一人一馬を失ふ迄も、戰はんと決心せるを以て、戰爭は自然長びくべく、佛白聯合軍が力盡くる時は、英軍獨軍と惡戰苦鬪せざるべからず之が爲め英國は更に五十萬の兵を要すべし。故にキッチナー元帥の計畫は、海外の正規兵を利用して第一補充軍と爲し、次に大陸出征軍に投ずる地方軍兵士を以て旅團を編成して、第二補充軍と爲し、最後には新兵を以て編成せる軍隊を派遣せんとするものにして、十萬の志願者既に入隊せり、此等の新兵は多分六箇月の訓練を受けたる後、戰場に送るを得べし斯くして新兵の第二第三軍續いて編成せられんとす（以上八月十七日記）



英國首相アスクイス氏

## 獨佛國境の戰鬪

### 佛軍アルサスに侵入す

佛軍は八月二日に大動員を行ひ、メッツ、ストラスブルグ線に集中せる獨軍に對し佛獨國境より進んで之を擊破すべく途をベルフォード方面に取り、夜を徹してアルサス州の國境を突破し、アルトキルヒに於ける獨軍を擊退して、之をミュルハウゼン市に壓迫した。ために獨軍は北方の鐵道線路に向け退却したといふ報道があつた。倫敦電報の報ずる所に依ると、此戰鬪に參加したのは、獨佛兩

軍共に各一個師團に過ぎない、恐らくは佛國偵察隊が獨軍の集中地點を突き止めんとして強行した結果衝突したものであらう。ロイテル電報はアルサス人が雀躍して佛軍の來着を歡迎した旨を報じたが、これは今回の大戰爭に於ける獨佛兩軍第一回の會戰である。ミュルハウゼン及びアルトキルヒの兩市は共にアルサス州の南方であるから、獨逸帝國の最南端に位し、佛國及瑞西の兩國より各數十哩を隔てゝゐる。獨逸の防備上からいへば必ずしも重要の地點でないのみならず、稍北方に當つて有名なるストラスブルヒの堅壘があり、更に北方ルクセンブルグに近くメッツの大要塞があるから、佛軍はアルサス侵入を以て前途を樂觀することは出來ぬ。佛國の策戰はメッツ又はストラスブルグの如き要塞地帶を通り巧みに要塞と要塞との間隙を縫ふて、獨逸の版圖内に入るを目的としたらしい。ミュルハウゼンは獨軍師團司令部所在地であるから、相當の防備もあつたらうし、防戰の後佛軍に擊破せられたとすれば、其損害も多大であつたに違ひない。左の諸情報を綜合すれば激戰のほども思ひ遣らる。



英國外相グレー伯

## 佛軍宿志酬ゆ

佛蘭西軍は着々前進し、アルサス州アルトキルヒに到着したり、同市は防備頗る堅固にして、獨軍之を死守せるが、佛軍は四十餘年前アルサス、ローレヌを獨逸に奪はれたることゝて、復讐心熾なれば、非常の勇氣を以て攻擊し、步兵は堡壘に向つて猛烈なる突貫を試み、終に之を陷れ、獨軍は列を亂して潰走せり（九月巴里電報）

佛軍はアルトキルヒを占領したるが、此戰に於て獨佛を合して死傷數萬に上つた。尙佛軍は七日夜、ミュルハウゼンの要塞を占領したとの報がある。極めて堅固なる近世的防備を有する此等二要塞の占領は、戰局上極めて重要である。

## 佛獨國境上の飛行機

佛國の軍用飛行機は、開戰以來重要なる任務を勤めてゐたが一飛行機は、獨軍を偵察中、敵軍より砲擊せられ、一彈は偵察士官を傷け、一彈は翼を貫けるも、無事佛軍陣地に下降した。又デーリー、ニュース巴里通信員の報道によれば、佛獨國境に於ける佛國飛行隊は探照燈を以て、獨逸飛行隊の侵入を嚴重に警戒しつゝあると。

## 佛軍一日退却す

十二日ロイテル電報報じて曰く、多數の獨逸軍は曩に佛軍の占領せるミュルハウゼンを攻擊せるを以て、佛軍は兵力少き爲め、要塞堅固の陣地迄退却し、此處にて獨逸軍の前進を制止した。佛軍は尙上アルサスの主人公であると。

## 獨軍計畫の齟齬

佛國の動員は頗る滿足に進行した。獨逸は最初ナンシーを占領し、佛の動員を妨碍せんとしたが、リエージ要塞の抵抗意外に頑强である爲め、總ての計畫齟齬したやうである。又佛軍がアルトキルヒ及ウォジュを占領したことは大に佛全軍の士氣を鼓舞したといふ。さもあるべき事だ。



英國陸相キッチナー元帥

## 獨墺軍國境に集中す

今や獨の主力はリエージ附近より、ストラスブルグ附近に亘つて集結を了り、其總豫備はマインツ方面に在る。又墺軍はバーゼル附近に集合し三萬の墺兵獨軍と共同動作を取りつつ、佛國ベルフォール要塞と對峙してゐる。佛に對する獨墺軍の總兵數は、百三十萬と號し、砲數千門に達すといふことだ。

## 獨軍佛國に進出せんとす

八月十二日タイムス軍事通信員の報によれば、獨逸の佛國攻擊軍は、ローレヌ州の北部に在り、十七個の獨逸軍團は白耳義領アルダンヌを經て佛國に進み、聯合攻擊を試むべし。第一線は、八個軍團より成り、第二線は九個軍團より成るものゝ如く、八個師團の騎兵之に伴ふべし。而して獨逸は別に露國國境防備の爲め、六個師團を備へ、戰鬪員は一百萬なるべし。但し佛軍及聯合軍（英露）

は之よりも多數の兵員と、良好の大砲を以て、之に對抗する都合なりと。

## 獨佛軍互に勝敗あり

佛獨國境ロングウヰー、ロンギヰヨン、マルヴヰル、ヴエルトン方向に於ては獨佛軍盛に交戰中なり(十二日ハヴアス電報)

(備考)ロングウヰーはメッツの西北四十哩に在る佛白國境上の佛國要塞所在地にして、其西南數哩にロンギヰヨンの小市あり。マルヴヰユ及ヴエルトンは孰れも其附近の村落なり。

獨軍はミユールハウゼン及びラガルデに於て大捷し、ラガルデに於て佛國將校十名、兵卒五百名を捕虜とし大砲四門小銃多數を鹵獲せり、最早や獨領內には佛兵の影を認めず(十三日ロイテル電報)

佛軍は佛獨國境モンメデイー(佛領)の南方オセーン河畔に於て、二日間に亘りて激戰の後、獨逸軍を擊退し、之を追擊して龍騎兵聯隊を全滅せしめ、將校兵卒併せて千餘名を捕虜とせり(十五日ロイテル電報)



英國海相チャーチル氏

佛軍はコルマールを占領せり(十五日露都電報)

## 獨軍攻勢を中止す

英國官設通信局の報によれば、獨逸軍は上アルサス州に於て、一時攻擊を中止するに至れり。ウオジユ溪谷を進軍中の佛軍はセール、ベサヌに入り、同地方を占領し、獨逸軍を潰走せしめしたり(十五日タイムス電報)

## 佛軍攻勢に轉ず

佛軍の總司令官はジオッフル將軍なり。其他司令官の氏名は秘密に附して發表せられず、又公報によれば佛國軍隊は大部隊を動かし、ランヴイルよりザールブルグに亘る佛獨國境に於て攻勢的運動を開始せり(十六日巴里電報)

## 獨軍の大苦心

以上の諸情報より察するに、獨佛兩軍の主力はまだ衝突して居らぬ。獨逸が豫定の作戰即ち佛に對して目覺まき攻勢を取ることの出來ないのは白耳義に於けるリエージ、ナミユールの二要塞が陷落しないからである。此二要塞の陷落せない限りは、獨軍はミユーズ河を渡ることが出來ず、ミユーズを渡らなければ佛國の主力に當れない。獨逸が如何なる犧牲を拂つても此二要塞を拔かんと決心したのは之が爲である。此二要塞の陷落が長引く程、英佛聯合軍の兵力が增して來るから、目下獨軍の立場は非常に苦しいのである。(以上八月十七日記)



英國陸軍總司令官フレンチ元帥

## 獨墺對露國戰況

### 三强國の國境防備

露國は最近三四年間に、慘憺たる苦心を以て西方國境方面に於ける軍備の充實を圖つた、露獨國境上に於て常に守勢を取つた露國が、今度の開戰早々攻勢を取らんとするのも之が爲である、即ち獨軍に對する露軍の主力は、ワルシャウ軍(五軍團)ウイルナ軍(四軍團)ペテルブルグ軍(三乃至四軍團)キーエフ軍(二軍團)で豫備兵の補充を待たずに敵國に侵入せんとする形勢がある。最近の情報によると露國の主力はワルショウより北部グロゾーの附近に在りて其數百萬を下らざるべしと推測せらる。但し露國の動員は交通並に地理の關係から、獨軍よりも甚だ遲緩に行はるゝのは已むを得ない、過日來の歐洲電報によると、露軍は鐵道及河船により盛に大兵を西方に輸送しつゝあるさうであるが、これは必ず前記軍團を西方國境に集中しつゝあるに相違ない。

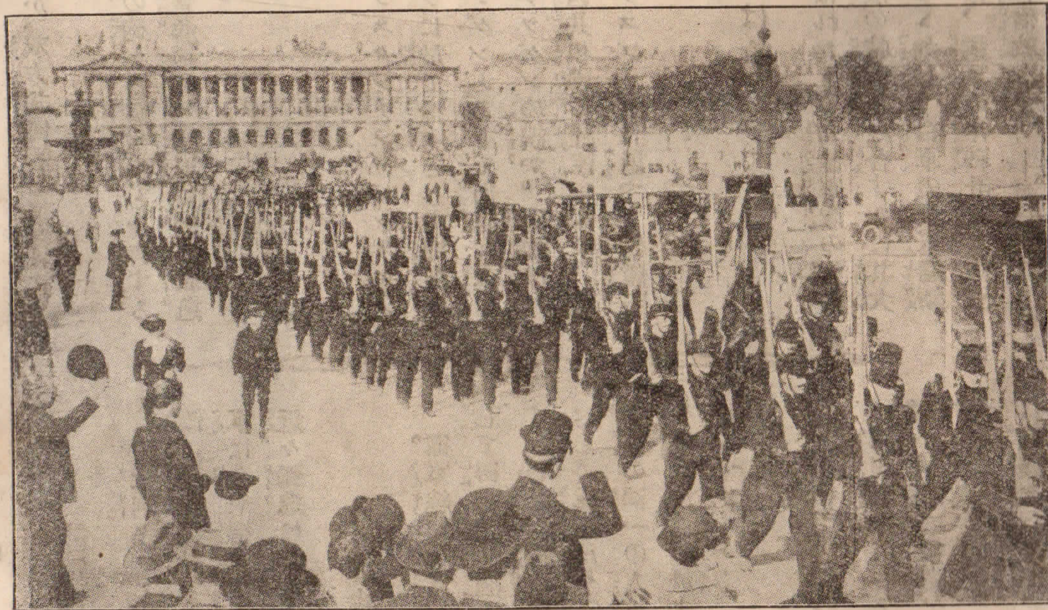
獨逸の露軍に對する防備如何を見るに、東普魯西の防禦の中心にケエニヒスベルグの大要塞がある。此要塞は新式




アルサス、ローレーヌ及佛國々境略圖

堡壘を以て圍繞せられ、氣球大隊が附屬してゐて、專ら國境上の展望を任務とする程大警戒を加へてゐる。これが獨逸東方國境に於ける最左翼であつて、同境上の最左翼はトルンの要塞である。而してトルンに連つてワイグゼル河に幾多の要塞があるが、此等の要塞は獨逸の對露作戰上頗る重要なる位地を占めてゐる。

墺軍の兵備は今日の處詳知するに由なきも、全軍十六團中疊にセルヴィアに對して八軍團と、獨立三師團騎兵三師團を差向けたとすれば、殘りの八師團を以て露に備へたものと見るの外はないが、今日では塞國に對する兵備を弛めて專ら露國々境に兵を集中したものと見るべく、其數十軍團を下らないであらう。其主力の所在地は國境の二大要塞たるレンブルグ及クラカウの間に在るものと察せらる。



巴里市中の佛國步兵(通行人の軍旗に對する敬禮を看よ)

以上は露獨墺三國對峙の大勢を示したものであるが、獨逸の作戰は佛軍に對して攻勢を取り、露軍には守勢を取るのであるから、勿論主力を露獨國境に出す餘地がない。露國も亦動員の遲れ勝になる處から、目下獨に對して主力を以て攻勢を取る迄に捗らして居らぬ、露國が二日に動員令を下したものとすれば、少くも全部の完了を告ぐるには三週間を要するものと見て、開戰後約一箇月の後でなければ充分に活動することが出來ぬ。其間互に兵の集中を妨げる爲め牽制運動や偵察戰が頻繁に行はるゝのである。

## 獨露國境の第一戰

八月一日午後露國々境警衞兵は、プロストケン附近に於て國境より三百ヤードの距離にありたる獨逸警衞

兵に向け射擊し獨逸兵も答戰せるが、双方共何等の損害なし。（八月二日ロイテル電報）

伯林よりの報道によれば、若干の砲と哥薩克兵とを有する强大なる露軍縱隊は、ビアラ（東普魯西州）附近に於て獨逸に侵入せり、今や通信全く絶ゆと。

## 露國皇族抑留せらる

露都電報によれば、露國皇族コンスタンチン、コンスタンチノウヰッチ大公はウヰリヅンゲンに於て捕虜として抑留せられたりと。電文は單にウヰリヅンゲンとありて何處なるや分明ならざるも、或は獨逸ウヰルリッゲンの誤か。同地はバアデン大公國の東南部に在りて瑞西共和國に程遠からず、瑞西のコンスタンツより獨逸のストラスブルグに通ずる鐵道の一驛である。

## 露國の動員迅速に行はる

露國の動員は豫想外に迅速に行はれたり。勿論軍隊の行動は最も祕密に附せられ居るも、諸般の情報を綜合するに其大部隊は愈進發を始めんとするものゝ如し、白軍の獨軍遮斷に加ふるに此露軍の前進を以てせば、獨軍の作戰計畫は全然破壞せらるゝに至らん。（八月十五日倫敦電報）

## 露軍進擊の準備成る

伊太利クルアル露都通信員の報によれば、獨墺聯合軍の露領波蘭に對する進擊的運動は露軍に依りて阻止せられ、露軍は今や獨墺聯合軍を擊退するに足る勢力を國境に集中し、近々獨逸に侵入すべしと豫期せらると。

## 露帝波蘭人に自治を許す

露軍總司令官ニコラス、ニコライエウイチ大公は告諭を發して曰く、波蘭人は宜しく一致團結してツアーの麾下に參集すべしと。尙波蘭に自治を許可するの布告を近々發表せらるべし。露帝は全露の人民が、其孰れの民族に屬するを問はず露帝の同一の人民として皆一齊に起ちて邦土を防禦せんことを求めたるが、波蘭議員は皆滿足の意を表せり。（八月十五日露都電報）

## 露軍ソカールを占領す

露國軍隊はスチーア河谷（ガリシアより露領ウォリニアに流るゝ河）に路を取り、前面なる敵の前衞を驅逐しつゝ、墺太利に入れりと、尙露都に於ける半官的發表によれば、露軍は强襲を行ひて、墺地利ガリシア州のソカール町を占領し、同地守備兵に對して多大の損害を與へたり。（八月十五日露都電報）

（備考）ソカールは露領ヴォルヒニア州境より、墺領ガリシア州に入るレンベルグへの途上に在る一小町なり。

露國騎兵は墺國ガリシア進擊の途に上り、三箇聯隊より成る騎兵はソカールに於ける重要なる鐵道停車場を占領したり（同上）

## 獨墺軍の配備

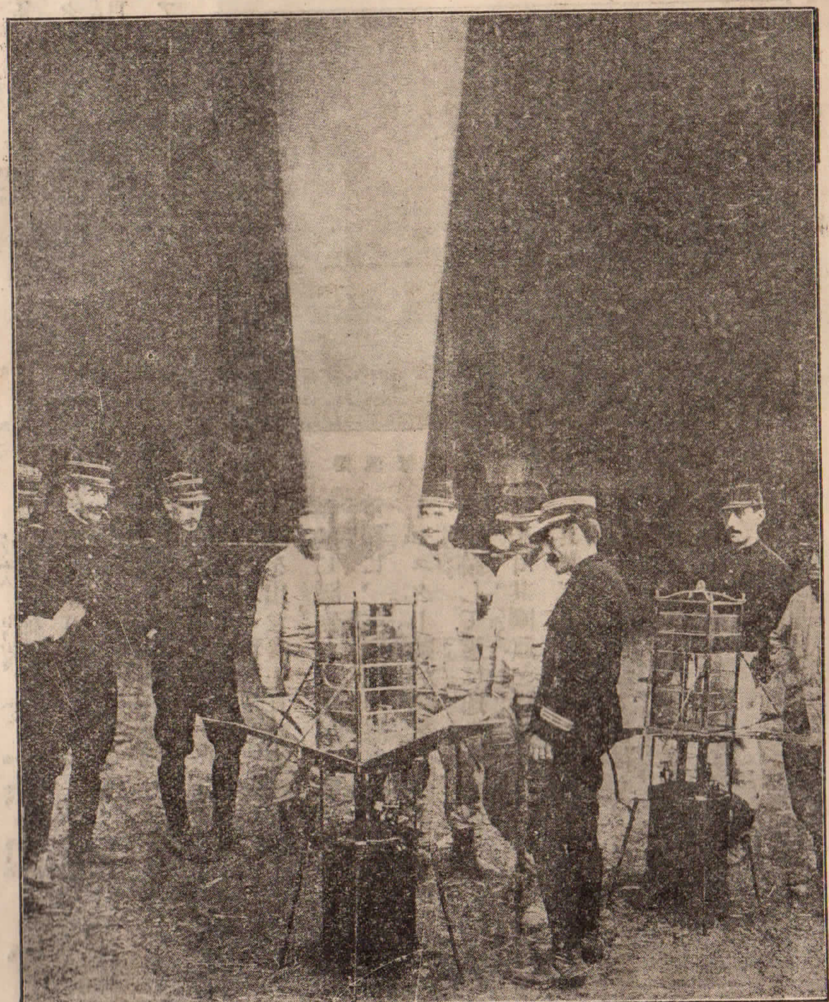
最近の情報によれば、獨逸は露國に對して先づ二十軍團を備へしが、更に近く會戰を豫期して豫備兵より編成せる二十五師團三十一騎兵聯隊をも配置せり。今や國境を越えたる墺軍の主力部隊は、獨逸軍支部隊を聯合せるが如く、獨逸司令官に從屬し其指揮を受けつゝありと。

（以上八月十八日記）

# 海軍方面戰況

## 地中海の第一戰

交戰國海軍の行動については何等形勢を觀測するに足る情報に接しないが、先づ海戰第一報として傳へられたのは地中海に於ける獨艦のアルゼリア砲擊である。五日某所に達した電報によると、獨逸軍艦ゲーベン（二二、六四〇噸・十一吋

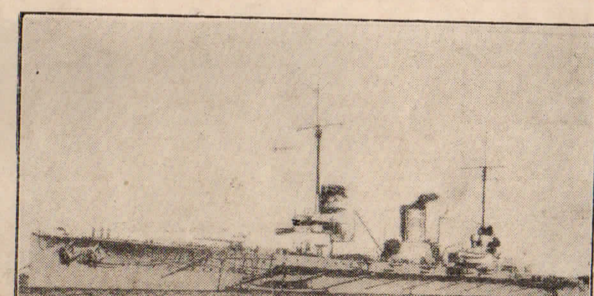


佛軍の飛行機探照燈

砲十門速力二八、六)、ブレスラウ(四、五〇〇噸、六吋十二門、四吋砲十二門、速力二七、五)パンター(九六二噸三吋半砲八門、速力一三、五)の三隻は、八月四日午前亞弗利加北岸アルゼリアの佛領ボーナ(アルゼリアの東端に在る良港にして要塞あり、人口四萬内二萬は歐羅巴人なり)を砲擊したるが、其引揚に際し英國艦隊より航路を遮られ、遂に佛國艦隊と交戰するの已むなきに至り、其結果獨艦パンターは沈沒し、他の二艦は佛艦の爲に捕獲せられたりとあつたが、其後の情報によつてゲーベン、ブレスラウの二艦は東走して伊太利メッシナ港に入り、更にダーダネルス海峽に遁竄したことが分つた。

## 獨艦佛領攻擊の目的

元來佛國の主力艦隊は、千九百十二年以來ツーロンを根據地として大西洋には出でず、專らツーロンよりボーナ港に到る地中海西海岸の制海權を確保するに務めて居た。其理由は一朝獨逸との戰端開かるゝ場合、アルゼリアの第十九軍團を安全に輸送せんが爲めである。されば



獨逸弩級巡洋艦ゲーベン

四日に行はれた獨艦の砲擊は兵の輸送を妨げるか若しくは敵狀偵察の目的に出たものであらう。

## 逃竄獨艦の武裝解除

獨艦ブレスラウ及ゲーベンは、伊太利メッシナ港を出た後土耳其國旗を掲げてダーダネルス海峽に遁竄したといふ說がある。十五日の倫敦電報に、英國地中海艦隊所屬の一小巡洋艦グローセスター號が、ゲーベン、ブレスラウの二艦を追跡して遂に逸走せしめたとあるのも、恐らく土耳其國旗を掲げて居たからであらう。其後ダーダネルス海峽の獨艦は土耳其に賣却するといふ風說も傳はり、大分同盟軍諸國の物議を釀したが、結局兩艦は武裝解除の上同所に抑留さるゝことゝなつたらしい。

## 交戰各國艦隊の行動

八月三日タライン河口に入りたる各汽船の報告によれば、獨佛(獨英ならん)艦隊は英國ヨークシャ州フラムボロー岬沖合の北海に於て交戰中なり。(八月四日倫敦電報)

(備考)　フラムボロー岬は英國ヨークシア海岸に在り。

獨逸艦隊は丁抹海にありて威嚇的遊弋をなし既に同海中に一萬の水雷を敷設せり。(八月七日露都電報)

獨艦十九隻はメーメル及リボー沖合に遊弋し居れり。(八月七日倫敦電報)

(備考)　メーメルは東部普魯西のカムヒンネ州ダンゲ河口に在り最も近く露境に接す。

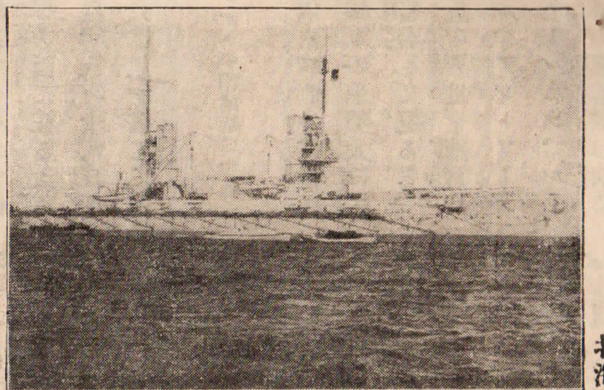
戰鬪準備を整へたる英國地中海艦隊と驅逐艦は全速力にて出港せり、佛國艦隊に合せんが爲めなりと信ぜらる。(八月十日モールタ發電)

戰鬪艦、巡洋艦十三隻及水雷艇十六隻より成る墺國艦隊はアドリアチック海を南方に進航しつゝあるを見たり。(八月十日タイムス電報)

## 北海の英獨海戰

北海の海戰については、英獨兩國側の情報區々にして何れも信を措き難いが、暫らく情報のまゝを左に掲げて後報を待つことゝする。日獨郵報社の報によれば、八月四日夜獨逸一水雷艇隊はハンバー河口に碇泊中なりし英國艦隊に砲擊を加へ、其際英國旗艦及び弩級戰艦三隻は擊沈せられたる外、少くも同艦隊所屬の大型軍艦六隻は大損害を被りたるが、獨逸艦隊にては僅に水雷艇四隻を失ひたるのみ。

(備考)　ハンバー河は英國東岸に在り、北海に流るゝ大河なり。



獨逸弩級戰艦カイセル

北海に於て英獨兩國艦隊間に戰鬪行はれ、英國弩級戰艦數隻は蘇格蘭エヂンバラ港沖合に於て大損傷を被むり露艦ヂャサラ號は直に此方面に向け出發せり(八月六日膠州灣電報)

獨逸太平洋艦隊は英國艦隊と北海ドッカーバンク漁業區に於て開戰の後敗北逃走中なり。(八月七日倫敦電報)

英國艦隊は獨逸太洋艦隊と會戰し、今や和蘭沿岸に追擊中なりとの報サムスシールヅより來る。(同上)

右の外英國北海岸に砲聲連日聞などの情報があるから北海に海戰があつたのは事實らしい。

## 英艦沈沒の公報

八月七日英國海軍省の公表によれば、英國巡洋艦アムフォン號は、獨逸の沈設水雷に觸れ今朝沈沒し、乘組員中百三十一名は死し、將校若干名水兵百三十五名救助せられたりと

(備考)　アンフィヨン號は千九百十一年進水、三千四百四十噸、四吋砲十門、速力二五節なり

# 最近戰局の發展

## 大會戰の期迫る

獨逸皇帝は、八月十六日午前大本營幕僚を率ゐてマインツに進發し、此要地に大纛を樹てゝ白佛兩國境方面に在る大軍を指揮することゝなつた。一方英國遠征軍は、八月十八日全部の上陸を了り、司令官フレンチ將軍は既に巴里を發して白國方面に向つたといふ情報があつた。

（備考）マインツはライン河の左岸フランクフオルトの南西約二十哩に在る獨逸聯邦ヘッセン大公國の首都

白耳義方面に於ける兩軍の形勢について白佛兩國側の電報は頻に聯合軍の捷利を傳へて居るが、實際は獨軍の形勢大に振つてゐるやうである。十九日以後の情報を綜合して見ると、獨軍の總攻擊は着々効を奏し、リエージ附近の要地を確實に占領して白耳義軍をルーウアン、ブラッセル、アントワープの線に壓迫し、激戰二時間の後ヂースト、チイルモン、ルーウアンを占領したといふから、リエージ要塞の陷落は目前に迫つて來た。果せるかな廿一日の倫敦電報はリエージ要塞の陷落を傳へ、獨軍は目下同要塞の損所を修繕中で、守備兵のみを殘し西方に向て進軍中、ブラッセルも亦獨軍の爲に占領された旨を報じて來た。若しこれが事實とすると、獨軍はミユーズ河盂の主となり、地勢及軍略上聯合軍は極めて不利の地に立つことゝなる、即ち聯合軍はリエージ附近のミユーズ河畔に在る白軍との聯絡を斷たれ、ズッと後方のナミユール、アントワープを兩翼とする防禦線に退却して獨軍を支ふる外はあるまい。

獨佛國境方面の形勢を見るに、佛軍の主力はヴエルダン、ナンシー方面に在て、其前衛は既にアルサス、ローレヌに進出し、十八日にはストラスベルグとメッツの間に在るザールブルグを占領したといふ。此方面には獨逸の第十五軍團墺國の第十四軍團があるが、兵力は比較的微弱だから、佛國は此方面より侵入し、獨軍の左翼を北方に壓する計畫と思はれる。

獨露及墺露國境方面の戰局は未だ著しい發展を見ないが、露軍は獨逸の北方東普魯西に對して攻勢を取り、宣戰と同時に國境アイトクーネン附近に小規模の斥候戰を見、更に最近には獨軍自からチルジット附近の電線鐵橋十數個所を破壞し更に南方東普魯西に到る通路上のインステルベルグ地方に於ては、稍優勢なる露軍の爲に擊退されたといふ。此方面にはケエニッヒベルグの堅塞を最左翼とし、スピルディンスク湖水を右翼とする獨の第一線があるから、露軍は容易に此線を突破することは出來ぬ。一方露墺國境に於て露軍は目覺ましい活動を爲し、其前衛はガリシアに進入し、墺軍の先頭を擊破しつゝレンブルグに向て前進中である。



# 對獨國交斷絕

## 戰鬪行爲開始

### ▲獨逸の要求拒絕

帝國の最後通牒に對し、二十日獨逸政府は公式に聲明して曰く、日本の膠州灣を獲得せんとするは、吾人に取り苦痛は苦痛なれども、戰局には何等影響を及ぼすものに非ず。獨逸は餘義なく日本の要求を拒絕せざるべからずと。果然、吾が最後通牒に於て指定せる回答期限たる二十三日正午迄には、獨逸政府より竟に何等の回答到らず。是れ即ち無回答の回答にして斷然、拒絕の意思を表明せるもの也、於是、帝國の獨逸に對する國交は、愈爰に斷絕せり。

### ▲獨逸大使引揚ぐ

先之、獨逸大使館は、引拂準備に汲々たりしが、國交斷絕と共に、大使レックス伯は、獨逸大使館の保管並に在留獨逸國民の保護を米國大使に托し、館員一同を率ゐて東京を引上げ、安藝丸若くはミネソダに便乘して、二十六七日頃橫濱を發し、米國經由歸國の途に就く筈なり。

### ▲青島獨軍戰備を急ぐ

回答期切迫と共に、青島駐屯の獨逸軍は、塹濠砲臺を構築し、背面に鐵條網防備を爲して電流を通じ、海面には連に水雷を敷設すると共に、在留民中十八歲以上四十五歲に至る男子を悉く徵集して國民軍を編成し、支那人名義にて北京天津方面より盛に糧食を搬入する等、籠城の準備に汲々たり。

### ▲英露佛の共同戰鬪準備

帝國の戰鬪行爲開始と共に、英露佛三國は、各々其の東洋艦隊を擧げて帝國海軍に合せしむるは固より、印度、北滿よりは强力なる陸兵を輸送して、帝國陸軍と共同動作に出でしむる筈にて、出動の準備既に全く成れり。

# 交戰列國々勢概觀

**一、列國陸軍々備――二、列國海軍力比較――**
**附、列國東洋艦隊、帝國海軍**

戰爭の勝敗が單に數字に顯さるべき兵數や噸數の多寡のみで決するもので無いとは勿論であるが、併し各個の國民性や社會狀態や、愛國心の程度や、作戰の巧拙など云ふ、戰爭の勝敗に極めて重要なる關係を有つ要素は、目の子勘定で計算する譯には行かぬから、先以て有形上最も重要なる軍備を初め、富力を示すべき貿易額、歲出入、實力の基礎たる面積、人口等を調べて置く必要がある。

## (一) 列國陸軍々備

軍備は列國共努めて其の眞相を世に秘するが故に、精確の數字の往々知るべからざるものがある。殊に陸軍の戰時編制に至りては、當路の專門家と雖も、種々の推定比率を以て最も事實に近しとする見込を算出する位に止るものであるから、その推定比率の基礎の異るに從つて、數字に著しい差違を生じて來るを免れぬ。是故に、戰時の總兵員數は、種々の調べによつて途方もなく數が違つて居る。例へば、吾が參謀本部の調査(一九一二)では、露西亞の總兵力が三百五十萬人とあり、デーリー・メール年鑑(一九一三)にはそれが四百五十萬人とあり、又米國世界年鑑(一九一三)では、佛蘭西の總兵力が三百萬人になつて居るかと思へば、デーリー・メールでは四百萬人、參謀本部調査では二百四十萬人になつて居ると云ふ風の類である。併し、一種類の調査では、大體精確に近き一定の推定標準に據つて居る筈であるから、これによりて略比較の見當だけは付くことになる。爰には便宜上一九一三年の米國「世界年鑑」に據つて必要の部分を揭げて置く。

| | 平時兵員 | 豫備役 | 戰時兵員 | 兵役に堪ふる人員 |
|---|---|---|---|---|
| 獨逸 | 620,000 | 3,380,000 | 4,000,000 | 2,000,000 |
| 墺匈 | 360,000 | 1,640,000 | 2,000,000 | 3,000,000 |
| 計 | 980,000 | 5,020,000 | 6,000,000 | 5,000,000 |

| | 平時兵員 | 豫備役 | 戰時兵員 | 兵役に堪ふる人員 |
|---|---|---|---|---|
| 露西亞 | 1,200,000 | 4,500,000 | 4,500,000 | 4,200,000 |
| 佛蘭西 | 560,000 | 2,440,000 | 3,000,000 | 1,000,000 |
| 英吉利 | 254,500 | 545,500 | 800,000 | 2,000,000 |
| 白耳義 | 42,000 | 138,000 | 180,000 | 400,000 |
| 塞爾亞 | 35,000 | 195,000 | 240,000 | 60,000 |
| 計 | 2,091,000 | 5,618,000 | 8,720,000 | 8,660,000 |

此外、露、佛、英側にはモンテネグロ王國あれども、戰時兵員約三四萬人と云ふ以外、精確の數を知ることが出來ぬから、爰には省く。

各國とも、植民地守備軍とか護境軍とか土人兵とか、國によりて種々込入つた關係がある。從つて敵手國によつて作戰上兵の配置や、その實戰に用ひ得べき兵數なども種々に違つて來る譯であるが、夫等は專門家ですらも、精密には推定することが困難な位であるさうだから、今は大體の兵數だけに止めて置く。これによると、戰時の兵數は

獨墺側　六百萬人
露佛英側　八百七十一萬人

となる譯である。

序に交戰列國の面積、總人口、及び人口に對する常備陸軍兵數の割合を調べて見ると、

| | 面積(方哩) | 人口(人) | 人口千ニ對スル常備兵員數 |
|---|---|---|---|
| 獨逸 | 一、二三七、四八三 | 七八、〇〇〇、〇〇〇 | 九、九一 |
| 墺匈 | 二六一、〇三〇 | 五一、五〇〇、〇〇〇 | 七、二二 |
| 計 | 一、四九八、五一三 | 一二九、五〇〇、〇〇〇 | ― |

| | 面積(方哩) | 人口(人) | 人口千ニ對スル常備兵員數 |
|---|---|---|---|
| 露西亞 | 八、三七九、〇四四 | 一六三、〇〇〇、〇〇〇 | 八、四九 |
| 佛蘭西 | 四、七七八、五七九 | 三九、二五〇、〇〇〇 | 一四、九三 |
| 英吉利 | 一一、七五三、七一二 | 三九六、二九四、七五二 | 〇、六四 |
| 白耳義 | 八一三、三七〇 | 七、四五一、九〇〇 | 六、三七 |
| 塞爾亞 | 三四、六〇〇 | 二、九二二、〇五八 | 九、五八 |
| 計 | 二五、一五四、三三五 | 六〇八、九一八、七一〇 | ― |

となり、面積から云つて、

獨墺側　百四十九萬八千五百十三方哩
露佛英側　二千五百十五萬四千三百三十五方哩

人口から云つて、

獨墺側　一億二千九百五十萬人
露佛英側　六億〇八百九十一萬八千七百十八人

の間の戰爭となる譯である。

## (二) 列國海軍力比較

先づ交戰列國の艦艇總數から調べてかゝる、但し建造中のものはこれを省く。(一九一四年四月現在)

| | 戰艦 | 巡洋戰艦 | 裝甲巡洋艦 | 輕巡洋艦 | 驅逐艦 | 水雷艇 | 潜水艇 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 隻 | 隻 | 隻 | 隻 | 隻 | 隻 | 隻 | 隻 |
| 獨逸 | 三三 | 四 | 九 | 四五(内六裝甲) | 一三二 | 五四(内三八老朽) | 二四 | 三〇一 |
| 墺匈 | 七 | — | 三 | 七 | 一二 | 七七(内一四老朽) | 六 | 一一三 |
| 計 | 四〇 | 四 | 一二 | 五二(内六裝甲) | 一四四 | 一三二(内五二老朽) | 三〇 | 四一三 |
| 露西亞 | 一一 | — | 六 | 八 | 一〇四 | 二九 | 三七 | 一九四 |
| 佛蘭西 | 二三 | — | 一九 | 一二 | 七四 | 一六五(内一七老朽) | 七八 | 三七〇 |
| 英吉利 | 六〇 | 九 | 三四 | 八九 | 二三二 | 一〇九(内五〇老朽) | 七七 | 六一〇 |
| 計 | 九四 | 九 | 五九 | 一〇九 | 四一〇 | 三〇三(内六七老朽) | 一九一 | 一一七四 |

これによりて觀れば、獨墺對露佛英の海上總勢力は、

| | 戰艦 | 巡洋戰艦 | 裝甲巡洋艦 | 輕巡洋艦 | 驅逐艦 | 水雷艇 | 潜水艇 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 隻 | 隻 | 隻 | 隻 | 隻 | 隻 | 隻 | 隻 |
| 獨墺側 | 四〇 | 四 | 一二 | 五二 | 一四四 | 一三二(内五二老朽) | 三〇 | 四一三 |
| 露佛英側 | 九四 | 九 | 五九 | 一〇九 | 四一〇 | 三〇三(内六七老朽) | 一九一 | 一一七四 |

と云ふ對抗になる。

併し、右は實戰に於て全く物の役に立たぬ樣なボロ船迄悉く計算したのであるから、これを以て直に交戰列國の海上實勢力とすることは出來ぬ。依て、實際に戰鬪力を有する艦艇數を左に掲げる。(大正三年三月末調)

| | 主力艦 | | 巡洋艦 | | 水雷隊 |
|---|---|---|---|---|---|
| 獨逸 | 三七隻 | 六一五、九五五噸 | 三八隻 | 一九〇、七一九噸 | 一三三隻 |
| 墺匈 | 一一 | 一三八、七二七 | 五 | 二一、一八五 | 二四 |
| 計 | 四八 | 七五四、六八二 | 三三 | 二一一、九〇四 | 一五七 |
| 露西亞 | 一二隻 | 一九九、六五四噸 | 一一隻 | 七七、八三八噸 | 一〇二 |
| 佛蘭西 | 二〇 | 三一五、九二一 | 一六 | 一六一、九三五 | 一四三 |
| 英吉利 | 六八 | 一、一八七、一五〇 | 六八 | 五二八、六一〇 | 二三三 |
| 計 | 一〇〇 | 一、七〇二、七二五 | 九五 | 七六八、三八三 | 四七八 |

即ち海上の戰鬪實力からこれを見れば、

| | 主力艦 | | 巡洋艦 | | 水雷隊 |
|---|---|---|---|---|---|
| 獨墺側 | 四八隻 | 七五四、六八二噸 | 三三隻 | 二一一、九〇四噸 | 一五七 |
| 露佛英側 | 一〇〇 | 一、七〇二、七二五 | 九五 | 七六八、三八三 | 四七八 |

と云ふ對抗になる。

右に於て、主力艦としてあるのは、艦齡二十年未滿の裝甲巡洋艦以上、巡洋艦とあるは艦齡十五年未滿の輕巡洋艦以下水雷隊とあるは、十一年未滿の驅逐艦、水雷艇、潜水艇を含むだものである。

以上の艦數は、大體、戰鬪に於て第一線及第二線に立ち得る勢力のものを示したのであるが、若夫れ、戰鬪の第一線に立ち得るものに至つては、所謂準ドレッドノート級以上のものでなければならぬから、本當の戰鬪主力を知らんが爲には又別に各國のドレッドノート級艦數を調べて見なければならぬ。

◎獨逸　二十一隻(四十八萬四千六百十噸)

▲戰艦　十六隻(三十六萬六千七百十噸)

ドレッドノート級

ナッサウ型(一八、六〇〇噸)　四隻

ナッサウ▲ウエストファーレン▲ラインランド▲ポーゼン

オーストフリースランド型(二二、四四〇噸)　四隻

オーストフリースランド▲ヘルゴランド▲チューリンゲン▲オールデンブルグ

カイザー型(二四、三一〇噸)　五隻

カイザー▲フリードリヒ・デア・グローセ▲プリンツ・ルイトポルド▲キョーニヒ・アルバート▲カイザリン

キョーニヒ型(二七、〇〇〇噸)　五隻

キョーニヒ▲グローサ・クールフユルスト▲クローンプリンツ

▲巡洋戰艦　五隻(十一萬七千九百噸)

ドレッドノート級

フオン・デア・タン(一九、一〇〇噸)

モルトケ型(二二、四〇〇噸)　二隻

モルトケ▲ギエーベン

ザイドリッツ(二四、〇〇〇噸)

デアフリンガー(三〇、〇〇〇噸)

◎墺匈　三隻(六萬噸)

▲戰艦　三隻

ドレッドノート級

テゲトフ型(二〇、〇〇〇噸)　三隻

テゲトフ▲プリンツ・オイゲン▲フイリブス・ウニチス

◎露西亞

建造中のもの戰艦六隻、巡洋戰艦四隻あれども、完成せるもの未だ一隻もなし。

◎佛蘭西　八隻(十五萬四千二百二十四噸)

▲戰艦　八隻

準ド級

ヴオルテーア型(一八、〇二七噸)　六隻

ヴオルテーア▲ヴエルニョー▲ミラボー▲ヂデローー▲コンドルセー▲ダントン

ドレッドノート級

クールベー型(二三、〇二六噸)　二隻

▲クールベー▲ジアン・バール




## ◎英吉利　三十一隻（六十四萬九千四百噸）

**▲戰艦**　二十四隻（五十一萬〇四百五十噸）

**準ド級**
ロード・ネルソン型（一六、五〇〇噸）　二隻
ロード・ネルソン▲アガメノン

**ドレッドノート級**
ドレッドノート（一七、九〇〇噸）
ベレロフオン型（一八、六〇〇噸）　三隻
ベレロオン▲テメレーア▲サバーブ
コリングウード型（一九、二五〇噸）　三隻
コリングウード▲セント・ヴインセント▲ヴアングワード
ネプチユーン型（二〇、〇〇〇噸）　三隻
ネプチユーン▲ハーキユールス▲コロッサス

**超ド級**
オライオン型（二二、五〇〇噸）　四隻
オライオン▲サンダラー▲モナーク▲コンクエラー
アジャックス型（二三、〇〇〇噸）　四隻
アジャックス▲センチユーリオン▲オーデーシアス▲キンク・ヂョーヂ五世
アイオン・デユーク型（二六、四〇〇噸）　四隻
アイオン・デユーク▲マルボロー▲エムペラー・オヴ・インデア▲ベンバウ

**▲巡洋戰艦**　七隻（十三萬八千九百五十噸）

**ドレッドノート型**
インヸンシブル型（一七、二五〇噸）　三隻
インヸンシブル▲インフレキジブル▲インドミダブル
インデフアチガブル（一八、七五〇噸）

**超ド級**
ライオン型（二六、三五〇噸）　三隻
ライオン▲プリンセス・ローヤル▲クヰーン・メリー（二七、〇〇〇噸）

以上を見易い樣に通計比較して見ると、

| | | | |
|---|---|---|---|
| 獨墺側 | 戰艦 | 十九隻 | 四十二萬六千七百十噸 |
| | 巡洋戰艦 | 五隻 | 十一萬七千九百噸 |
| | 計 | 二十四隻 | 五十四萬四千六百十噸 |
| 露佛英側 | 戰艦 | 三十二隻 | 六十六萬四千六百七十四噸 |
| | 巡洋戰艦 | 七隻 | 十三萬八千九百五十噸 |
| | 計 | 三十九隻 | 八十萬三千六百二十四噸 |

の對抗となる。

以上で交戰列國海軍力の比較は概略明瞭になる譯である。

これが各その國の地勢によつて、北海、波爾的海、地中海等

の諸方面に配備せられて居る。その最近配備の方法艦名等も調べてはあるが、東洋艦隊の外は、擧げて見ても左程興味も無いから、陸軍兵力の配置と同じく、爰には省略することとする。

最後に東洋海面に於ける各國の勢力及び帝國海軍の主力を左に掲げる。

◎獨逸

裝甲巡洋艦　二隻
シャルンホルスト（一一、六〇〇）（旗艦）▲グナイゼナウ（一一、六〇〇）

巡洋艦　三隻
ライプチヒ（三、二〇〇）▲エムデン（三、五四四）▲ニユルンベルグ（三、三九六）

砲艦　四隻
チーグル▲ルックス▲ヤグアール▲イルチス

河用砲艦　二隻
オッタワ▲チンタウ

驅逐艦　一隻

◎墺匈

巡洋艦　一隻
カイザリン・エリザベス（四、〇〇〇）

○

◎露西亞

巡洋艦　二隻
アスコルド（五、九〇五）（旗艦）▲ゼエムチューグ（三、一三〇）

驅逐艦　九隻
特務艦　六隻
潛水艇　四隻
水雷艇　一隻

◎佛蘭西

裝甲巡洋艦　二隻
モンカルム（九、三六七）（旗艦）▲デュプレー（七、五七八）

砲艦　二隻
アベルヴィーユ▲アルグス

河用砲艦　四隻
ベーホー▲デューダール・ド・ラグレー▲デシデー▲ヴィジランテ

驅逐艦　三隻
特務艦　三隻
潛水艇　四隻
水電艇　一隻

◎英吉利

戰艦　一隻
トライアンフ（一一、〇〇〇）

裝甲巡洋艦　二隻
マイノトール（一五、〇〇〇）（旗艦）▲ハムプシャー（一一、〇〇〇）

巡洋艦　四隻
ニユーキャッスル（四、八二〇）▲ヤーマス（五、二五〇）▲バイレーマス（二、一三五）▲ダアトマス（五、二五〇）

砲艦　三隻
ブラムブル▲キドゲオン▲キャドマス▲クリオ▲ブリオマート▲シストル

河用砲艦　九隻
チール▲ナイチンゲール▲ウッドラークス▲ニッブ▲ウッドコック▲キンシャ▲サンドパイパー▲ムーアヘン▲ロビン

驅逐艦　十三隻
特務艦　一隻
潛水艇　二隻
水雷艇　四隻

以上を一括して表示すれば

| 艦 | 獨墺側 | | 露佛英側 | |
|---|---|---|---|---|
| 戰艦 | ― | ― | 一隻 | 一二、〇〇〇噸 |
| 裝甲巡洋艦 | 二隻 | 二三、二〇〇噸 | 四隻 | 四二、九四五噸 |
| 輕巡洋艦 | 四隻 | 一四、一四〇噸 | 六隻 | 二六、四九〇噸 |
| 水雷隊 | 二隻 | | 四二隻 | |

となる。但し、砲艦、河用砲艦は、中には既に武裝を解除せるものあり、然らざるも海戰には全く用を爲さゞるものゝみなるが故に、これを省く。

◎帝國海軍

以上の諸比較に比較參照する爲め、玆に帝國海軍の艦種及噸數を揭げて置く。

▲超ド級巡洋戰艦（二七、五〇〇噸）　二隻
金剛▲比叡

▲ドレッドノート級戰艦（二一八、五〇〇噸）二隻
河內▲攝津

▲準ド級戰艦
薩摩(一九、三五〇噸)▲安藝(一九、八〇〇噸)
計　六隻　十五萬〇百五十噸
▲ド級前戰艦　六隻
鹿島(一六、四〇〇噸)▲鹿取(一五、九五〇噸)▲三笠(一五、三六二噸)▲朝日(一四、七六五噸)▲敷島(一四、八五〇噸)▲肥前(一二、七〇〇噸)
▲ド級前巡洋戰艦　四隻
筑波▲生駒(一三、七五〇噸)▲鞍馬▲伊吹(一四、六二〇噸)
計　十隻　十四萬六千七百六十七噸
▲裝甲巡洋艦　九隻
出雲▲磐手(九、七五〇噸)▲八雲(九、八五〇噸)▲吾妻(九、四三六噸)▲淺間(九、八八五噸)▲常盤(九、八五〇噸)▲日進▲春日(七、六三〇噸)
計　九隻　六萬四千〇三十一噸
▲輕巡洋艦　九隻
筑摩▲矢矧▲平戸▲利根▲音羽▲對島▲新高▲宗谷
▲津輕
▲舊式戰艦(砲艦)　五隻

▲海防艦　二隻
石見▲周訪▲相摸▲富士▲丹後
壹岐▲沖島▲見島
▲舊式巡洋艦　九隻
笠置▲千歲▲須磨▲明石▲秋津洲▲千代田▲橋立▲
嚴島▲高千穗
▲砲　艦　七隻
最上▲淀▲宇治▲鳥羽▲伏見▲嵯峨▲隅田
▲一等驅逐艦　二隻
山風▲海風
▲二等驅逐艦　二隻
櫻▲橘
▲三等驅逐艦　四十隻
▲一等水雷艇　十六隻
▲二等水雷艇　三十二隻
▲潜　水　艇　十二隻

即ち主力艦の隻數噸數を一括すれば如左。

ド級戰艦、巡洋戰艦　六隻　一五〇、五〇〇噸
ド級前戰艦巡洋戰艦　十隻　一四六、七六七噸
裝甲巡洋艦　九隻　六四、〇三一噸
計　二十五隻……三十六萬〇九百四十八噸



# 全歐大動亂の觀測



## 歐洲大亂の遠因近因

外務省書記官
法學博士　長岡春一

### 一　セルビヤの發展

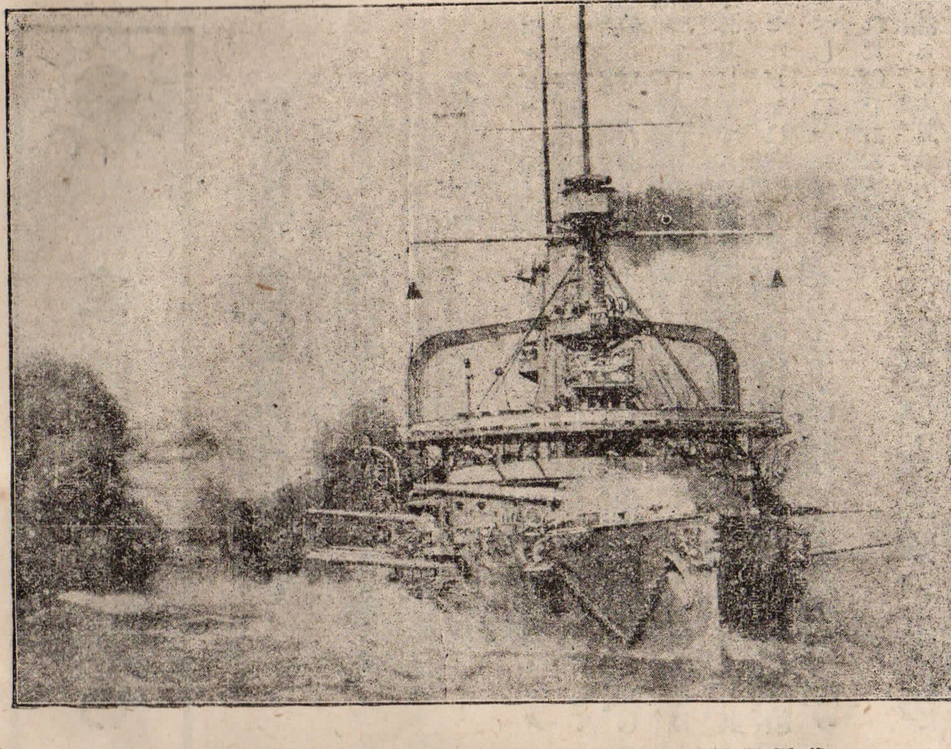
セルビヤと云ふ國は、千八百三十年十一月三十日にミロクが土耳其皇帝の代表者の面前に於て、盛大な宗儀を擧行して君位に登つた時より、土耳其に對して半獨立的關係が成立し降つて千八百五十六年の巴里條約に依りて、セルビヤ公領は土耳其に對する隷屬的關係を繼續すべし(二十八條)、土耳其がセルビヤに守備兵を駐在せしむることを得るの權利は存續すべし(二十九條)と定めらるゝに至つて、公然列國に認められたのである。

然るに土耳其の守備兵を駐在せしむると云ふことは、甚だしくセルビヤ人の自尊心を害し、如何にもして、土耳其の羈絆を脱して完全に獨立したいと云ふことは、塞國民の熱烈なる希望で、殊に土耳其の守備兵が規律節制なくして、亂暴狼籍を働くのを見るにつけて、愈々益々土耳其を嫌忌し、常に獨立の機會を覗つて居たのである。

偶々クリート島に擾亂起りて、土耳其は西方に力を用ひる能はず、又た墺國はサドワの大敗に依りて東隣と事を構ふるの餘裕なきを見るに及んで、塞國王ミシエルは奇貨措くべしとなし、千八百六十九年土耳其に迫りて、土耳其の國旗を自國の國旗と共に掲揚する代りに、守備兵を撤去せしむることにした。爾來塞國は兵備を盛んにして獨立の計畫に熱中し、千八百七十八年の伯林條約にて初めて獨立を認めらるゝことになつた。

### 二　墺塞衝突の發端

セルビヤは斯くして辛つと獨立はしたものゝ、其の領土は土耳其と墺國との間に介在して、海に出る道を有しないので其の獨立は甚だ薄弱なるものと言はねばならぬ。さればセルビヤはボスニヤ、ヘルツエゴヴキナ及びモンテネグロを聯合



英國戰艦スキフトシユアの七吋砲發射

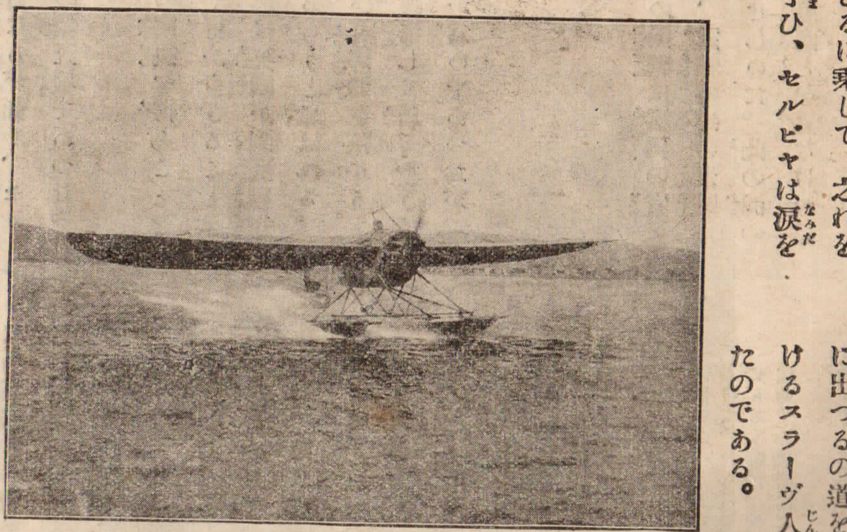
して、一大スラーヴ國を建設し、以てアドリアチック海に出でやうとの大野心を起したのである。

然るに墺國も亦た多年アドリアチック海に出やうとの野心を包藏し、ボスニヤ、ヘルツエゴヴヰナを併合するの機會を覗つて居たので、玆に墺塞の衝突は免がれ難き狀態の下にあつたのである。ところが千九百八年十月墺國は獨逸の後援に依りて突然ボスニヤ、ヘルツエゴヴヰナの二州を併合することを發表した。

是に於てセルビヤは大に驚き、直ちに列強に抗議通牒を致し、若し列強にして墺國のボ、ヘ二州併合を承認するならばセルビヤも亦た其の獨立の維持に必要なる保障と對償とを得ざる可からずと申出でた。而かも列強はセルビヤが伯林條約の記名國に非らざるの理由を以て、之を聞くを欲せざるに拘はらず、セルビヤは飽くまでも自説を主張して動かず、盛んに兵備を修め、主戰黨の氣焔は非常な勢を呈し、露國も亦たセルビヤを援助せんとするの氣勢を示したのである。

玆に於て機を見るに敏なる獨墺は、千九百九年二月土京に列國會議を開き、土耳其に對して賠償金其他の多大なる犧牲を拂ひて、僅かにボ、ヘ二州の併合を承認せしめ、轉じてセルビヤに向ひ、之れを脅かすに通商條約の廢棄を以てし、一擧に之れを蹂躙し去らんとするの高壓的態度を示すと共に、獨逸は露國が日露戰役の創痍未だ癒へざるに乘じて、之れを脅かしたるを以て、露國先づ屏息して了ひ、セルビヤは涙を呑んで屈伏するの外はなかつた。

次に千九百十二年の巴爾幹戰爭の際、セルビヤはアドリヤチック海岸に於て、サンギオヴアンニ、アレッシヲ、ヂユラッゾの三港、並に其の附近一帶の地を獲得せんと欲する旨を列國に通知し墺國の不同意を省みず、速りに該地方に軍隊を進むると同時に、此アルバニヤの領有權をも主張したが、墺國は強硬に之れに反對し、事局漸く紛糾せんとするに方り、セルビヤ軍はプリズレンドを占領し、其の際同地駐在墺國領事の行動を不當として、本國政府との直接通信を差止めたものだから、墺國の人心は遽かに激昂して、一部の動員を行ひ、之れに對し露國も亦た盛んに軍備を修め、形勢危機一髮に迫まつたが、列國の斡旋にて辛つと事なきを得たのである。而かも獨墺の後援によりてアルバニヤが新設せられ、セルビヤは玆に全くアドリヤチック海に出づるの道を塞がれ、日露戰役後最近十年間、巴爾幹に於けるスラーヴ人は實に散々の有樣で、獨墺に壓迫せられて來たのである。



英國の海上飛行機

## 三　墺塞の破裂

形勢斯の如くなれば、獨墺と露塞間の大衝突は早晩免がる可からざるものとして一般に期待せられて居たが、偶墺國皇太子及び皇太子妃兩殿下が、今年六月セルビヤの一暴漢に擊殺せられたと云ふ事件を動機に、遂に破裂したのである。

墺國は此の事件をセルビヤの官吏及び軍人が敎唆した結果であると云ひ、セルビヤ政府に對して十一ケ條の要求を提出したやうであるが、果して官吏軍人の敎唆であつたか。又た其の十一ケ條の要求は如何なるものであるか、未だ明瞭には分つて居ない。唯だ墺國の要求中に

(一)セルビヤ政府は排墺的行動をなさゝるやう、嚴重に其の官吏軍人に對して訓令を發する事。

（二）教科書中より排墺的思想に關する個所を除去する事。
（三）皇太子及び皇太子妃闇殺事件の裁判に、墺國裁判官を參加せしむる事

の三ケ條が含まれて居たと云ふことは事實なるが如く、セルビヤをして絕對に反對せしめたのは、右の第三項であつたやうに思はれる。

此の事件に就ては、露佛は熱心に圓滿の解決を得んことを希望したが、獨逸は墺塞の開戰は到底避く可からざることを言ひ、其の成行に任かせんとした。是れ獨逸は英國が到底戰爭の渦中に投せざるべきを見越したからであらうと思はれる。一體獨逸の最近の行動は、悉く英露間及び英佛間を割かうとする目的に出で、又た之れを割き得ると誤信して居るやうであつた。モロッコ問題の紛糾も亦た之れが爲めであつたが、獨逸は意外な結果を得たのである。

## 四　三國同盟の由來

墺塞の開戰は墺露の開戰となり、墺露の開戰は露獨の宣戰となり、露獨の宣戰は獨佛の宣戰となり、露獨佛墺の混戰は英國をして其の渦中に入るべく餘儀なくせしめた。此の間の消息を知らんと欲せば、三國同盟と三國協商とを見なければならい。

三國同盟は如何にして成立したかと云ふと、抑も千八百七十八年露土戰爭の結果として締結せられたるサン、ステファノー媾和條約は、英國の主唱に依りて列強の干涉となり、遂に有名な伯林條約となつたのであるが、當時獨逸は表面に露國に厚意を寄するが如く裝ひながら、內實之れを壓迫するに努め、ビスマークの權謀術數に依りて、墺國は一兵に衂らずして、多大の犧牲を拂ひたる露國に比し、巴爾幹半島に優良なる地位を享受したのである。されば露國のゴルチアコフは之れを以て其の一生に起りたる最も悲哀なる出來事であると公言し、爾來露國民の獨墺兩國に對する憤懣怨恨は實に甚だしきものであつた。

是に於てビスマークは露國の復讐を恐れ、之れに對抗するために獨墺の同盟を策し、千八百七十九年八月、ガスタインに於て墺のアンドラシー伯と會見して同盟の基礎を協定し、同年十月十五日遂にウヰルヘルム老帝の批准を經たる次第である此の同盟の內容の全部は世間に知れて居ないのであるが、其の根本は

同盟中の一國が露國の攻撃を受くる場合には、他の一國は其の兵力の全部を擧げて之れを援助すべく、若し同盟中の一國が露國以外の國家に依りて攻撃せらるゝ時は、他の一國は好意中立を爲すべしと雖も、露國にして第三國を援助する場合には、他の一國は其の同盟國に軍事的救援を爲すの義務あり。

と云ふことを規定したものである。斯くして獨墺の同盟は成立したのであるが、ビスマークは此の獨墺同盟に對して、露は必ず佛國と結ぶであらうと豫想し、之れに對抗するためには、更に今一國を吾が同盟に加入せしむるの必要を感じたる結果、伊太利に目星を附けたのである。

恰も好し、千八百八十年佛國がチュニスに保護權を設定したる事實は、甚だしく伊太利人の自尊心を傷害し、佛伊兩國の國民間には非常な感情の衝突が起つたビスマークは其隙に乘じて暗中飛躍を試みた結果、千八百八十一年伊王ハムベールの維納訪問、更に翌年伯林旅行となり千八百八十三年遂に三國同盟（triple alliance）なるものが締結せられたのである此の同盟條約は伊獨兩國間のものと、伊墺兩國間のものとの二部より成り、其の內容の全部は知るに由なきも、要するに

若し佛露の二國が獨墺兩國若くは獨逸一國に對して聯合するときは、獨墺伊の三國は兵力を以て互に相救援すべく、若し獨伊兩國中の一國が佛に依りて攻撃せられたる場合には、二國は共同して之れに對抗すべく、而して墺國は伊太利の同意なくして、巴爾幹半島に何事をも企畫せざるべし、

と言ふのである。而して此の同盟條約中には海上方面の事は加へて居らぬやうである。伊太利が今回厳正中立を宣言したのは餘儀なきところであらう。



露國步兵の行軍

## 五　露佛同盟及び三國協商

三國同盟に對して、露國はビスマークの豫想したるが如く、直ちに佛國と結んだかと云ふと、種々の事情に依りて、幷は容易に實現せられなかつたが、千八百八十五年のブルガリヤ事件に依りて、露佛の間大に親交を增加し、千八百九十三年遂に露佛同盟（Alliance franco-russe）は締結せられた。此の同盟は

三國同盟中の一國が動員するや否や、露佛兩國は直ちに全軍を動員する事

と云ふのが其の根幹となつて居るのである。

英國と佛國とは永い間互に相嫉視し非常に感情が疎隔して居たのであるが、佛のデルカッセは些々たる問題の爲めに兩國間に蟠まれる無益の爭議は出來る限り讓歩の道を執りて之れを解決し、其の根本的利益を收めんとの方針に出で、又た英國も近來獨逸の發展著るしくして、英國の利益と衝突す

ること多き時に方り、徒らに英佛の爭議を繼續するは、唯だ第三國に漁夫の利を獲せしむるに止まるの患を悟つて、千九百四年英佛間に協商を定め、(一)埃及並にモロッコ(二)ニューファウンドランド及び西阿弗利加(三)暹羅、マダガスカル及びニューヘブリデス島に於ける利益の交換を行ひ、永年の葛藤を悉く一掃して了つたのである。次で千九百七年英露間の協商成立し、中央亞細亞に纏綿する露英の紛議を除去して、以て第三國をして此の地方を覬覦するの餘地なからしめるに至つた。是に於て獨逸の嫉妬は甚だしく、如何にもして英國を佛露より割かんとの計畫を爲したけれども常に失敗に歸し、今度も亦た其の計畫の錯誤に依りて大亂を惹起したと云ふ有樣である。(文責在記者)

## ▶戰爭と航空機◀

田中舘博士談

**▼航空術長足の進步**　歐洲今次の大戰亂では、各國とも各種の最も進步せる武器を用ゐて、互にその精鋭を競ふ事であらうが、就中、飛行機飛行船の使用は、各國ともその研究に非常の努力をなして居たことゝて、何れも最新式のものを用ゐるのだから、最も注目に價する所である。抑も、飛行機飛行船の初めて實戰に應用せられたのは、一昨年から昨年へかけての巴爾幹戰爭の時であるが、而も當時は何れも英佛獨等外人の飛行家を賴んで操縱させたのであるから、尙以てその效力を批評するの標準と爲すに足らぬのみならず、爾後一ケ年間に於て、飛行術の上には驚くべき進步發達があつて、殆ど隔世の感がある位であるから、旁今次の大戰亂に於ける飛行機の實戰應用は、專門家の非常の興味を以て注視する所である。

**▼飛行機と飛行船との得失**　今回航空器の何れが實戰に際して效力あるかを對比して見るに、先づ飛行船の强味とする所は、(一)戰爭に際し爆烈彈を投下する時に於て飛行機に比し多量の爆彈を積載し得る事(二)空中に停止し得るを以て射擊の場合に照準正確なる事(三)遠距離に達する大砲其他の武器を搭載し得る事(四)最大限度二噸の重量を載せ尙ほ且つ三千米突內外の高さに昇騰し得る事等であるが、これと共にその短所も少くない。即ち(一)飛昇又は下降に際し繫留場を要する不便ある事(二)暴風雨等の時に大いに動搖し危險ある事(三)昇騰の度合飛行機に及ばず從て飛行機より速射さるゝ恐ある事(四)行動飛行機に比し敏活を缺く事。而してこれ等飛行船の短所とする所は、即ち飛行機の長所である。

**▼獨佛航空勢力**　獨佛二國は飛行術に於ける兩大關で、その優劣は俄かに斷定することが出來ぬ。世人は佛國に比し獨逸の遙かに勝れる事を稱する樣であるが、一槪にさうも云はれぬ。最近佛國の技術は著しく進步し、アスポラトーレス式飛行船の如きは、飛行船上に砲臺を置き其下部に速射砲を備へ、而して該飛行船の容積は二萬立方呎の巨大なるものであつて、これが姉妹二隻あり、外に軍事用飛行機二十有餘ありて獨逸に對し少しも遜色は無い。又佛國は飛行機製造所として五十有餘の工場あり、且つ一工場に於て優に一ヶ月二十臺の製出力を有して、其勢力は實に驚くべきものである。

# 大戰亂勃發の眞相

某陸軍少將談

(原田步兵中尉筆記)

## (一)戰爭勃發の禍根

歐洲各國が相競ふて兵備を擴張し、表面には極めて平靜を裝ひながら內面に於ては虎視眈々として寸分の油斷をも、探つて以て乘せんとした事實は、一面には自國の威力を堅實ならしめ、外よりの侮を防ぐの目的で、之れが即ち平和を維持する唯一の保障であつた。されば、學者としても政治家としても兵備を以て戰爭の兵備と見做さず、平和の爲めの兵備であることには少しも異論はなかつた。其適切なる證據は斯の三國協商側と三國同盟側との兵力が、稍々均衡を保たれ互ひに乘ずべき機會が無かつた爲めに明日にもあれ兵亂の巷に化せんとした歐洲大陸が、比較的長い間よく平和を維持することが出來た所以である。即ち兵力の均衡を得るといふことは、啻一の平和の保障となり、同時に國家の內政にして不統一であるか又は政黨政派相互ひに墻に鬩ぐの弊害が增長するに至れば、玆に國難を惹起するの原因となることは、今回端なくも勃發したる歐洲大戰爭のよく證明する所である。而して從來財政家經濟家の一部に於ては、經濟關係にして緊密であつたならば、最早戰爭といふものは起り得べきもので無いと唱へたものであるが、這般の戰爭は此等の說を物の見事に粉韲して、殆んど一笑にも値せぬことを證據立てた譯である。

## (二)三國同盟側

今戰爭前に於ける各國の狀態を略說すれば、

**獨逸**　最近に着手せられたる軍備擴張も、今や着々其緒に就き、大に佛蘭西を壓倒するの勢ひであつた。全體の兵數から云ふならば、獨逸は露西亞の其れに劣つては居らぬけれども國內の物事秩序が整然として充實しある點に於て、又軍隊志氣の優秀の點に於ては世界各國中一頭地を拔くの觀があつた。又其海軍に至つても近來長足の發展を促がし、將に英國の海軍を凌駕せんとする位であつた。

**墺洪國**　一昨年巴爾幹戰爭の際、正式の動員は行はなかつたけれども、事實上の動員は露西亞に對して行つたのである。然るに其統御編制等に於て著しく多くの缺點を暴露し、指揮の不統一なるには墺洪國其自身さへも少からず面喰ひの體であつた。兵數に於てこそ佛蘭西に匹敵しては居るが、其實質

及編制の狀況は老帝國に背もやらぬ失態で、世界の一等國たるの面目を維持するには大に其內容の改造を要することを自覺せしめた。元來此國の軍隊は共同軍と護境軍とから成り將校兵卒に至るまで人種の別があり、統御上甚だ不便である。

そこで一昨年以來鋭意編制の改正、軍隊統一の不備を補ふことに着手し、今日に於ては夜を日に繼いで努力し、多額な國帑を支出しつゝあるけれども、未だ其改正の効果は何等事實上に現はれては居なかつた。殊に兵器材料に至るまで不整頓極まる狀態であつて、戰爭をする上に就ては再び過去の醜態を曝露するより他なく、まだ〳〵戰ひなど思ひ付くべき時機では無いのである。

**伊太利**　トリポリの戰爭後、是れ亦軍備の改善を行ひ編制の改正等を斷行したとは云ふが、其戰爭は高が土人相手の輕戰で、中原に出でゝ列强を向ふへ廻はして戰ふ上に就ては殆んど實戰上の經驗とならず、動もすれば一步を平和の競爭場裡に讓るの感があつたので、大に自覺する所があつて、近來軍備の擴張問題の爲めに屢々內閣の交迭を惹き起し、最近に於て漸く其基礎がきまつて來た。



露國步兵の行軍

其兵力は獨逸と協力すれば優に佛國を擊破し得、之に加へて墺洪國の編制が完成し、獨逸の新擴張と相待つて伊太利の編制も出來上つたならば、相手たる三國協商を壓倒するの實力は立派にあつたのである。

然るに、同盟三國の準備が充分でないのに、計らずも今日かういふ大戰爭が始まつたといふのは、三國(同盟)の爲めには甚だ惜しむべき事である。

然るに此國は人種(ラテン)上から云ふても、墺洪國や獨逸などゝ攻守同盟を結ぶのは本來でなく、眞實の本來は同人種たる佛蘭西と結ぶのが自然で、今回伊太利の態度が頗る曖昧になつたといふのも誠に至當の事である。獨逸皇帝としてはどうしても此際戰爭を開くべき時機では無かつた。今少しく伊太利との同盟をしつかり固め、墺洪國の軍備が整頓するのを待つて、然る後始めるのが萬全の策であつたのである。然るに開戰の當初に於て攻守同盟とまで契つた伊太利が、態度曖昧に陷り次いで中立を宣言するに至つたのは、獨帝としては恐らくは意外であらうと思はれる。しかし、皇帝をして此の如く偉大なる行動を施行せしめたといふことは、皇帝が同盟なるものを過度に信賴した爲め、充分熟したる機會に於て開戰するまでもなく、露佛英の協商を壓倒するは眞に易々たる事だと思はれた故であらう。

## (三) 戰爭の原因

獨逸皇帝をして殆んど無謀に近い行動を採らしめたといふ原因に就ては槪略次のやうな事情が伏在して居る。

**佛蘭西**　近來個人の富が增加して來て、國民は富の大なるに任せて、金を他人に貸し附け其利殖に據つて自活するといふ有樣で、其間には諸種の弊害が釀されて居る。其弊害は逃べる迄もないが、斯樣に富の程度が高いにも拘らず、兵備といふものに對しては甚だ冷淡で、且つ軍備を增張せんとしても壯丁の數が不足で增すことが出來ない。そこで已むを得ず三年兵役を實施して此等の缺陷を療せんとしたが、國民は甚だしき大幻影を夢みて、戰爭といふものは最早起るべきの者で無い、海牙の平和殿が世界の平和を象徵する如く所謂經濟關係の緊密に依つて永久に平和を維持し得るといふやうな極端な考へを起し且つ口を揃へて、三年兵役制度に大反對をする。其れが爲めに大統領は衆望を擔ふて立つても屢々內閣の交迭を繰り返へさねばならぬ破目に立至り、國內の政治は既に已に頗る危險の形勢に迫つて居たのである。



墺國に向つて宣戰を布告せる
モンテネグロ王ニコラス一世

個人主義を鼓吹して佛國の秩序を紊亂せしめつゝあつた彼のジョーレー(之れが佛國に取つて一番害毒を流した男である)は、今回計らずも殺されて仕舞つた。彼ジョーレーなるものは、獨逸からは或意味に於て大に好意を以て迎へられた事は殆んど公然の祕密で多くの人はジョーレーを獨逸太子などと呼んで居た位であつた。

佛國の形勢は之れが爲めに益々萎縮し四十幾年前の恨みを

鳴らさうとしても、最早獨逸に抵抗さへも出來ぬといふ狀況に陷つた。こんな情けない有樣を眺めた露西亞は、協商契約上捨て置けぬと爲し、佛國に對して

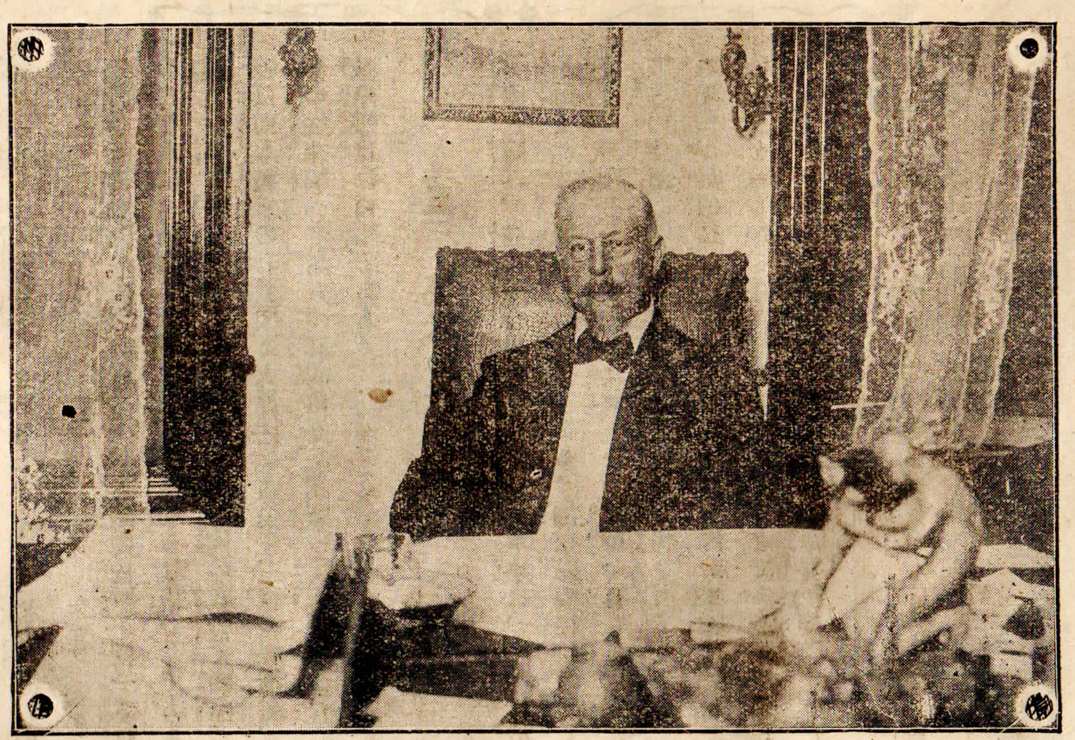
『三年兵役さへも實行が出來ぬやうな始末では到底露佛同盟の維持は困難な事で、間もなく三國(獨墺伊)から壓迫せられるであらう。』

といふ意味の警告さへもしたやうな始末であつた。そこで佛蘭西としては起つても坐つても居られなくなつたから、遂に英吉利に向つて英佛の協商を改めて攻守同盟を結んで吳れぬかと哀願に近い交渉まで行ふた。けれど英國としては『英國は事實に於てさへ攻守同盟を守れば宜い譯で、此際强いて攻守同盟を聲明する迄の事もないでは無いか』と答へたさうである。之れは佛蘭西が斯の如き形式聲明を取るに非ずんば獨逸の壓迫を避ける事が出來なかつたからである。即ち一面に於ては伊太利を三國同盟から脫退せしめ他面に於ては英國に結ばねば、自國の安全を保持することが出來ないからである。之れは內に巨萬の富を包擁して居ても、國家としての威力が缺乏した立派な證據である。即ち國の威力が減じたといふことは佛國の政治關係が然らしめたのである。

**英國**　例の愛蘭の自治問題に就いても、政府が如何に多數黨を擁して居つて議案だけは通過さしたにはさしたが、さて眞に國を愛する反對黨の反對に遭うて今日まで何等の始末も付け得ぬ有樣である。アルスター問題に就ては最早手を下すことが出來ぬといふのは、所謂英國は實は民主主義の政黨政治の弊害の極點に達して居る證據である。カナダといはずニユージーランド、濠洲でも悉く獨立自治ならざるを得ぬやうになる。そこで愛蘭も亦自治といふことに成れば、英國は最早帝國としての事實が破壞されたものと云つて差支が無い。自治に反對して居るものは保守黨(統一黨)のみで、軍人は皆此統一黨に屬するのである。斯樣なる次第であるから、政府の指揮命令は殆んど行はれ難く、將に內亂が起らんとしても軍人が悉く政府に反對して居るのであるから、政府の力を以てしても又奈何ともすることが出來ないのである。一部の騎兵將校が辭職したといふが、豈夫れ一部のみに限らんやである。

聰敏なる獨逸は此好機會を捉へることを誤りはしない。一面にはアルスターに對して武器を供給し、態々內亂の膨大するやうに助力して、內面には英國の弱るのを會心の笑みを湛へつゝ待つて居る。從つて英國の內政は紊亂を極め殆んど統一を缺き、政府としては何としても致し方が無いといふ狀況で、一面には政府が社會政策を實行するの目的であるから却つて勞働者の失職を來し、同盟罷工が盛んに起る。是に於てか英國は最早內面から爆發せんとするの狀況であつた。之れは民主政治の弊害の最も適確なる證明である。

**露西亞**　日露戰爭前に比すれば霄壤も啻ならぬといつたやうに軍備が整頓し且つ實力が附いた。けれど、同盟罷工が到る處頻々として起り、殆んど百萬人にも達して居る。猛烈な獨逸皇帝は、佛蘭西は到底獨逸に抵抗し得る望みは無いと思ひ込まれた。ジョーレー一派の如きは最も皇帝の注目せられた所であつた。又英國の狀態を見ても、彼は內政の爲めに所謂極度の困惑に陷つて居るから、是れ亦獨逸の敵と爲すべく餘りに物足りないと信じ込まれた。三國同盟の盟主たる獨逸皇帝が、主として英佛の威力を輕侮されたといふ事柄が今度の戰爭を誘發した原因の眞相である。さもなければ聰明なる皇帝が伊太利との同盟が鞏固で無いとき、墺洪國の軍備が不完全なことを什々承知しながら、尙且つ斷乎たる行動に出でられるやうな事は決して無かつたであらう。否、皇帝は此際果斷なる態度に出でたならば、三國協商側は皇帝の威風に僻易して、戰はずして自分の意見に屈服するものだと考へられた事であらう。斯樣なる考を起させたといふ事は、即ち佛蘭西の威力が衰へ、英國の內政が紊亂したことに原因するのである。



佛兵アルサス侵入の報を得て得意なる駐日佛大使ルニョール氏

## (四) 獨帝の胸算齟齬

獨逸皇帝をして輕侮の念を挑發させたといふのは、對手國の威力が足らぬので、恰も日露戰爭の原因に就いて考へて見ても露國が日本の威力を輕侮したからである。即ち平和の保障に間隙が生じたから戰爭が起るのである。然るに獨逸皇帝の胸中に描かれたる大望は、茲に計らずも或異式の結果に依つて迎へられた。といふのは佛國は其を自覺して、此機會に於て民心を一新し、愛國心を喚起しなければ國の威力を恢復することが出來ぬといふので、先づ愛國の至誠と相容れざるジョーレーを犧牲とし血祭に擧げて大に民心を昂奮せしめ、國内の空氣を一新しやうと計つたのである。これは恐らく獨逸皇帝の意外とする所であらう。

英國は又此戰爭を好機會に内部の動亂を一掃して、内政に對する全國民のエネルギーを轉じて外戰に向け、英國民本來の愛國心を蘇生せしめるやうになつた。此現象も亦恐らくは獨逸皇帝の意外とせられた所であらう。

露西亞も亦さうである。大に外に對する敵愾心を昂奮せしめたので、内に對する同盟罷工などは今は全く止まつて仕舞つた。之れも亦獨帝の豫期に反する事で、皇帝の輕侮心を反對に利用して内新の刷新を圖るといふことに利用したのである。

若しも佛蘭西の威力が衰へず、英國の内政が統一されて居つたならば、斷じて今度の大戰爭は起らなかつたであらう。同じい事を繰り返へすやうであるが、國の威力に間隙があるのは即ち戰爭の勃發する大原因であつて、彼の經濟界、財政界の從來唱へて居た平和說は全く架空の妄想であつたことは最早爭はれぬ事である。

## (五) 英米の新關係

終に臨み、茲に一つ見遁すべからざる事は、今後に於ける英國と北米合衆國との關係である。加奈陀の住民の少くも三分位は米國と一緒に成りたいといふ希望を有して居ること丶彼等の生活狀態が密接なる共通關係を有するから、將來の關係が如何に變化するか、如何に英國が米國に對して遠慮的態度を取るか、差當りの問題は卽ち之であるが、果してこの問題が何處まで利用されるであらうか??

●ビースマークは有名な新聞記者嫌ひで新聞記者を「インキ雀」と罵つたが、今度獨逸の記者連は全國同盟を作つて大に地歩を占めやうとしてゐる、さぞ八釜しく轉づることだらう。

# リエーヂ大要塞

**獨軍の砲火は先づ白國リエーヂの要塞に注がれ、茲に世界的大戰の序幕は切て落された。築城戰術に造詣深き某將軍の談を左に揭ぐ。**

避く可からざる運命の頂點として、常に世界注目の焦點であつた獨佛の干戈は、意外なる方面から誘出せられて、遂に吾々の目前に實現せられた。兩國の軍事當局並に批評家は、既に久しい以前から、其の假想敵國を露骨に指摘して、軍備をさ〳〵怠り無かつたのであるから、今回の大動亂に際して、兩軍の策戰も、之を一面から謂へば、豫定の戰術を着々實行しつゝあるに過ぎないとも謂はれる。所で吾々第三者の想像では、獨軍は露軍に對しては暫く守勢を執り、先づ佛軍に對して猛烈なる攻勢を執るであらうと思つて居た。露軍の動員には尠からざる日子を要する。この一事は獨軍に取つて非常なる利益であるから、獨軍は飽く迄その利益を尊重せねばならぬ。之は何人も想像に難からぬ所で、果せる哉獨軍は先づ主力をローレン州に集注して、疾風の如く佛國内に侵入を企てる事と思つて居た吾々の想像は、遺憾乍ら當らなかつた。獨軍は意外にもルクセンブルグ大公國の中立を侵し、次で白耳義の中立を犯した。獨軍は第一戰に敵を撃破せねばならぬと云ふ強い信念を持つて居るから、此場合ローレンに大軍を集中するよりも、白耳義を突破すれば、非常に便利でもあるし、又た捷徑でもある。仍で隆々たる獨軍の威望を以て之に臨んだならば、眇たる白軍の如きは一も二もなく御無理御尤と道を開いて通過させる事と思つたらしい。所が白耳義としては、獨軍の此の傍若無人なる態度が、多少癪にも觸つたのであらう。彼は頑として道を開かない。止む無くんば武力に訴へても喰止めると力味出した。茲に於てか即ち獨軍の對白耳義宣戰となり、リエーヂ要塞の第一衝突と云ふ事になつたのである。

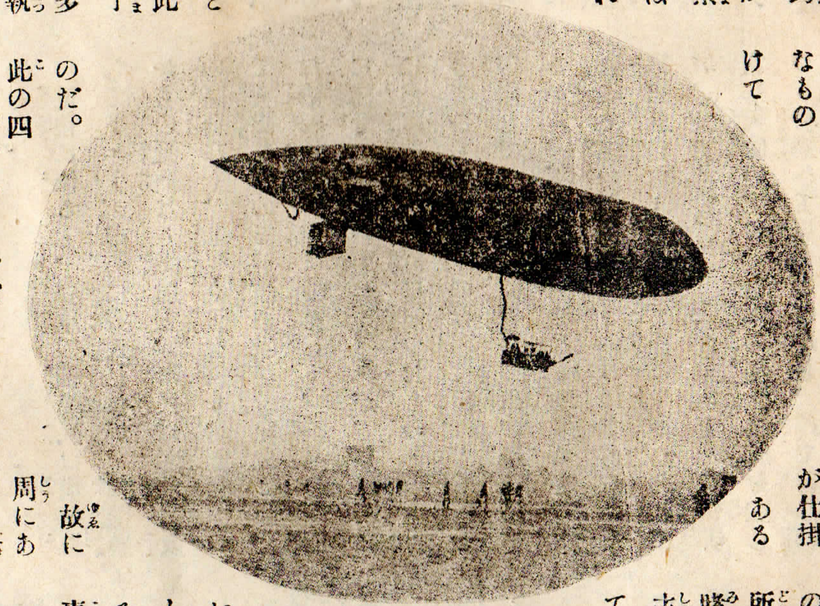
元來白耳義と和蘭の兩國は、列強の間に介在して、共に中立の保障を受けて居たのであるが、實際の場合に於ては、夫は單に形式丈に過ぎないので、戰亂のある毎に何時も各國から思ふ樣蹂躪をされて來た。佛國革命戰の時などは、隨分慘澹たる目に逢つた事は、歷史を讀んだ者の何人も知悉する所であらう。この數度の苦い經驗は、極端に白國民を鞭撻した。自國の平和を擁護する爲め、且は中立國としての實力を備へる爲めには、大に自衞の道を講せねばならぬ。夫には先づ國

境を接する獨佛の兩國に對して、中立を保障し得る丈の武力を完備せねばならぬ所から、非常なる研究と努力とを以て、樞要の地に幾多の大要塞を築き上げたのである。其内でも最も有名なのは、北境中央のアントワープの大要塞で、ブラッセルにも、ナミユールにも、又た今回第一の衝突焦點となりつゝあるリエーヂにも、驚く可き自然の險要と、極度の智識を傾注せられた理想的大要塞が築かれて居る。獨軍が客氣に驅られて、一揉みに揉み潰さうとして、數度の大失敗を繰返し、戰略の根本的過失を暴露したのは、固より當然の事と云ふ可きであらう。

元來白耳義には常備軍としては、三箇師團と特科兵とを併せて僅に五萬内外しか無い。即ち衞戍兵としては歩兵十三箇大隊、騎兵七箇中隊、要塞砲兵十五箇大隊、要塞工兵五箇大隊と、外に遊動防禦隊として歩兵八箇大隊、騎兵三箇中隊、野砲兵十二箇中隊がある計りであるが、一朝事あるに臨んでは、歩兵六箇師團、騎砲兵二箇師團、併せて三十萬迄は直に動員し得られる。勿論今回の如き國家の興廢を賭した大戰爭に際しては、愛國の念燃るが如く、勇敢なる白國民は老幼男女凡てを擧げて、盡く銃後の人となつて居る事であらうが、眞に軍隊的な訓練を經た者は三十萬位である。思ふに是らの兵はアントワープの大要塞を中心として、ナミユール、リエーヂを兩翼に、周到なる幾十百の分堡壘を其間に築城して、堅實水も洩らさぬ防禦陣地を構へ、猛烈なる要塞砲火掩護の下に、死力を盡して奮戰しつゝあるのであらう。

是等の要塞は凡て近世築城家の泰斗と許されたブリアルモン將軍が畢生の研究と、揮身の努力から成つたもので、世界要塞の模範とせられつゝあつたもの丈に、其の堅固な事は豫想以上のものがあつたに相違ない。ブリアルモンと云へば、白耳義が產出した唯一無二の將官砲術家で、彼は十九世紀末葉の頃から、專心要塞の研究に身を委ね、築城術にかけては、人も許し自らも許した程の名將であつた。斯程の名將が心血を注いで築き上げたものであるから、其の最新式にして、一髮の隙もない見事な築城振りは、當時歐洲列强をして盡く驚嘆の目を張らしめ、何れも參謀を派して見學せしめた結果、世界の要塞は遂に其の型を一變したと迄謂はれた程有名なものである。吾邦からも見學に行つた人は幾らもあつたが、此の一事から推しても、如何に其の設計の完全にして、難攻不落の金城たるべきかは、推知するに難からぬであらう。

茲で要塞の內容を語るのは聊か困るし、殊に軍事の機密に亘るものであるから、如何に研究したとて、殘らず一切の組織を知り得やう筈がない。仍て極く大體の築城振りを示すと、先づ今回衝突の焦點となりつゝあるリエーヂ要塞は、三要塞の中位にあるので、洋々たるミユーズの河岸、殷賑なるリエーヂを包圍して築かれて居る。其の中心たる本防禦線の中經は、東西十八基、南北十五基に跨るもので、支點堡壘が六箇、次點堡壘が六箇、互に連絡して、水も洩らさぬ防禦網を張つて居る。而して此の主要々塞は何れも高圓丘狀を爲して敵に面し、何れも二門若くは四門宛の連接砲が砲口を開いて、上下左右自由自在に轉廻し、旋回する樣になつて居る。是が尤も恐ろしいものなので、其の威力は慥かに敵軍を戰慄せしめ得るものがある。それから其の外壁を爲して居る高圓丘は、悉く堅固無比なベトンを以て固めてあるので、如何なる强砲彈と雖、之を破壞する事は出來ない。假令此の圓丘に命中しても凡て彈ね飛されて了ふ。それで此の圓丘の中には勇敢なる多數の要塞兵が、有ゆる近世式の武器を執て守備して居る事は云ふ迄もなく、殊に白軍が世界に誇る武器の一たる地雷火は到る所に埋沒して、一度之に觸るれば一箇大隊位な兵は徹塵となつて飛ぶ程强烈なものが仕掛けてあるのだ。故に此の四周にある一分堡壘が、不幸にして一つや二つ敵手に落つる樣な事があつても、何等憂ふるに足らぬ。敵が其所に多少の間隙を得て、猛烈に突入したが最後、忽ち各堡壘の十字火は急霰の如く集注せられて、立所に全滅の悲慘事に到達するのは、火を睹るよりも明かな事である。況んや守備主將たるレマン將軍は、白國參謀官として、夙に令名高い名將であるから、假令獨軍の三四箇軍團が潮の如く殺到したとて、到底攻略し得るものでは無い、屍の山を築いたとて、如斯近世的要塞を强襲に依つて攻略せんとするが如きは、殆んど不可能であるとは、近世戰術家の凡てが殆んど一致した意見であると云ふも決して過言では無い。茲に於てか獨軍は當初の軍略を一變して、戰線に重砲を運搬したとの事であるが、果して夫が幾日後に實現せられる事であらうか。



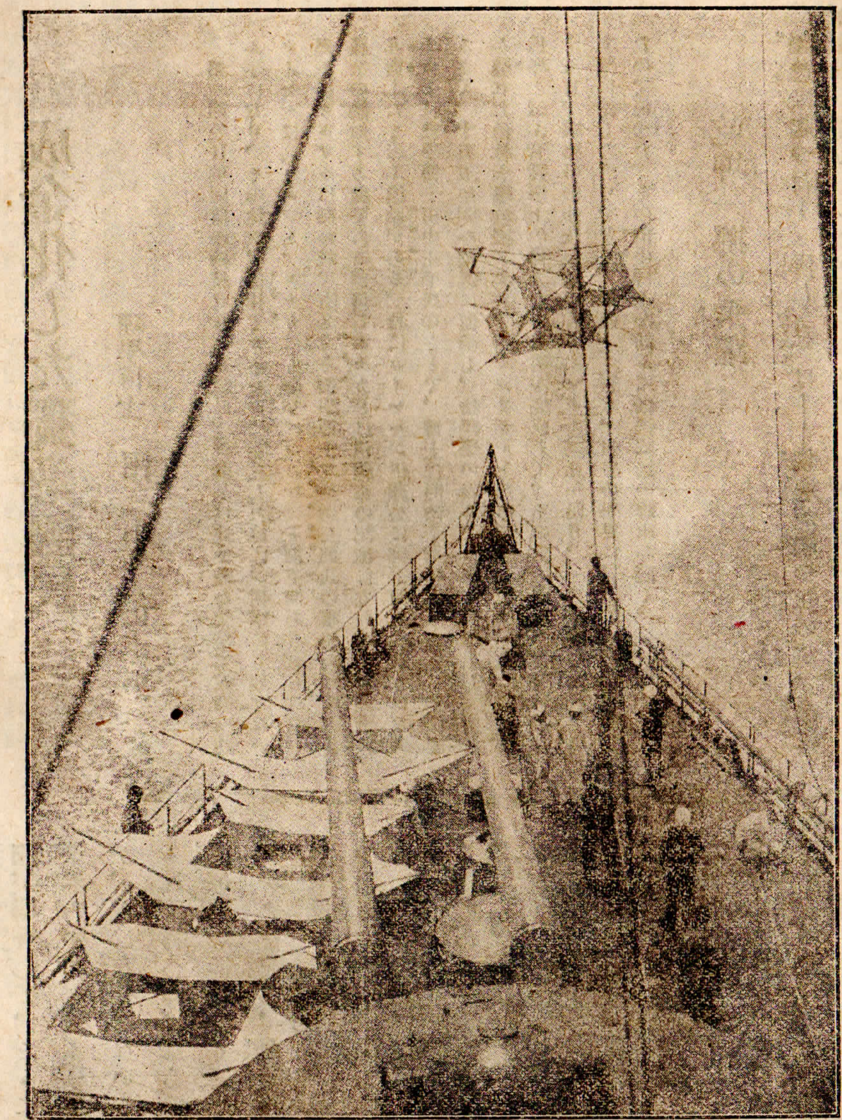
夫れから獨軍が新に主力を集注し始めたとの電報のあつたナミユールは、要塞としてはリエーヂよりは少しく小いが、

恰度ミューズとサンブル兩河の合流點に位置して、自らなる天險は素晴しいものがある。ナミュール市は兩河の接合點を挾み、山と山との間に介在して、其の周圍の山が即ちナミュール要塞となつて居るのであるから、是がフーヒと云ふ一要塞を隔てゝ、リエーヂと相聯絡する樣になつて居る。堡壘は凡て九箇であるが、臨時に十四五の分堡壘を築城した事であらう。守備兵としては、平時に於ては步兵四箇大隊に他の特科兵が約十七箇中隊であるが、動員の結果は無論三倍位の守備兵はあるに相違ない。アントワープ要塞も同じくブリアルモン將軍の設計になつたもので、是は以上の二要塞に比較すると遙かに大きい。即ち本防禦線の中經は東西二十七基、南北三十八臺で、約リエーヂの二倍位ある。堡壘の數も永久的築城を施したもの斗りで、總計三十四箇を數へる程であるから、三軍團の獨兵が、リエーヂの攻略に一ヶ月を費すとすれば、此の要塞は三十萬の大軍を迎へても、優に三ヶ月の支持は充分に出來るのである。

電報に依ると、獨軍の槍騎兵は勇を皷してリエーヂ市街に突入したが、各堡壘からの猛烈なる瞰射と、市民は老幼男女の區別なく、盡く銃を執り、劍を揮つて突擊したので、流石の勇敢を以て聞えた槍騎兵も、遂に潰亂して、全滅の悲況に陷りたとの事であるが、是は明白に白軍獨得の詭計に陷つたものと云ふ可きであらう。白軍の要塞は何れも市街を包圍して、充分に完全な瞰射の地位にあるから、不用意に突擊などをすると、夫れこそ酷い目に遇はされるのである。獨軍は新にナミュール方面に進出した相だが、前にも云つた通り、ナミュールには非常な天險の上に、白軍の勇士は腕を撫しつゝ待構へて居るのだから、茲で若し獨軍の強襲が不成功に終る樣な事があると、フーヒ要塞守備軍の爲めに、獨軍の戰線は中斷せられて、爲めにナミュール攻擊軍は後方を斷たれると云ふ大危險に遭遇せぬとも限らぬ。

夫にしても獨軍は河故戰術を無視して迄も連續の強襲を敢てするのであらうか。夫は云ふ迄もなく、露軍の動員完成を恐れるのと、其の結果如何なる犧牲を拂つても、先づ佛國を屠らねばならぬと云ふ、苦しい位置にある故であること勿論だが、又一方には獨逸陸軍に取つては、非常な恩人とも云ふ可き有名なザウエル將軍が、徹頭徹尾、強襲論者であつたから、或は其の戰術を應用したのではあるまいか。將軍曰く、

『要塞の攻擊は強襲に依るを以て第一とする。先づ巨砲を浴せ掛けて、堡壘を掃射し沈默せしめ、然る後兵の損失を顧慮する所なく、思ひ切つた強襲を以て、無理にも攻略して了ふに限る正攻法に依つて十日間に二萬の兵を損するならば、一日二萬の兵を失つて強襲せよ』と云ふのが將軍の持說であつた、獨軍は即ち此の說に從つた。所が白軍の要塞を築城した例のブリアルモン將軍は、全然此の說に反對して、『如何に進步した威力ある巨砲を以て雨霰の如く射擊し來るとも、ペトン、其他の硬質物、砲塔、隱見砲塔は充分に之を防禦する事が出來る。近世的要塞は正攻法に依るの外攻略の道は無い』と云つて居る。兩將軍の主張は頗る興味ある問題である。



佛國巡洋艦エドガアクイネー上の軍用紙鳶

顧れば千八百三十年、白耳義が和蘭政府に叛旗を飜して獨立を計つた時、獨立の首腦、反亂の中心となりたものは實にリエーヂ市民であつた、當時彼は燃るが如き愛鄉の一念から、男と云ふ男は老幼の別なく、盡く戈を執つて蘭軍に向つた、女と云ふ女も亦老幼の別なく、劍を揮つて蘭軍を逆擊すべく起つたのである。風雨八十年、彼等が中立擁護の爲め、假令屍を以て堡壘を築いても、猶ほ獨兵一步も踏むを許さずと、悲壯なる防禦戰を爲しつゝあるもの、決して偶然の事では無いのである。

# 成金化した獨逸國民

理學博士　田中正平

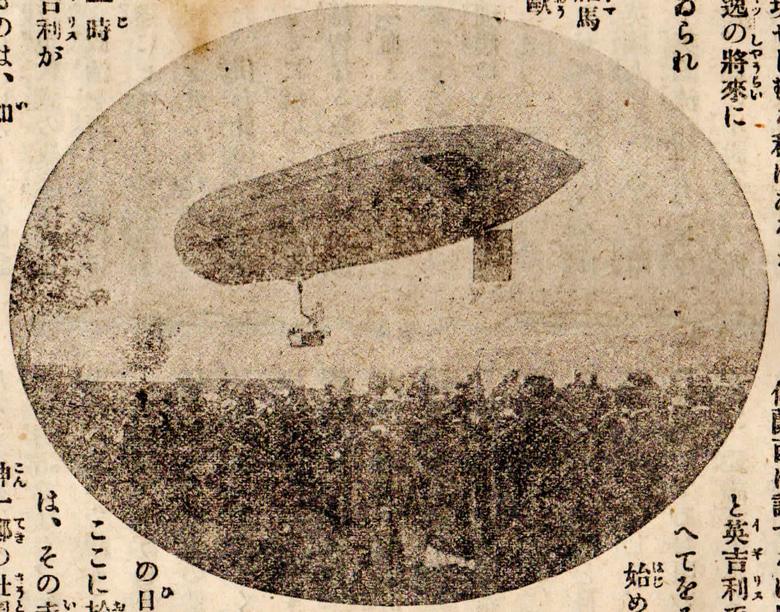
第一回の日英同盟の締結せられる前に、伊藤公は或使命を帶びて露都を訪ふ事になり、その途次、伯林でカイゼルに謁見した時に、何事にも如才ないカイゼルは『キタザト、タナカにも變りはないか』と御下問あらせられた。然るにキタザトは肺結核で有名なる醫學博士北里柴三郎氏の事であつて、伊藤公の熟知する處である。併しタナカとは伊藤公の記憶にないので、非常に赤面したと云ふ逸話がある。特にカイゼルが伊藤公に御下問あらせられたタナカとは理學博士田中正平氏のことで、博士は明治十七年より三十一年に至るまで、十有五年間を獨逸に留學し、物理學の泰斗、世界の碩學として盛名を馳せた伯林大學教授フオン、ヘルンフオルト氏の指導を受け、遂に純正調風琴と云ふ音響學上の偉大なる發明を完成して、その爲に明治二十三年四月十五日、破格の御沙汰を以つてカイゼルに謁見を賜り、一身に取つて無上の光榮に浴した許りでなく、獨逸——否な、世界の學界に『日本』の名譽を博したのであつた。その田中博士を訪ふて獨逸國民の將來を聽く。

## 乾坤一擲の飛躍

獨逸は起つた！　併し私は——獨逸が起つたのが、或は餘儀なく起たされたのであるか、その判斷に少からず迷ふてをる、目下の處では、如何に冷靜に觀察しても、英吉利、佛蘭西、露西亞と云ふ強大なる國家が全力を傾注して、恰も獨逸を討滅しやうとしてをるやうにしか考へられぬ。果して列國が聯合して、こゝに獨逸の勢力を削減しやうとするのが、世界の平和と云ふ見地から考へて、最も策の得たものであるか、或は左樣でないかは少くとも大なる疑問であつて、何人も深く考へねばならぬ問題である。勿論、あゝ云ふやうに獨逸が遽かに起つて英、佛、露に宣戰を布告し、更にルクセンブルクを犯し、白耳義に侵入したなどは國際上の禮儀を缺き、餘りに輕卒で、或は第三國の同情に値する所以ではなかつたも知れぬ。併し獨逸が——あのやうに、殆んど疾風迅雷耳を覆ふに暇なき迄の行動に出でたのは、竊かに何等か期する處のある、言葉を換へて申せば熟慮の結果ではあるまいか、私は忖度して、しか思ふものである、かく云ふを憚らぬものである。

こゝに私が歐洲の大勢を說き、その將來を語るなどは、眞個に笑止の至りで、何等の價値なき門外漢の觀察に過ぎぬ。私の考へる處では、歐洲に於ける勢力の列強の手に均等に保持せられるのも、餘り久しい事ではなく、現在の趨勢は、遠からぬ中に、根本的に破壞されるに相違ないと思ふてをる。誰だ單に歐洲の勢力が遷移する許りでなく、それと同時に全世界の趨勢も亦著しく變化するであらうと考へてをる。その混亂の渦中に投じて、果して獨逸が、安全を必し得るであらう乎。英國を凌ぎ、米國に打克つべく思はれる獨逸の現在を知るものは、素よりパンゼルマニズムの勝利を疑はぬであらう。併し歐洲に英吉利と露西亞と云ふ二國の存在する限りは、獨逸をしてパンゼルマニズムを實現せしむる秋はあるまい。否な、この二國の存在は、遂に獨逸の將來に尠少らぬ危險の伴ふことを感ぜずにはゐられないのである。

こゝに歷史を按ずる迄もなく、希臘、羅馬の滅亡の跡を考へる時、私共は沁々と歐洲に於ける現代の時勢と似通ふた處があるやうに思ふ。西班牙の全盛、和蘭の繁榮その喜びと誇りとは不滅のものではなつかた。必ず衰微の時代はあつた目下の處では、或は同盟と云ひ、或は協商と云ひ、國家と國家の利害關係は、歷史と感情とを忘れて善く共力せしむる、が、その同盟も、協商も、永久の協力ではなく、單に一時的のものに過ぎぬ露西亞、佛蘭西、英吉利が協同一致、獨逸と墺匈國とに當つてをるのは、如何にも堂々たるものゝやうに見える、併し相互に利害を同じくする外には、何等結合を鞏固にす可き根據はない。それ故に、利害關係を異にする日は、遂に旗鼓の間に相見えるの秋であると云ふことが出來るのである。



獨逸軍用飛行船

佛蘭西は論ずるに足らぬ。歐洲の將來に恐るべきは露西亞と英吉利で、私は此の二國を大きな臼であると考へてをる。この大きな臼が全力を擧げて廻轉し始めた時には、恐らくは獨逸も、佛蘭西も、その間に挿まれて粉碎されるに相違ない。地勢上から考へても、その他から打算しても、將來の歐洲は英吉利と露西亞との足下に蹂躙さるべき運命を有つてをると申しても差支ない。そして其の後は——粉碎すべきものゝ無くなつた時、臼と臼とが猶ほ廻轉して遂に火を發するに至るであらう。これは空想でなく、何れかの日にか必ず獨逸の逢著すべき運命である、

ここに於て、夙に此の趨勢を察知した獨逸皇帝は、その未だ發せざるに自ら機運を作り、所謂乾坤一擲の壯圖を決行しやうとするものではあるまいか。かう云ふやうに私共に觀察せしむべき相當の理由があり有力なる根據もあるのである。

## カイゼルの胸裡

獨逸皇帝がビスマークを斥けたに就ては、いろ〳〵の風說もあつたが、その根底はビスマークの反現代式の政略を好ませられなかつた結果で、カイゼルは自ら政治を行ひ、時代に順應する施設をしやうと決心をして、遂にビスマークを追うたのである、云ふ迄もなく、かう云ふ決心をせられたカイゼルの背後には皇太后ビクトリヤがあつた。併し此のビクトリヤ陛下は、實にカイゼルの人格を玉成するに就いて、偉大なる貢献をせられたもので、その聰明、慧智なる敎育は、一切英國式に依られたのである。それ故に『血と鐵』とを信條とするビスマークとカイゼルとは融和することが出來なかつた。その性格を異にするやうに、その理想にも、到底越ゆべからざる溝渠があつたのである。

何處までも英國式に敎育せられたカイゼルの家庭は、今日も猶ほ英國式で、その流暢なる英語は英國人以上であると噂せられてをるやうに、その嗜好も隨つて英國流に傾き、年少の頃からマーク、ツエーンを愛せられた。此の小說家は、僅かに一個の平民文學者でありながら、獨逸に入りて伯林を訪へば、堂々たる獨逸皇帝の珍客であり、最も親密なる友人でもあつた。カイゼルが小說家のマーク、ツエーンを愛せらたやうに、カイゼルは熱心なる美術の保護者でもあつた。その身帝王の高きに在すをも忘れられたやうに、伯林市中の微々たる美術家のアトリエーに玉歩を運ばせ給ふやうな事も珍らしい物語でなく、殆んど友人のやうに、美術家、文學者などと膝を交へて語ることをも厭はせ給はなかつた。

かう云ふやうにカイゼルが、或は文學に、或は科學に、或は美術に、豐富の造詣を有せられたのは、勿論、精力の旺盛なるが爲に相違なく、その嗜好の博く、且つ才能の非凡なるには、何人も敬服する處である。併しカイゼルが此の如く多藝多能に涉せられると云ふのは、唯だ其の嗜好、趣味、性癖に依らせ給ふ計りでなく、何事に於いても『世界一』と云ふ誇りを得やう、文明國として、總て遜色なき獨逸としやうとするのが其の希望であつた。それ故に、その大希望大野心を滿足せしめんが爲に、カイゼル陛下は、熱心に、不斷に、文學と美術と科學たるを、問はず、小學敎師が生徒の手を取るやうにして、奬勵、皷舞せられたのである。私が獨逸に滯在してゐた頃のカイゼルは、獨逸文明の保護（と云ふよりは）愛護者であらせられたのである。

カイゼルが、科學、藝術の愛護者であつた事を暫く措くも、猶ほ獨逸國民は純朴なる性情を有し、科學上に於いても、藝術に對しても、眞個に熱心、眞摯なる理想家であつた。彼等は現代的成功の目標を冷眼視して、唯だ理想的の完成を期し純乎たる希望に副ふものを得やうとする熱心の外には、黄白も爵錄もなかつた。その結果は科學の進步となり、文學、美術の發達となり、獨逸は世界に於ける第一流の文明國として優に光榮を取つた。そして其の海運は英國を凌駕しやうとしその製造、工業國としては、亞米利加合衆國に劣る處はない否な現在の獨逸は英米に勝るの槪がある、何人もしか信じ、獨逸國運の隆盛を羨望しつゝある。この秋に際會し、果してカイゼルは自己の努力の空しきものでなかつた事を御滿足に思はせられたであらう乎。少くとも私には疑問である！大なる疑問である。

## 獨逸將來の危機

勿論、政治、經濟上に門外漢である處の私の觀察は取るに足らぬものであるかも知れぬ。併し私の考へる處では――明治十七年より三十一年に至る迄の滯在に依つて觀察した處と最近大正元年十一月に視察した處とを比較、對照した時、その相違の著しい事に私は驚嘆した。卽ち獨逸も厭ふべき物質的文明の弊を免るゝ事が出來なかつた。尙武的精神に富むを誇りとし、國民皆兵の美を特色とも、得意ともしてゐた獨逸人は、矢張り一般の西洋人のやうに、『どうしてハラキリなどが出來るのだらう？』と不思議に考へるやうになつたのである。

獨逸は今日も猶ほ陸軍國として、世界に雄を唱へ、海軍國としても、優に英吉利に對抗し得ると自負してをつた。併し數字上の陸、海軍なるものは、到底恃むに足りない。獨逸の國民に浸染した物質的文明の軍隊に影響する處なしと云ふわけには行くまい。その形骸が依然として、假令舊の如きものであつても、私は精神に變化なしと斷言する事は出來ぬ……私は獨逸の軍隊に就いて、餘り深く知る處がないので、暫く獨逸軍人の精神如何と云ふ問題に就いて語ることは避けるのである、が、その他の獨逸國民に就いて考へる時は、私共の滯在してゐた頃とは、殆んど雲泥の相違がある。これを進步と云ふべきか、或は退步と申すべき乎。それは觀察者の任意である。併し私は獨逸國民の多數を理想に憧憬する國民であると信じてゐた丈けに、その物質化したことの甚しいのに、少からず驚いた。否な、忌憚なく申すならば、私は獨逸國民の將來を、甚だ悲觀するやうになつた。その變化に慄然として恐怖を感じたのであつた。

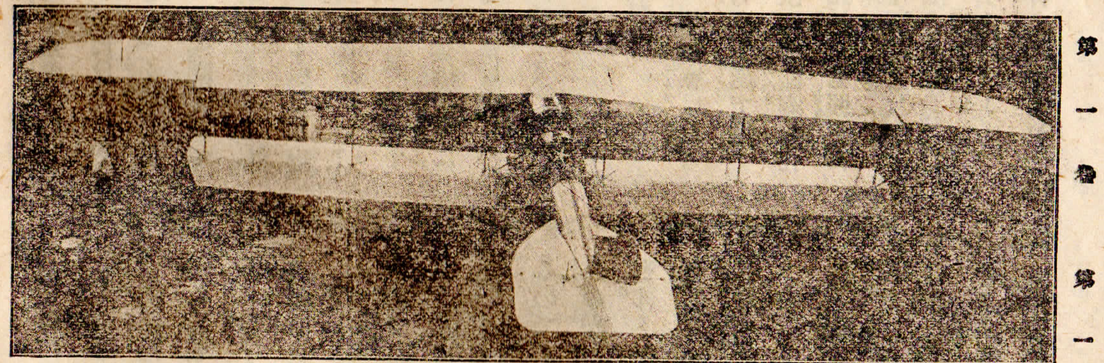
少し皮肉に批評すればこゝに獨逸國民は成金化しつゝあるのである。

歐洲に物質的文明の浸入した結果であるか或は國運の隆盛

に伴ふ自然の成行であるか、それは私共には分らぬ、併し歐洲人は——下級國民は左様でもないが、上流社會及び國家の中堅たるべき中等階級を通じて、俄かに肉體的快樂を欲し、之を擅にするやうになつた。その結果として、精神的のことを語り、之を誇ると云ふより、不斷に物質的方面のことを語り、且つ之を誇るやうになつた。かの獨逸も遂に此の潮流の外に超然たるわけに行かぬもののやうに、否な、却つて之を語るを得意とし、益々誇るやうになつたのである。獨逸國民は成金的榮華を競ふの風さへ生ずるに至つたのである。私は獨逸の識者と共に、之を憂へ、之を悲しく思ふものである。

## 英露は比較尙醇朴

物質的文明に醉はんが爲にする努力でもなく世上の『成功』を取らんが爲にする精勵でもなく唯だ理想の滿足を得んが爲に、專念一意、或は文學に、或は美術に、或は科學に、その一身を捧げると云ふ美風は、私共の獨逸國民



獨逸軍用鋼鐵製飛行機

に傾倒する處であつた。敬服する處であつた。然るに現在の獨逸國民は、勿論、その中に純乎たる理想に向つて努力精勵決して他意なきものがないとは斷言しない。併し其の多數は物質的文明の極端なるアドマイラーであり、成金化の謳歌者であると申すも、決して差支はあるまいと私は考へてをるのである。

こゝに私の眞情を佯りなく語れば、私は十有餘年の獨逸生活に依つて、獨逸國民を知る事の深かつたが爲に、實に私は獨逸國民の同情者であり、讃美者でもあり、謳歌者でもあつた併し私は最近の觀察に依つて、現在の獨逸國民は遂に私の同情、讃美、謳歌した獨逸國民とは、殆んど霄壤の差あることを發見した。これを具體的に說明するならば私の同情、讃美、謳歌した獨逸國民は、實に質朴實着なるもので、上流と下級と中等社會とを問はず、獨逸國民と云へば、歐洲人の中で、最も質素なる國民であつた。外觀より內容を尊しとしたものである。然るに私共が十有餘年の生活をした獨逸にも、華美の風は深く浸入して、何氣なく伯林の市中を通行した私は、その華美の風俗と、けば〲しい他人に誇り顏の樣子とに一驚を喫した。勿論、かう云ふやうな風俗は伯林のみでなく、獨逸國內を通じての風俗である。

更に服裝のみでなく、嗜好——食物の如きも、私共の滯在してをつた頃は、獨逸國民の生活は、徹頭徹尾、實質本位であつた。佛蘭西國民のやうに、今日の米國人のやうに、贅澤を盡すと云ふやうな事はなかつたのである、が、現在の獨逸國民には、その生活が虛飾に滿ち、實質本位がない。唯だ物質的快樂を求むるに急なる狀態で、私共がゐた頃には、コーヒー店も、レストランの如きも、眞に獨逸式とも云ふべく、質實なるものであつた。然るに質素を旨とした伯林のホテルは各室に浴槽を造り、カフエー、レストランには、唯だ騷がしい樂隊などを附けて、客を呼び客も亦之を娛しんでをる。

私は必しも之を斥けねばならぬとは云はぬ。併し之に依つて觀察するも、猶ほ獨逸國民生活の物質的成金化の如何に烈しきかを知るに苦しまぬのである。

慼る物質的成金化の生活は、勿論、獨逸のみではない之を英國に見るに、英國は容易に他國の惡風に感染しない國柄で、何となく保守的色彩に裕かな床しい處である。併し物質的文明を拒むわけには行かず、その浸入したのは事實で、何人も英吉利を訪ふものは、その影響の如何を容易に觀取することが出來る、深く英國人の生活を研究した人達に聽く處に依れば、現在の英吉利にはもうジョン、ファリファックスゼントルマンのやうな紳士的氣風は、少からず頽廢したと云ふ、併し未た獨逸國民とは同日に語る事の出來ぬ美風床しいものがある

更に露西亞は、その土地が或意味に於いて半未開であるやうに、その國民生活にも、決して浮華、輕佻の風なく、質實と云ふより純朴と云ふ美しい點がある。勿論、ピータースブルグの上流社會の生活は、極端なる物質的文明の餘弊に染んでゐる、が、その他のスラブ民族の生活は、眞乎に實質本位、床しい純朴の反映で、露國民は如何なる困難にも堪へ、如何なる苦痛をも忍ぶのである。併し獨逸國民は、最早、遺憾ながら露西亞の人達のやうに、困難に堪へ、苦痛を忍ぶことが出來ない。實質本位、純朴生活、それは過去の獨逸國民の誇りであつて、現在の獨逸國民には、何等の關渉がない。この滔々たる獨逸國民の物質的、成金化を獨逸の識者は歎息し、之が匡正の必要を唱へてをる、併し其の聲よりも、獨逸國民が物質的理想——華美、虛飾、成功を讃美するの叫びが獨逸國內に充滿し、高く聞えてをるのである。

獨逸が勝つか、或は敗北するか、それは今日では知るわけに行かぬ、併し獨逸が勝利者となるならば、物質的生活は愈愈烈しき勢ひを加へて獨逸を益々成金化するに相違ない敗北して此の弊を離脫し得るか、どうかも亦疑問とせねばならぬ。

（八月十四日談話）

# 列國空中勢力

（五十六頁「列國々勢」參照）

最近世の戰爭は、誰かの云つた樣に、平面的でなく立體的になつて來た。海陸ともに、戰域は單に水面陸面のみに限らず、空中水底に迄擴がりて來た。加之、陸上水面に於ける强大なる勢力も、眇たる、飛行機、潛水艇の爲に滅茶々々にされる場合が少くない。故に、潛水艇の發達、飛行機飛行船の發達は、海陸共に戰爭の上に一大變革を與へた。於是、これ等の勢力を調べて置くことが甚だ必要である。潛水艇の勢力は、列國海軍力比較の方に略舉げて置いた。爰には列國空中の勢力を調べて見る。

▲獨逸　飛行機に於て佛蘭西が世界第一の稱ある如く、獨逸は飛行船に於て實に世界第一である。今獨逸の航空隊の編成を見るに、陸軍にありては航空隊十六箇中隊、飛行隊十三箇中隊を有し。

飛行機　二百臺　　飛行船　二十八臺

をこれに配屬せしめて居る。飛行船にはパーセバール、ツェツペリンの二式、飛行機にはブレリオ、ニユーポール、ファルマン其他單複各式を併用して居る。海軍飛行隊は三隊あり、一隊の編成は飛行機三臺より成り、別に豫備飛行機十四臺をこれに屬せしめて居る。航空隊は四隻編成二隊あり、これに豫備船二隻が配屬してある。即ち

飛行機　五十臺　　飛行船　十隻

を有する勘定になる。これ等の飛行隊は要處々々に根據地を有し、主として佛國境と北海及び波爾的方面の露境とに備へてある。次に

▲墺匈國　は、首府ウヰーンに廣大なる飛行場を有し、その現に有する空中勢力は

飛行機　百三十臺　　飛行船　四隻
海軍飛行機　六臺

である。これに對する露、佛、英側の勢力如何と見るに、先づ

▲露西亞　に於ては陸軍航空隊十六箇中隊を編成し、これに二百八の繰縱將校と

飛行機　三百臺　　飛行船　十三隻

とを配屬せしめて居る。海軍航空隊は現に編成中に屬し、尚完成しては居らぬが、而も尚現に

海軍飛行機　八臺

を有して居る。更に

▲佛蘭西　に至れば、流石に飛行機の本場だけあつて、航空隊の組織は甚だ大規模である。即野戰飛行隊二十七箇中隊、內地要塞飛行隊五個中隊、海岸防禦飛行隊六箇中隊、騎兵附屬飛行機三十臺を有し、これを三軍團に別ちて各十二の飛行場と二十の副飛行場を持つて居る。その勢力は陸軍にありて

飛行機　七百臺　　飛行船　十五隻

を算し、海軍にありて

飛行機　十一臺　　飛行船　一隻

を有して居る。終りに

▲英吉利　は、最も遲れて航空隊の編成に着手したのであるが、併し最近獨佛の航空隊發達に刺戟せられて、官民共に鋭意これが施設に熱中したので、非常に急速の進歩を爲し、現時に於ては陸軍にありて航空隊一箇中隊、飛行隊七箇中隊、繰縱將校百五十餘人を有し、

飛行機　百二十三臺　　飛行船　七隻

をこれに屬せしめて居る。然るに、以上の飛行機を常に完全の狀態にあらしむる爲に、常に四臺の飛行機と豫備品とを準備して居ると云ふ事であるから、實際の勢力は百五十餘臺となる譯である。外にリバープール市經營に係る飛行隊一箇中隊がある。海軍にありては更に

飛行機　百臺　　飛行船　四隻

を有し、之に對する縱繰者を有して居る。以上を總括して見れば次の如くなる。

| | 陸軍 飛行器 | 陸軍 飛行船 | 海軍 飛行器 | 海軍 飛行船 | 計 飛行機 | 計 飛行船 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 獨墺側 | 三三〇臺 | 三二隻 | 五六臺 | 一〇隻 | 三八六臺 | 四二隻 |
| 露佛英側 | 一、二五二臺 | 二五隻 | 一一九臺 | 五隻 | 一、三七一臺 | 四〇隻 |

## 列國富力表

最後に、交戰列國の富力を大體に於て觀察する爲に、歳入總額、純輸出入總額（即實際輸入額中より再輸出額を除きたる純內國消費額、及び本國物産及工業品の輸出額を總計せるもの）國債總額、及びこれ等各項の人口一人當りを調べて見る。序に帝國の分をも參考の爲掲げて置く。

| | 歳入 總額（千円） | 歳入 人口一人當（円） | 純輸出入 總額（千円） | 純輸出入 人口一人當（円） | 國債 總額（千円） | 國債 人口一人當（円） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 獨逸 | 一、五四五、〇〇〇 | 二四、〇 | 八、七六〇、〇〇〇 | 一三四、五 | 一〇、〇〇〇、〇〇〇 | 一五四、〇 |
| 墺匈 | 二、一五〇、〇〇〇 | 四三、〇 | 二、三三〇、〇〇〇 | 四六、五 | 七、八〇〇、〇〇〇 | 一五六、〇 |
| 露西亞 | 三、〇〇〇、〇〇〇 | 一八、〇 | 二、六八〇、〇〇〇 | 一六、五 | 九、四五〇、〇〇〇 | 五七、五 |
| 佛蘭西 | 一、九〇〇、〇〇〇 | 四七、五 | 五、六六〇、〇〇〇 | 一四一、五 | 一〇、一五〇、〇〇〇 | 二四四、〇 |
| 英吉利 | 一、八六〇、〇〇〇 | 四一、〇 | 一〇、三三〇、〇〇〇 | 二二八、〇 | 七、二〇〇、〇〇〇 | 一五九、〇 |
| 白耳義 | 三五〇、〇〇〇 | 四四、〇 | 三、二四〇、〇〇〇 | 四三一、〇 | 一、六〇〇、〇〇〇 | 二二三、五 |
| 塞爾維 | 五三、五〇〇 | 一七、五 | 九五、〇〇〇 | 三一、五 | 二六五、〇〇〇 | 八九、五 |
| 黒山 | 一、一五〇 | 五、五 | 四、五〇〇 | 一九、五 | 二、五〇〇 | 一八、五 |
| 大日本 | 五八〇、〇〇〇 | 一一、五 | 一、〇一〇、〇〇〇 | 二〇、〇 | 二、六〇〇、〇〇〇 | 五二、〇 |

# 葡萄酒のやうな赤い血の湧く佛蘭西

久米桂一郎

## ◎敵愾心の强い國民性

私の初めて佛蘭西へ行つたのは、もう二十年の昔のことであるが、その時は既に普佛戰爭以後二十年を經過して居るにも拘はらず、一般佛蘭西人の獨逸に對する敵愾心といふものは非常であつて、一寸した出來事があつても、もう直戰爭が始まりさうな騷ぎ。外國人などは巴里に居ても常にびく／＼して居た。其の頃の佛蘭西人は誰れも彼れも獨逸を目の敵にして、何れ早かれ晩かれ復讐戰をして獨逸を苦めてやるのだと腕つ節を撫でゝ一日もこれを忘れない有樣であつた。殊に國境地方の物々しさと言つたら大へんなもので、獨逸側からも佛蘭西側からも、絶えず斥候のやうな者が出て、樹立の間や物蔭から樣子を覗ひ合つて居た。そしてうつかり横道へでも入らうものなら、直ちに誰何される、外國人の我々で、しかもカンパスを携へて居るにも拘はらず斯うであつたから、獨佛兩國人間の警戒は想像するに餘りある。國境地方とか要塞地帶とかはどこにしても氣味のよい所ではないが、あの通り要塞が一筋の鎖の如く、兩方に相列つて居た此の地方は近年に至るまでさうであつたらうと思ふ。

現に千八百八十九年の佛國博覽會の時の如き他の各國からは出品して居たのに、ひとり獨逸からは出品して居なかつた。然るに其の後十年、千九百年の巴里大博覽會には獨逸も非常な好意を以て澤山出品した。元來此の大博覽會は、佛蘭西人が普佛戰爭に敗けて以來、非常に殺氣立つて、主戰熱が盛になつて居たのを國家政策上平和論になつたので、どうかして、これまでの心機を一轉させ、國民思想を緩和しやうといふので開かれたものであつた。從つて此の頃から佛蘭西人の獨逸人に對する敵愾心は頗る穩和になつたのである。

然るに數年來獨逸の軍備に汲々たる有樣に刺戟せられて、佛蘭西の方でも再び武裝的方針を取るやうになつた。現大統領ポアンカレー氏の如きその一人で、大に社會の信任を得て評判がよいのである。一體佛蘭西人は、南國的な熱狂し易い國民であると共に、頭腦の明晰な方であるから、大人物が現れて、國民の先覺者となつて眞つ先に進んで指導するとなると、民衆は直ちに熱狂してこれに從ひ、且つその機宜に應じて處理して行くから、よく進退を誤らざるを得るのである。今のポアンカレー氏の下にある佛國民の狀態もこれであるが、ナポレオンに對しても同樣であつた。

私の居た二十年前に、敵愾心が絶頂に達したのは、時の陸軍大臣ブーランジエー氏に導かれてであつた。彼は小説的な一生を送つた人で、佛國人の典型と言つてよかつた。貧賤より身を起して、忽ちにして代議士となり、その年大臣となり、大に主戰主義を鼓吹した。彼は野心あり覇氣あり、又人物の大きい政治家でナポレオンの如く、再び佛蘭西を率ゐて佛國の歐洲たらしめんとしたのであつたが、間もなく反對黨の爲め失脚して、白耳義に放逐され、女優と戀に落ちて終に自殺した。今のポアンカレー氏の如きも第二世ブーランジエーだと言はれて居る。佛蘭西人は概してこんな性情が多いのである。

## ◎山紫水明の國境地方

獨逸から佛蘭西へ入るには三つの道がある。一つは白耳義方面で、平野を亘つて直に佛蘭西に續いて居る。リエージの如きは此の道に當つた要害である。次に白耳義方面の山岳と中部の山脈との斷れ目に當つて、殆ど平坦な一條がある。メッツ地方これであつて佛蘭西の最も堅固な砲壘を築いて死守して居るところが此の地方である。次が、此の山脈と瑞西から出て來たアルプス山脈との斷面にして、ベルフオールの如きはこゝにある。此の中で、瑞西國境は高峻な山が多く、難道であるから大軍を動かすとが出來ない。故に戰爭區域となるのは、他の二道の方面であらう。

此の二地方は、古來戰場として有名な所で、今度獨逸皇帝が大本營を移されたといふアーヘンの如きも、ナポレオンの戰爭で知られた所である。殊にシレーからナンシー、メッツ、ロンウエーにかけては、山紫水明ともいふべき自然の美觀がある。山岳地方は樹の色が概して黑く、景色のよい所は少いが、此の白耳義境に出づる地方は清流到る所に流れ、樹や草も美しく、畫家などのよく行く所である。從つて美術家等も多く出で居る。ムーズ地方といふ、特に景色のよい地方の如き、コラン、バスチアンの如き大家を出して居る。又白耳義の方は、こゝももとフランドルと言ひ、十五世紀にフレミス派といふ一派の繪畫の起つた地方で、パーズだの、油畫の鼻祖ワンネイックだのが出た場所である。こんな風で、今度馬蹄の塵に汚さるべき國境地方は、美術家に取ては忘れ難き思ひ出の深い場所である。幸にして國都巴里には遠いから、美術家の迫害を蒙むる場所も少なからうし、美術品の損傷等もあるまいと思ふ。普佛戰爭に於てすら、美術品は比較的尊重されたのであるから、今日の如く文明的の戰爭には、美術の上にまで傷害は加はるまい。且つ又國境地方には建築物や肖像等も少ないのである。若し少數のものがあつたとせば、それ等は多少の損害は免れないであらう。

## ◎パンさへあれば生きて行く

今度の戰爭で、一切の生產事業は停止し、國家は財力を消費するばかりであるから、佛蘭西の如きも生活上の壓迫はないかと思はれるが、佛蘭西人は平素決して他から想像するやうな懶惰な國民ではない。極めて勤儉貯蓄の心に富んで居て、富力の程度でも恐らく歐羅巴第一であらう。從つて、今度多少の軍費を要したからとてびくともするやうなことはあるまい。殊に佛蘭西人は質素であつて、食物の如きも贅澤な習はないのである。朝に珈琲一杯位ですますし、勞働者でもパンで腹を拵へて仕事に出るのである。晝も極めて簡單にパンを嚙つて耐へて居る。夜は御馳走をする。御馳走といつても肉を一皿に、野菜を一皿位なものである。日本あたりで佛蘭西料理と言へば、肉を四皿も五皿もならべて、野菜などは殆ど使はないのであるが、佛蘭西では決してそんなことはない。肉と同樣に、廉價な野菜も多く食べるのである。獨逸では朝も冷肉を食べるし、夕食の代りに晝御馳走をして、可なり贅澤をするやうであるが、佛蘭西では決してそんなことはない。要するに佛蘭西人はパンと珈琲とさへあれば生きて行けるのである。

しかし酒はよく飲む、これとて獨逸人が麥酒を煽る程ではないが、しかし、彼等は食後には必ず葡萄酒



軍國の佛蘭西少年

な飲むし、又コニヤツクもよく飲む。獨逸人のやうに何時でもがぶ〳〵やるわけではないけれど、食前食後と二度飲む者もあるし、殊に一寸した宴會などにも決して一種の酒ではしまはない、紅い酒や靑い酒やそれ等にも又輕い酒とか重い酒とかあつて、それをうまく飲み合せるのである。日本人などはどつちかと言へば酒を飲まない方であるから、お客になつて行つた時などにはよく困らせられる。佛蘭西人は女でもよく飲むのだから、折角御馳走に出されたものを飲まないのも失禮だし、つひ〳〵飲む癖がついて來る。であるから大ていの日本人は一年か二年先方に居る中には、飲めなかつた人も餘程の大酒家になつてしまうのである。こんな佛蘭西人であるから、直く熱して、葡萄酒のやうな赤い血を湧かすのは無理からぬ話である。

◎文明の國、華の國

然し酒を飲んだからと言つて、行儀を惡くするやうなことは決してない。日本の如き、宴會の如きでも醉つて管を巻くのが面白いのだし、又杯盤狼藉の極に達しなければご馳走でないやうに思つて居るが、あれ等は實に日本人の粗野を示すもので　お恥かしい次第である。そこは佛蘭西は文明の中心である。どんなに醉つても禮は亂さない、啻に酒の上のみならず佛蘭西人の品行は比較的方正である。淫靡だといふ評判であれど、それは巴里あたりに居る外國人が淫靡なので、佛蘭西の國民其ものは却つて眞面目である。たゞ巴里は外國人の行樂する場所であるから、外國人の金を絞るには至極適當な樣に出來て居る。外國人が此處へ來れば、種々な誘惑の爲め淫靡ならざるを得なくなつて居る。從つて其の目的で巴里の婦人の一部には、外國人を誘惑する種類のものもあるけれども、それは佛蘭西の淫靡ではなくて、外國人其物の間に一種の淫靡な氣風が出來て居るのである。日本から留學する人達でも先づ第一に日本人間の交際をするな佛蘭西人の固い家にでも寄宿しろと常に勸められるのは此の爲めである。巴里のさういふ場所や女も、東京に比しては極めて少く、ブールジエ、即ち大通りの附近と、モンマントルとて興行物の澤山ある所との二個所位なものである。それとて咖啡店の或る物が怪しいまでゝさう大したことはない。倫敦のやうに辻君が徘徊するなどいふでもなく、賃金の少しより取れない工女等が夜間そつと人の袖を引く位なものである。



佛普戰爭の屈辱を慷慨して常に佛國の士氣を鼓舞する愛國家デルレーデ氏◎氏はアルサスにて獨人の爲めに虐殺されたりとの噂あり

尤とも女優は有名なものである。これは日本の藝妓よりもつと風俗の亂れた者で、外國の貴族や皇族が巴里へ微行して來ては、惡いことを覺えて歸るのは女優によつてゞある。

# 歐洲の大亂と日本の貿易關係

堀越商會主　堀越善重郞

## 歐洲戰亂の素因

今回の歐洲戰亂の直接の動機は、塞爾維の一學生がボスニア州の首府セラエボに於て墺國の皇太子フランシス、フエルヂナンド殿下及び其妃を暗殺したといふ事件から、爆發したのであるけれども、實はこの戰亂は更に遠き以前より避く〳〵べからざる勢で、進んで來て居つたのである。之を一言にいへば、獨露兩國の野心に本づいて起つたとも見なければならぬ。元來露國はバルカン諸國を征服し、若くば是等を自國の與黨に加へて、以てダーダネルの封鎖を破るか或は地中海に出でんとすることは、世人も知る如く遠き以前よりの企てゞあつた。その爲めに先づ土耳其を初めバルガン諸國を征服せんと企て、一千八百五十四年即ち我が安政元年より千八百五十五年我安政二年に亘るクリミヤ戰爭を惹起した。更らに一千八百七十七年より七十八年即我明治十年より十一年の露土戰爭も、之と同じ原因で起つた。此時も露國は歐洲列國の干涉を蒙り、戰勝の利益を獲ず其結果露國は歐洲に南下するの甚だ困難なるを見るや、轉じて東に向ひ太平洋に出でんと企てたのであつたが、偶々日露戰爭となつて、終にその野心に一頓挫を來したのである。

之と相前後して、歐洲に南進の企てを抱いて居るのが獨逸である。バルガン諸國、殊に土耳其を自分の手中に收め、コンスタンチノープルより、バグダットに鐵道の布設權を得てペルシャ灣に出で、同時に小亞細亞に勢力を伸ばさんとして居るのが獨逸の野心である。之が爲めには先づバルガン諸國を征服するか、若くは自分の勢力範圍に收めざるを得ないのであつて、即ち露國と獨逸とは何づれの日か、バルガン問題で衝突せざるを得ないのであつた。之は多くの政治學者が夙く豫期して居つた所である。

## 戰亂爆發の事情

所が露國は我明治三十七八年に日本と衝突して敗北し、更らに引續き三十八年より九年にかけて國内に大騷亂を惹起した。戰爭で財力を失ひ、血を流し、更らに內亂で國力疲弊して容易に恢復し得ざるに乘じ、明治四十一年に、墺國はボスニヤ、ヘルツエゴビナの二州を露國の與國たる塞爾維の勢力より奪ひ去つたのである。元來この二州は一千八百七十八年の露土戰爭の結果、當然露國が之を占領すべきものを、英、佛、獨、伊、墺の諸國が干涉して之を奪つた所謂政治史上に有名なる伯林會議である。恰度我日本が

日清戰爭の結果遼東半島を占領すべきを三國干涉の爲めに還附したと同じく、露國が右の二州を占領し得なかつた事は、非常に遺憾に思つて居つたのである。故に何時かは之を回復して自國の所屬にせんことを深く期して居つたのであるが、偶々日露戰爭後露國の力微弱なるに乘じ獨帝の虛喝に懸り終に墺國の手に奪はるるに至つたので、露國の激昂は非常なものであつた。明かに聲言した譯ではなかつたけれども、その時から露國は軍備の大擴張を初めた。その後十年間に約八十萬の常備兵を增す企てを爲し、一千九百十七年即ち我大正六年には露國の常備兵は百七十三萬、戰時には五百六十萬の大軍を整へ得るの計畫を立てたのである而して此計畫たるや他日墺獨に對戰し、以て一つは墺の手に奪はれたるボスニヤ、ヘルツエゴビナの二州を回復し、一つは獨の手に殺がれたる政治上の勢力を挽回せんとの復讎戰を企てたるものであることは疑ふまでもないのである。

偶々今回の墺國皇太子暗殺の事件が起つて、墺國より塞爾維に對し、種々の難題を提出したのみならず塞爾維が獨立國として到底堪へ得べからざる條件の提出となつた。若し獨墺共に今日の露國の決心を豫想し得たりしならば、墺國は必ず塞爾維に對して斯くの如き要求を提出せざりしならんが、露國の戰備は我大正六年に至らねば完きを得ないのであるから、今日露國に斯くの如く突然獨墺二國に對して、宣戰を布告するに至ることは、畢竟、獨逸が露國に對する方寸を過まつた爲めに、今回の大亂の曝發となつたとも見ゆるのである。要するにバルガン問題は何時かは衝突せざるを得ないことは、何人も豫期して居つた所であるけれども、斯く急卒に曝發せんとは、恐らく何人も想像し得ざりし所であらう。

## 貿易復舊の時期

斯くして戰端は開かれた。その結果露國の同盟國たる佛蘭西が之に加はり、更らに英國が加擔して、終に全歐洲の大騷亂となつた。

この戰亂が貿易上に及ぼす影響は如何といふに、現在、各交戰國は勿論、その他の中立國に至る迄も、航海の不安心なる爲めに保險料は未曾有の高率に上り、金融の道も杜絕し、今や全世界の貿易は全く閉塞の姿となつて居る。併しこの狀態は何時までも繼續するや否やといふに、畢竟英獨の海戰の勝敗が決するまでの間であると思ふ。唯だその決戰期が何時かといふが問題である。兩國の艦隊が大集中を爲し、大決戰を爲すの機は何時かといふことは全く不明で、今月の中かも分らぬが、來月に至るもこの大海戰は起らぬかも知れぬ。併し如何に延びても、冬期に入るまでには、必ずこの勝敗は決することであらうと思はるゝ。而して英獨の何づれが勝つか敗るゝかも未定であるが、何づれが勝つにしても、それで落着すれば海上の通路は開ける。商船の往復は心配なく自由に出來る。それに依つて保險も下がり貿易も恢復するに至るのである。故に世界の貿易が歐洲戰亂の爲めに打擊を蒙むること、現在の如き狀態は決して長くない、遠からず舊に復するの時期來るべく、而して如何なる覺悟を以て、此時期を待つべきかは大いに研究すべき點である。

## 那翁時代の英國貿易

那破翁一世時代の歐洲の騷亂は、今日以上であつたけれども、英國の貿易は毫も之に妨げられざるのみならず、歐洲大陸諸國が貿易杜絕の有樣であつたから、英國は代つて盛んに供給し、終にこの時期に於て英國の貿易は非常な發展を爲した。那破翁一世は令を歐洲各國に下して、英國との通商を禁じたが、併し必要品は是非共買はねばならず、その部下の佛兵が英國製の毛織物を着て居つた事は著しき事實である。

那破翁が覇を歐洲に唱へた頃までは、英國の貿易は甚だ微々たるものであつて、和蘭西班牙及び佛蘭西が航海權を占有せる有樣であつたが、佛蘭西及び西班牙の聯合艦隊がネルソンの爲めに擊破されて以來、航海權は一變して英國の手に移つた一千七百九十三年より一千八百十五年、即ち那破翁が歐洲に覇を唱へてより、セントヘレナに流さるゝまでの二十二年間、歐洲はあれ程の大騷亂であつたにも拘はらず、英國の通商は何等の妨害を受けざりしのみならず、寧ろ此時期に於て大發展の新紀元を開いたのである。

元來加奈陀や北米合衆國への英國の貿易は米大陸發見の古へより、繼續して居つたけれども、メキシコ、ブラジル等の南米諸國に對する通商は、總べて佛蘭西西班牙の領域であつた、然るに一度びネルソンの武勇に依つて制海權を掌握して以來、メキシコ、ブラジル等の諸國との貿易は、總べて英國の手に收められた。此時期に於ける英國の熱心なる貿易擴張上の奇談は頗る多い。例へば南米諸國は熱帶國なるに、英國シエッフキルドの金物商は、之にストーブや氷滑器を輸出したといふ滑稽談もある、又マンチエスターの商人は多量の綿織物をブラジルに輸出した。ブラジルでは七八年間もかゝらねば使ひ盡し得ないといふ程の多量の物を二三週間の中に送つて仕舞つて、之を藏むるの倉庫なき爲めに、屋外に積んで雨に打たるゝに任せたといふ談もあるのだ。

## 千歲一遇の好機

今回の歐洲戰亂も、英獨の海戰の勝敗さへ決せば航海は安全になる若し今日の狀態が永く續くとすれば國家は破產する外はないのであるが、併し決してさういふ心配はないと思ふ。縱令大陸戰は永く續くとするも、貿易上に蒙むる今日の如き影響は

決して永くない、人氣も落ち付き、經濟界の動亂も鎭まり、通商も安全に自由になる時期は必ず遠からず來るのである。

然れば今回の歐洲戰亂は、我日本に取つては、國運發展の上よりいふも、貿易擴張の上よりいふも、千歳一遇の好機であると思ふ。

歐洲の穀物輸出地たる露國が、交戰狀態にある爲めに、之を輸出することは全く出來ず、米國が代つて之を補ふ地位に立つた。それで米國は本年は未曾有の豐作にも拘はらず、穀價は少しも下落しない而已ならず非常なる騰貴を來した。即ち米國は戰爭の結果、不時の利を占めんとして居るのである、本年の米國の穀物の輸出額は、非常の多額に上ることであらうが、之が爲めに米國の景氣は亦醉へるが如き異常の盛況を呈することであらうと思ふ。米國が戰爭の餘澤を受くれば、日本も亦その利益を受くべきは當然である。即ち米國の景氣が盛んになれば、日本の對米貿易も從つて盛んになるは當然である。

然れば日本の輸出貿易の主なる販路は、米國と更らに印度支那である。印度及び支那も目下日本と同じく戰亂の影響を受け、財政の動搖を來して不振の狀態にあるけれども、遠からず舊狀に恢復するのである。此印度支那は本より富裕の國柄ではないとはいふものゝ、今日迄の多額の輸入品は、皆必要品であつて、何うしても買入れざるを得ない。而して從來の供給國たる歐洲は、當分東洋貿易に着手するを得ないのであるから、日本が代つて之に補充の道を講ずるは目下の急務である。（完）



獨逸ツェッペリン式飛行船

# 日獨貿易品概目

東京商業會議所書記長　白石重次郎

我政府は獨逸に對し愈〻最後の通牒を發したのであれば、最早や我々は日獨開戰を豫期しなければならぬ場合である。此開戰が日獨の貿易に及ぼす影響如何、その補充の方法如何、更らに新發展の道如何は、畢竟歐洲方面の戰爭の進涉如何に關係し、更らに平和克復の時期方法如何に關係し、その他關聯する所極めて複雜なれば、之を一概に斷定する事は困難である。故に玆には單に日獨間の貿易品の主なるもの、及びその一ケ年間の價格を擧げて參考とするに留めて置かう。左の表は一昨年の貿易年表によりて一昨年一ケ年間の貿易額を摘出したものであるが、大體は之に依りて現狀を察することが出來やう。

獨逸品の輸入狀況

（參考上各國よりの總輸入額を對照す）

| 品目 | 獨輸入 | 總輸入 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 木材 | 一六、九八六円 | 二、一二〇、四七〇 | |
| 金屬 | 一、一九三、七五六 | 一四、〇四三、二六七 | （亞鉛、錫、につける、あるみにーむ、水銀、銑鐵） |
| 麥芽 | 二二六、九六一 | 四九二、六四九 | |
| 魚肥 | 八七、三九八 | 八一八、一〇七 | |
| こんでんすみるく | 一三、二五一 | 二、〇八九、七三一 | |
| 毛皮類 | 二九九、四九七 | 一八、八九三、四六八 | （羊毛、豚毛、牛皮、骨粉） |
| 絲類 | 四、九〇二、五二八 | 八、六九六、九六五 | |
| 紙類 | 四、〇二四、五四五 | 九、五一五、一五五 | |
| 製革類 | 一三六、六二六 | 一、五五六、四〇四 | |
| 科學用品 | 一、〇九五、一一四 | 一八、二〇八、二五九 | |
| 板硝子 | 八五、二八二 | 二、八六八、六五八 | （青性曹達、曹達灰、鹽酸加里、赤燐、黃燐、佩里殼林、硫酸安母紐謨、だいなまいと） |
| 鉛筆 | 三八九、七八〇 | 四七六、四〇四 | |
| 金物 | 一三、六五〇、〇六八 | 四六、八八五、五八五 | （板亞鉛、條竿、板鐵、電鍍板鐵、葉鐵、鋼線、電鍍線、軌條、鐵釘、螺旋釘、鐵管） |
| 織物 | 一、九二一、一九九 | 三、一九一、一〇七 | （生金巾、晒金巾、寒冷紗、更紗、絹綿子、羅紗、せるぢす） |
| せるろいど | 二九四、三三六 | 四九二、八七六 | |
| 人造藍 | 一、八二五、三八三 | 一、八七九、七三九 | |
| あにりん染料 | 三、四五三、五一三 | 三、九二七、〇六七 | |
| ぺいんと | 八、一〇四 | 三六二、五五四 | |
| 農工匠具 | 五〇、四五一 | 五七一、四八四 | |
| 喞筒 | 一三〇、七二八 | 六〇五、一九二 | |
| 汽鑵汽機 | 一三四、四九一 | 一、八九七、二六七 | |
| 諸機械 | 三一七、三三一 | 三、一八八、八四〇 | （紡績機、縫衣機、製紙機） |
| 懷中時計及同機械 | 八、四四〇 | 九〇八、八七九 | |

| | | |
|---|---|---|
| 自轉車 | 獨輸入 | 一七四、二一〇 |
| | 總輸入 | 三、一二六、二三三 |
| 機關車 | 獨輸入 | 三五八、三七七 |
| | 總輸入 | 八〇一、五三三 |
| 汽船 | 獨輸入 | 八、七〇〇 |
| | 總輸入 | 三、九四七、三八五 |

獨逸より我國への輸入品、及び一昨年一ヶ年の輸入額、それに對す各國よりの總輸入額は上記の次第である。勿論上記の品以外尚ほ多數の輸入品はあるが、獨逸以外のものは之を省いた。日獨戰爭の結果、差當り獨逸より輸入なきものを知るの參考に供するに過ぎない。大藏省の調査に依る貿易概覽に依つたもので、尚ほ記載漏れが多少はあるだらう。更らに日本より獨逸へ輸出しつゝあるものは何何か、その輸出額は幾何かを左に擧げやう。

### 獨逸への輸出狀況

農産物（米、百合根、豌豆、乾薑、乾蕃椒、大豆油、糸瓜、薄荷）
右總額　七五九、七五九圓

農工品（麥稈眞田、經木眞田、麻眞田、木材、竹材、鐵道枕木、木蠟）
右總額　三、一五八、三九七圓

水産品（鑵詰蟹、珊瑚、魚油、寒天）
右總額　一、一五〇、二三〇圓

鑛産物（石炭、銅）
右總額　一、七四七、九〇五圓

工業品（テーブルクロース、綿縮、メリヤス、靴足袋、羽二重、絹手巾、絹寢衣、洋服、竹籠、家具、醬油、コッピー紙、鳥ノ子紙、紙製ナプキン、製革、沃度加里、アンチモニー製品、貝鈕釦、ブラシ、帽子、傘柄、扇子類、屏風、玩具）
右總額　三、二五四、三〇九圓

獨逸への輸出品と其額は右の次第で、一昨年一ヶ年の總額一千萬圓餘である、戰爭の間は此輸出が杜絶するはいふまでもないが、併し此間に獨逸品の供給を受けたる他の諸國に向つて輸出の道を開くことに新活動を始むれば、此歐洲戰爭を利用して日本貿易が大發展を期し得るは明かである。

## 獨逸留學生の處置

文部省より海外に派遣せられたる人々の大多數は獨逸に在り。今回の動亂起るや、留學生諸氏、大に困難を極め、或は虐待せられたとの報すらあり。之れに就きて文部省專門學務局の佐野保太郎氏を訪ひて聞き得たる談話を左に掲ぐ。

文部省の官費留學生が、獨逸に七十八人、墺地利に四人居る。この外早稻田大學の留學生、慶應義塾の留學生、遞信省及び陸軍省より派遣せる研究生、その他自費留學生を合すれば實に夥しき數に上るのであるが、この學生の處置は如何にすべきであるか。

文部省の海外留學生は、目下英國に九人、米國に四人、佛蘭西に七人、瑞西に三人、合計二十三人に對し獨墺の留學生は合計七十四人。他國の留學生に比し在獨留學生の數が特に多い所以は、一つは獨逸は今や世界の學界の中心と稱せられて居る爲めと、又一つは學費が比較的廉くて濟む爲めもある。文部省の海外留學生に對する一ヶ月の學費は平均百五十圓を支出することになつて居るが、伯林やミュンヘンで極く質素に暮せば一ヶ月百二三十圓で濟まされるが、ロンドンでは如何に儉約するも百六七十圓はかゝる。之れ獨逸に留學し易き一つの原因である。

特別の留學生の外に、開業醫でドクトルの稱號を得る爲めに自費で留學して居るものが甚だ多數である。今迄は醫學專門學校の卒業者は皆試驗を受けてドクトルの學位が貰はれた。故に此學位を得る爲めに多くの開業醫は自費で向ふに行つたけれども、近頃になつて高等學校の卒業生以上のものでなければドクトル試驗が受けられなくなつたから、此一二年は幾らか減つて居るけれども、概して獨逸には醫學研究者が一番多く行つて居る。

陸軍省遞信省其他方々からも此方に問合せて來て居る。獨逸に行つて居る留學生の處置を何うするかと心配して居る。只今協議中で、如何なる方法を取るか未だ決定して居ないが、幸に文部省から派遣して居る留學生だけは、已でに今年中の學費は皆先日送つて仕舞つてある。それで皆銘々に如何なる方法を取らうとも差支へのないだけの金は持つて居る譯であるが、多數の自費の留學生は恐らくその準備はあるまい、電報は通せず、爲替は組めじ、實に困まるだらうと心配して居る。



戰亂漫畫　平和神の失敗

尤も伯林には日本人が寄つて日本倶樂部といふを組織して、平生でも留學生などの世話を善くして居るから、今度のやうな急變の場合には必ず協同して困まるものは相當の處置を取つて呉れる事であらうとは思ふが、何しろ在獨本邦人の殆んど總べてが引上げて、直ちに歸朝するか、他國に避けて行くか何づれかの方法を取らねばならぬ場合だから、定めて困つて居る事であらう。

文部省の留學生は大部分歸朝する事にならう、歸朝しないものは多く英國に行つて研究するやうにならうと思ふ。

# 壯烈なる空中の肉彈突擊

## 名飛行家ギヤロー氏の悲壯なる最期

**八月八日露都發電報によれば、佛國の有名なる飛行家ギヤロー氏は獨逸の飛行船と空中に戰ひ彼我共に墜落して悲壯なる戰死を遂げたり。**



佛國飛行家ギヤロー氏

墺國皇儲殿下暗殺の飛電霹靂の如く全世界に喧傳せられたと思ふ間もなく、暗憺たりし巴爾幹の時局は急轉直下の勢ひを以て、凡ての空想を盡く實現せしめて了つた。列强國交の手套は手早く脫ぎ捨てられた。恁うして戰雲は全歐の天地に重疊した。第一に報ぜられた戰報は、實に佛國飛行家の壯烈なる空中肉彈突擊てふ、聞くだに悲壯肉躍るが如き感ある一飛電であつた。

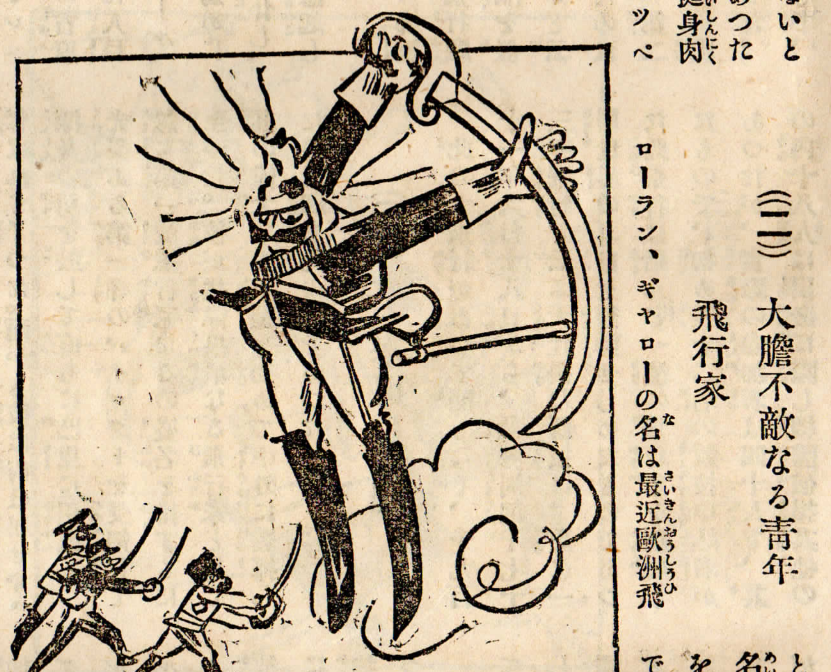
振古未曾有とも云ふ可き此の大戰爭に際して、世界最新式の武器たる航空機が、如何に目覺しき活躍を試むる事であらうとは、何人も先づ胸中に描いた興味ある想像であつた。佛國と云へば實に世界第一の飛行機國で、之に對する獨逸は實に飛行船萬能國である。飛行機と云ひ、飛行船と云ひ、何れも最新最銳の武器で、何人も其の威力の强大なる可きは疑を容れぬとしても、何れも實際に於ける鐵火の試驗は未だ試みられぬものであるから、果して其の何れが優秀たる可きかは、的確なる斷案を下し得ないのである。

### （一）飛行機か飛行船か

之を海上に譬へて云へば、飛行船は大戰鬪艦で、飛行機は即ち水雷艇位なものである。固より正々堂々の對戰では、勝味のあらう筈が無い。況や獨が世界に誇るツエッペリン式飛行船の如きは、航續力四十餘時間に及び、速力優に四十五哩を有するをや、佛の飛行機如何に快速なりと雖、之に向つて爆彈を投下し、見ん事其の橫腹を裂くが如きは、先づ至難中の難業と云はざるを得ない。之に反して飛行船には少くも二十人の乘員と倶に、多數の新銳武器を搭載し、飛行機破壞の爲めに要する各種の武器は盡く完備して居る。是に於てか、世界の學說は一の突飛にして、且つ戰慄すべき斷案に到着した。夫は即ち飛行機の空中突擊である。飛行機が其快速力を利用して、尨大なる飛行船の胴中目蒐けて突擊したら、是は如何ともする事が出來ない。曾て伊國の陸軍大演習に於て、圖らずも此突飛なる戰術は慥かに有効にして、且つ的確なるを證據立てられた。仍で勇敢なる佛の飛行隊は必ずや此の擧に出るに相違ないとは一部識者の確信して疑はぬ所であつたが、果せる哉名飛行家ギヤローは挺身肉彈を飛して、雄名世界に高きツエッペリン飛行船と空中に刺違へ、相倶に墜落粉碎して、壯烈眞に鬼神を泣かしむるが如き勇敢なる最期を遂げた。彼が一人の死を以て、ツエッペリン積年の威力を奪ひ、全國民の士氣を振興せしめたのみならず、獨軍唯一の誇たる彼の尨大なる飛行船をして、再び出る能はざらしめた功績に至つては、眞に千載不朽の榮譽あるものと云はざるを得ない。其の價格から云つても、ツエッペリン式飛行船は約五十萬圓の建造費を要し、二十名の乘員と、各種の特別裝置とは、到底此の戰役中に恢復し得ざるものである。此點に於ても彼は實に偉大なる勝利者と云ふ可きであらう。

### （二）大膽不敵なる青年飛行家

ローラン、ギヤローの名は最近歐洲飛行界に於て、誰知らぬ者も無き迄顯著なるものであつた。彼は本年恰も二十七歲の血氣盛な青年で、父は現に辯護士を職業として佛領柴棍に居る。天成の飛行家として、後年ブレリオ四天王隨一人の雄名を轟した彼は、幼少から非常に音樂を好み、一時は之を以て身を立つる積りであつたらしいが、千九百四年ライトの空中飛翔と共に世界の飛行熱は一時に勃發して、殊に佛國の上下は殆んど狂熱的に此の機運に投じた。彼が胸中鬱勃たる雄心は何條この新武器を見逭さう、奮然樂器を投げ出して、危險極りなき飛行界に身を投じ、千九百五年初めてサンジユモン式飛行機を飛して巴里人の度膽を拔いた。是れが抑も彼の名が飛行界に現れた最初であつた。彼の高邁にして且つ大膽不敵なる性格は、充分なる素養と相俟つて、忽ち彼をして天成の飛行家として、其の名を全歐に轟かしめたのである。其後久しく彼は米國に居つたが、恰かも千九百十一年五月二十一日、佛國プチーパリシ



戰亂漫畫　只一擊と意氣天を衝く

ヤン新聞社主催の下に、巴里馬德里間と云ふ驚く可き長距離飛行競技は開始せられた。距離七百哩は今日から見れば左程の長距離では無いが、當時にあつては佛國首府を出て、途中雲表に聳ゆるピレニー山脈を横斷し、一翔直に西班牙の首府に達せんとする、此の大飛行は實に人目を驚したものであつた。彼のエミール、トランが出發に際して突如故障の爲めに下降するの已む無に至り、陸軍卿を仆し、內閣議長を傷けたと云ふ大椿事を惹起したのは此の飛行大會である。

イッシイ、レ、ムリノー飛行場は拂曉から觀客を以て充滿した。當日の飛行順序は、午前五時から五分間宛の間隔を置いて、總て廿人の飛行家が出發すると云ふ豫定であつた。第一番に出發したのは有名なるアンドレー、ボーモンで、第二番五時十七分を以て、群集歡呼聲裡に出發したのが實に彼れギヤローであつた。

彼は手馴れのブレリオ單葉を繰縱して、驀然に馬德里の空さして飛翔したが、不幸にして中途發動機に故障を生じ、之が修繕に手間取つた爲めに、馬德里に入つた時は彼のヴエドリーヌの爲めに一着を奪はれて了つた。而かも彼は尚ほ屈せず、渾身の勇を鼓して直ちに巴里に引返し、光榮ある第一等のパイロットを受領して忽ち第一流飛行家たるの盛名を博するに至つた。彼が雄偉果敢なる飛行家として其の偉大なる手腕を初めて中外に發揮したのは即ち此の時であつた。

## （三）　一擧直に千哩

此の大飛行があつて間もなく、千九百十一年六月十八日から、歐洲周回千七十三哩飛行と云ふ大仕掛な競技は、更に一層世界の耳目を聳動せしめたものであつた此飛行は殆んど一流の飛行家を網羅したもので、初め五十二名の競技申込者があつたが、實際の參加者は四十八人で、其の內十八人は出發に際し機體破損其他の事故で當日中止の已む無きに至り、九人は中途飛行を中止して、事實上此の大飛行を敢行したのは僅に十三名に過ぎなかつた。ギヤローは勿論其の內の勇者で、他にはヴエドリーヌ（モラーヌ單葉）ヴキダール（デユペルデユサン單葉）ジユベール（レップ單葉）ボーモン（ブレリオ單葉）ルノー（モーリス、フアルマン復葉）キムメリング（ソンメル復葉）等があつたが、彼れギヤローの勇敢なる飛行振りは、實に水も漏さぬ鮮かなる飛行振りを示して彼は宛然歡呼の焦點たるが如き有樣であつた。

當日拂曉彼は例のブレリオ單葉を飛してヴアンセンヌ飛行場から而かも易々として空中の人となり、先づランスを經、國境を横斷して白耳義に入り、リエージ、スペを直下にして、再び白耳義に引返した。此の大飛行に直下一千米突の空中から瞰下したリエージ市の同じ高空で、彼が最後の雄名を飛行史上に留めやうとは何たる奇緣と云ふ可きであらうか、斯くて彼は白耳義より白、獨、波三國々境を一氣に飛過して、ホーランドのフエンロ、ウトレヒトから三度白耳義に入り、ブラッセル、ルーベーを越えて、茲に針路一轉佛國カレーに出で、英佛海峽を横斷してドーヴアーに達し、ブライトンから直路直ちに倫敦郊外なるヘンドンを見舞ひ、再び海峽を横斷してカレー、アミアンを通過した後、見ん事五ケ國に亘る大飛行を終り、急霰の如き喝采に迎へられつゝ無事ヴアンセンヌ飛行場に歸着した。其の飛行時間六十二時間十七分十六秒、惜いかな僅少の差を以て、ボーモンの爲めに月桂冠を奪はれ、彼は即ち第二等に落ちたが、而も彼が優秀なる手腕と、殊に飽く迄學理的なる飛行振りとは、幾百億の民衆をして、事實上の月桂冠を獲たるは彼れなりと賞讃せしむるに至つた程であつた。

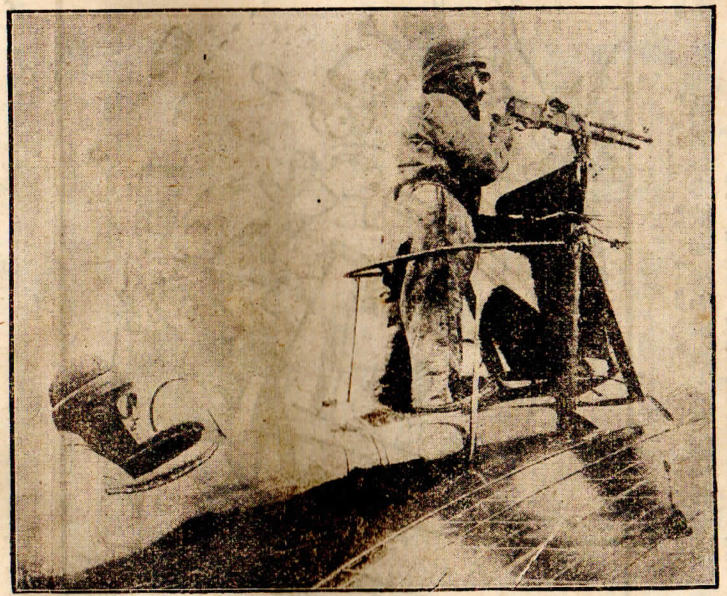


戰亂漫畫　馬鹿に强いなア

## （四）　昇騰實に一萬八千呎

斯うして彼の雄名は日と共に籍甚を極めたが、更に世人を驚嘆せしめたのは實に彼が得意の高飛行であつた。彼は千九百十一年九月ブレリオ單葉機を飛して、一搏直ちに三千九百十米突の高空に達し茲に驚く可き高度の記錄を作つたが、爾來久しい間何人も此の壘を摩し得る者は無かつた。所が翌十二年六月に至り、墺國陸軍中尉ボン、ブラスクは一名の同乘者を伴うて能く三千九百六十米突の高空に達し、首尾能く彼の世界的記錄を破つた。ギヤローなる者何條默して止む可き、直に主翼面積二百十五平方呎、重量六百十七封度の特製ブレリオ單葉を製作し、附するにノーム八十馬力發動機を以てして、別に酸素吸入器を携へ、十三ガロンの輕油を載せて、驚く可き大決心を爲し九月六日衆人環視の裡に、此の記錄破壞の高飛行を企て、見ん事一萬六千四百呎の高空に達し、小氣味宜き迄痛快に其目的を達した。當時彼は飛行場に下降し、如何にも悠々たる態度で、恁んな事を語つた

『吾輩がホールゲート海岸を出發したのは正午少し過ぎであつたが、天氣は誠に申分の無い快晴であつた。暫時螺旋形に上昇して三千三百呎迄上ると、下界は雲に鎖されて、今まで太陽が眩しい程反映して居た海面も、一切の陸地も盡く眼界を去り、身は全く雲中に封ぜられて了つた。吾輩は夫れから一層勇を鼓して上昇を續け、遂に六千呎から七千呎、一萬呎更に更に一萬三千呎に迄上つた時、漸く空氣の稀薄を感じ出したので、初めて酸素吸入器を口にしたが、此時から上昇は頗る困難を感じて來た。夫れで愈々一萬六千四百呎に達した時には、心臟の鼓動が激しくなつて來た、發動機の音さへ聊か變になつて來た。夫れで何となく機が空中で滑る樣な氣がした。多分空氣の壓力が薄らいだからであらう。而し吾輩は屈せず、如何なる困難を排しても更に二百呎は上昇せねばならぬと思つたが、ふと見ると最う酸素が無い。仍で思ひ切つて下降姿勢に移り、眼界何物もなき密雲中で、全く發動機の運轉を中止し、凡て空中滑走を以て彈丸の如く螺旋形に下降したが、一千呎ばかり下ると呼吸が非常に樂になつた。吾輩は此時初めてホツと太息したが、夫れから暫時下降して五千呎を下ると、朧氣乍ら地上の森林を見る事が出來た。吾輩は初めて凡ての危難から脱し得た事を感じた」


武裝せる佛國飛行機

と此の飛行時間は約一時間で、一分間の上昇力は實に二百七十呎を示した。然れども彼が此の渾身の努力も、當時急速なる斯界の進歩は遂に能く一週間の光榮しか與へられなかつた。即ちジョージ、ルガニヨーは新鋭のモラース、ソールニエー單葉を飛して、九月十三日午前十一時五十五分巴里郊外イツシー、レ、ムリノー飛行場の高空一萬八千七百六十六呎に達して、堂々と之を破つて了つた。

## （五）悲壯なる愛國の血汐

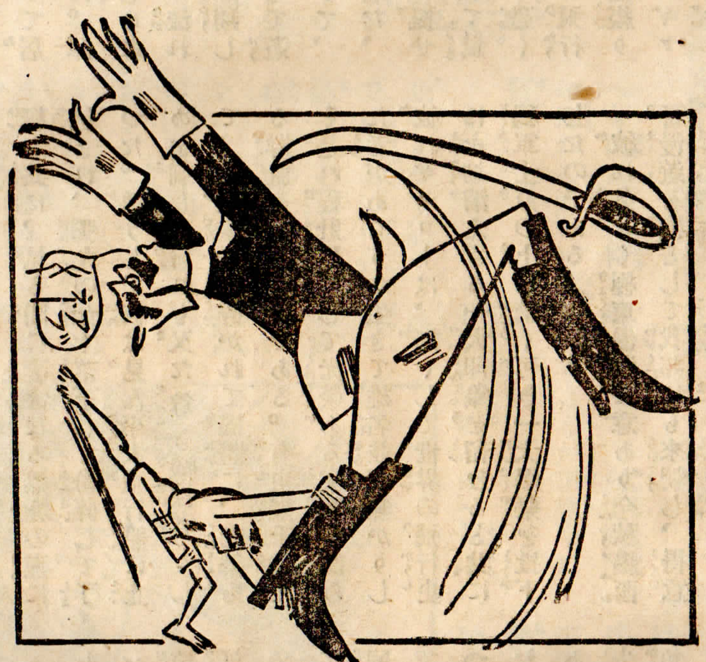
彼は此時まで始終一貫常にブレリオ單葉を操縱しつゝあつたが、次でモラーヌ、ソールニエー單葉に移り、千九百十三年





四月、モナコに於ける萬國水上飛行大會では、同式水上飛行機を飛して第二等に入り、更に最近に於て彼は地中海横斷飛行を思ひ立つて、サンラファエルからチメズまで眞一文字に乘切つて、海上横斷第一人の光榮を博した。此の記錄は今に於ても何人も未だ企及し得る者がない位である。如斯彼は飛行家として常に第一流の名家たる光榮を傷けなかつたが、更に彼の一層重んぜられた所以のものは、實に彼が寸時も研究を怠らず、其の深遠なる學識と、豐富なる經驗から得た飛行機の學術的素養であつた。多くの飛行家は天才的技能を有する者であるが、彼に至りては實に此の天賦の奇才に加ふるに、敢て倦まざる學究的態度があつた。此點に於て佛國飛行界は彼を唯一の誇りとした程であつた。

彼は軍人では無いが、今回の如き祖國千載一遇の國難を坐視するに忍びず、身を挺して陸軍飛行隊に投じた者であらう當時の状況は未だ詳電が達せぬので、委しく之を知るに由ないが、吾々をして想像せしむるならば、當時屢々國境附近に現れたる獨軍ツェッペリン飛行船は、其の驚く可き威力を以て、頻りに佛白軍を脅しつゝあつたに相違ない。茲に於てか彼は眥を決して起た。萬已む無んば即ち……彼は胸中動かすべからざる大決心を抱いて奮然として起つた。斯くて快速なるモラーヌ、ソールニエー單葉は矢の如く飛翔して、飽く迄悠々と、落着き拂つて居た飛行船に向つて悍然戰を挑んだ。悠々たる飛行船は得意の機關銃を以て、隼の如き單葉機を射擊した。而も勇敢なる彼は寸毫も屈せず、屢々飛行船の頭上から、得意の爆彈投下を試みたが、不幸にして命中しない。爆藥は全く盡きてしまつた。茲に於てか彼は最後の戰慄すべき大突擊を爲して、一擊の下に之を仆し、以て獨軍の度


戰亂漫畫　とんだ番狂はせ

膽を奪ひ、祖國の難を救はざる可からずと決心した。彼は幾度か機上より祖國の山河を顧みて默禱したであらう。大奈翁が子等の一人なる彼の脈絡には、夢寐の間にも忘れ得ざる報復の血汐が躍つて居た。彼は猛然として舵機を一轉した。渾身の力を双腕にこめて、堅く握りしめた操縦機には、憂國の血涙が潮の如く流れたであらう。恁うして彼は驀如に翻翔した。際涯なき空界に唯一つ傲然として遊弋しつゝ、今將に佛軍の陣地に向つて、恐る可き爆彈攻擊を加へんとして居た、尨大なる飛行船は、匕首直に咽喉に擬せられんとする物凄き光景に愕然として驚いたが今は如何ともする術がない。恐く乘員の凡ては其刹那まで、彼渺たる飛行機能く何程の事か成し得べきと、見縊り切つて居た事であらうが、而も彼れギャローの勇敢なる一大決心は、實に理性にのみ支配せられつゝ人々の夢想だにも爲し得ざるものがあつた。驚破やと云ふ間もあらせず、彼は驚く可き快速力を以て、幾千呎の高空から、眞一文字に下降し來り、發矢と計り壯烈極まる肉彈突擊の快擧に出た。尨大なる飛行船は轟然たる響と共に、見る間に凄惨なる黑煙の裡に包まれ、彈丸の如く落下して粉碎して了つた。恁うして彼は見ん事大飛行船に止めを刺し、自れも又た尊き犧牲者として、粉微塵に打碎かれて機體に、光榮ある鮮血を留めたのである。有史幾千載凡そ是れ程壯烈にして光榮ある突擊を試みた者があらうか生きて雄名並び無かりし彼れギャローは、斯くして世界の飛行史に永劫消えざる一大印象を留むると共に獨軍士氣の上に驚く可き一大爆藥を投下したのである。

彼れ久しく極東漫遊に意あり今秋墨西哥漫遊を機として我邦にも來朝し、得意の快飛行振りを國民の前に示す筈であつたが今や空頼みとなつて了つた。遺憾千萬な事である。（ゑはり）

## ▲戰死せる獨逸司令官

### 乃木將軍を崇拜す

白耳義のリエーヂ要塞攻擊の際、戰死したと傳へられた獨逸包圍軍司令官フォン、エンミッヒ大將は、戰爭前ハノーヴア第十軍團長であつた。有名な將軍で、丈の低い巖疊な體格の非常に元氣のある人物であつた。平生乃木將軍の人格を崇拜して居て、殉死の報を耳にした時は多大の同情を拂つたと聞いて居る。斯樣な性格であつたから攻擊が思ふやうに行かなかつた爲め、憤慨して彈雨の間を飛廻はつた結果、終に壯烈の戰死を遂げたのではあるまいか。一說によると將軍は總攻擊失敗の責を負ふて自殺したといふが兎に角勝ち氣で肝癪持ちのカイゼルの御機嫌を損して苦しい立場にあつたのは事實で戰死か自殺か何れにしても同情に値する。（某將軍談）

# 歐洲戰爭より受けたる讀書界の損失

丸善支配人　荒川實

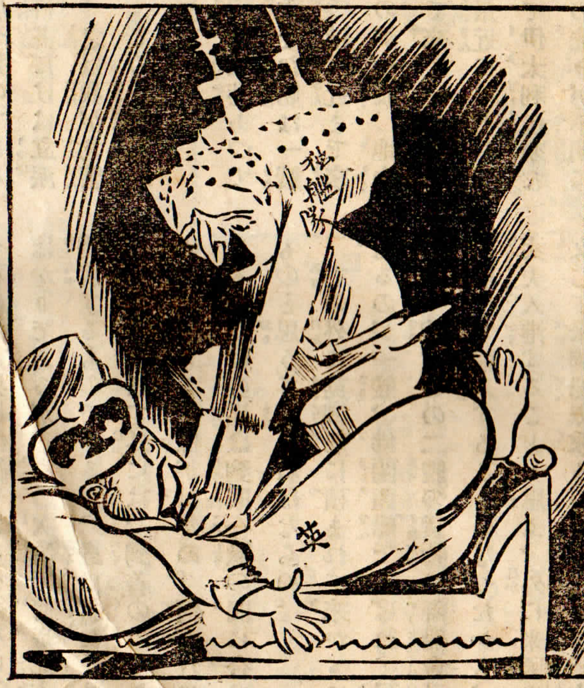
## 注文品輸入杜絕の事情

西洋から東洋に送つて來る貨物が平時ならば千圓の品に對し十圓の海上保險金を取られて居つたものが歐洲戰爭の結果忽ち五十圓に上つた、印度以東の航海が安全であつた間は五十圓で濟んで居つたのが、獨逸の東洋艦隊が跋扈し出した爲めに、五十圓の保險料が忽ち百圓に上り更らに今日では二百圓にまで上つて居る貨物に對し二百圓の保險料を取らるゝといふ事は、世界何づれにも未だ曾て例のない高率である。

然らば高い保險料を仕拂ひさへすれば貨物は來るかといふに、現在の狀態では幾ら高い保險料を拂つても一切中止である。交戰國の船は勿論、中立國の船でさへも向ふて貨物を積んだまゝ、海上危險の恐れの爲めに船を出すことが出來ずに居る。

それのみでなく爲替の取組みが一切中止になつて居る、此方で注文品の代金を拂ひ込まうとしても正金銀行で受取つて呉れないといふのは一つは正貨の流出を防ぐ爲めもあらうが又一つはロンドンの銀行が已に支拂停止をして居るから、此方で拂込ましても向ふで受取れない。斯ういふ次第で金融も全く杜絕して居る有樣であるから、是等の色々の事情から總べての貿易が全く中止の姿である。

それで我々の立場からいへば、第一には、一日も早く日本の態度を決定して貰はなければならぬ。日本の態度が定まつて獨逸の東洋艦隊の跋扈を抑へ付けて仕舞つて、印度以東の航海は安全であるといふ事を世界一般に知らせて歐洲人に安



戰亂漫畫　夢か現か

心させて貰はなければならぬ。更らに英佛の艦隊で地中海を抑へることが出來るやうになれば、茲に再び航路が開ける。縱令交戰國の船は來る事が出來ないにしても、伊太利、和蘭、瑞典那威等の中立國の船が交戰國に立寄つて、注文の品を受取つて此方に輸入することが出來るやうになる。本より平時程に多くの船は這入らないにしても、先づ之に依つて通商の道を開くことが出來る。

## 獨逸書全部行先き不明

九月十月十一月は讀書季であつて、各種の書籍の注文の殺到し來る時期である殊に九月は各學校の學期の開始期で、敎科書の注文が一時に來るのである。故にこの準備として歐米各國に殘らず手配をしてそれ〴〵注文を出して置いたのであるが、突然の今回の戰爭の爲めにすつかり手配が狂つて仕舞つた。幸に八月の二日に一艘入港した。九月に必要の敎科書は全部この船に積まれて居つたのであるから、各學校に必要な敎科書だけは立派に間に合ふことが出來る。之は我が丸善に取つてのみならず、總べての學生に取つて非常な仕合せであつた。けれども、八月二日に一艘の入港あつて以來、我丸善の注文品を乘せた船は一艘も這入らない。獨逸船で香港附近まで來て、行先き不明になつたのが一艘、地中海を通過して印度附近まで來て、行先き不明になつたのが一艘、最近には七月二十三日にハンブルグを出て伊太利迄來たことは分つて居るが、その先きが不明になつたのが一艘。この三艘は皆獨逸船で中途で敵艦に擊沈されたものであるか、拿捕されたものであるか、或は何づれかの港に貨物だけを荷揚げして、船はそのまゝ引返へしたものであるか、風說のみ色々で實際の消息は少しも分らぬ。右の三艘に積み込まれて居つた丸善の注文品だけが、總計六十餘箱、この貨物は悉く今秋の讀書界に供給せざるを得ない書籍ばかりであるが、右の次第で何時此方に到着するものであるか、或は新たに特別に注文し直ほす外には、到着の道なきものか、何とも想像が付かぬ。何づれにするも之だけの品は到底今秋の間に合はぬものと思うて貰はねばならぬ。

右の外に英國船に積まれて來かゝつて居るのが一艘、佛蘭西船で運ばれて居るのが一艘。この二艘の貨物は郵船會社で引取つて輸入することになつたから、大丈夫入港することゝ思ふ、外に米國に注文して米國船で來るのが一艘ある。右三艘に積んで居る書籍は今秋の讀書季の間に合ふことは大丈夫と思ふ。

前述の如く日本の態度が定まつて、印度以東の航路が安全になり、又地中海の航路が開くれば、中立國の船に賴んで獨逸書を取り寄せることも出來るのであるから、一日も早くさういふ定まりが付かねば、今秋の日本の讀書界は非常な損失を招くものと思はねばならぬ。

## 新聞雜誌不入の損失

更らに在來の通信交通運輸の機關の杜絕せし爲めに歐洲の新聞雜誌を見ることの出來なくなつたことは讀書界に取つて一層の損失といはねばならぬ。西洋と東洋間の在來の通信機關としては三通りある。第一は西比利亞線に依るもので、之に依れば十六日乃至十八日間で、日本より獨逸、佛蘭西、英國等に達したのであるが、此便が全く杜絕した。現に今月の二日に西比利亞便で出した郵便が九日に返へされて來た、それで止むなく更らに十二日に第三線の亞米利加便に托したといふは、第二線に加奈陀便がある之は日本よりバンクーバーを經て英國へ直航する便で、英國の義勇艦隊の手に依つて經營されて居つたのである。此加奈陀便に依れば二十五日間乃至三十日間で日本より歐洲に達することが出來たのであるけれども、此加奈陀便も今日では中止になつて居る。そこで唯一の第三線に依る外はないので、之は米國廻はりと稱し、桑港、タコマ、シャートルを經て歐洲に行く航路で、三十五日乃至四十日を費やさねばならぬ。



戰亂漫畫　空中の鯨と鯱

東京でロンドン、タイムスの讀者だけが千人以上で、之は大部分丸善で取次いで居る。此ロンドン、タイムスを手にするには今迄は僅かに十五六日も待つて居れば善かつたのが、今日は殆んど四十日も經たねば、ロンドンタイムスを讀むことが出來ない。乃ち一ケ月後でなければ歐洲の詳細なる實情は分らぬ、といふ不便な狀態に陷つて居るのである。歐洲の新聞雜誌を讀む總べての者が、皆此不便に陷つて居るのであるが、此損失が實に莫大なものといはねばならぬ。

之のみならず、小包便が全部杜絕して居る。從來は小包便としては西比利亞便、加奈陀便、伊太利便、佛蘭西便、獨逸便といふのがあつたが、是等の諸便は皆停止になつたから、昨今米國經由歐洲行の小包便を交涉中といふ有樣である。

# 佛人の見た獨逸軍隊の現狀

## (1) 獨逸陸軍幼年學校生徒の現狀

才幹と規律的精神と武勇と權威と封建時代の氣質とを打つて一丸としてゐる點は實に感服の外はないけれども、こんな例は佛蘭西の歷史にも澤山ある。

陸軍幼年學校の生徒は軍人社會では寵兒のやうに思はれてゐるけれども、其一般の教育が不充分である。彼等は十歲にして學校に入り、殆ど中學程度位の學科を修めてゐるが、軍事史に就ては特別の知識を與へられてゐるから、軍事上の事は大抵何んでも知つてゐる、然し全般の教育が足りない。

## (2) 獨逸將校團の戰爭に對する觀念

或る人が戰爭に對する獨逸將校の精神狀態を訊いたところが、有名なる陸軍參謀將校中の一人の曰ふには、

『我國の軍隊は好戰的態度を執つて、アルザス、ローレーヌ附近の國境に出たがつてゐると思つてはいけませんよ……勿論我が軍隊中にも攻擊されることを考へずに、攻擊する事ばかり考へてゐる者もありますが、一般將校團の精神狀態は平和を希望してゐます。近い内に戰爭があるだらうと思つてゐますけれども、誰もそれを望んではゐません。砲兵士官共は日露戰爭のとき、僅か二三兵士の爲に一中隊の砲兵士官が殘らず殺されたのを見てから以來、主戰黨なるものがなくなつて了ひましたそれでも平和はいつ何時破れるか知れません。或は明日かも分りません、愈さうなればまた吾等の熱誠、吾等の決心は別なものです、何せなれば吾等は貴下方より確に優つてゐると云ふことを自信してゐます、處で此の自信が即ち勝利の半分以上を占めるのですからネー……私は不斷自分の生徒に向つて「勝ちたい」と云ふ志望は戰爭に於ても、社會的競爭に於ても勝を制する必須條件であることを説いて居ります。

獨逸に於て一番廣く傳つてゐる思想は佛蘭西人は戰爭をする機會ばかり狙つてゐると云ふことです。これは軍人社會ばかりではない、社會凡ゆる階級間に傳つて居ります。政府の機關新聞などは之を以て新たに軍備擴張を主張する理由に供しやうとしてゐます。然し考へて御覽なさい、一體吾等は何の爲に戰爭しませうか？　戰爭は何の爲になるでせう？　野蠻對文明の戰爭ならば能く分つてゐます、文明對野蠻の戰爭も能く分ります、けれども文明國と文明國とが相互に滅ぼし合ふとは譯の分らん話ではありませんか？　何ぜ貴下方はアルザス、ローレーヌの方にばかり目を注いでゐるのでせう他に吾等と協議すべき案件が澤山あるのに。

ルイ十四世がウェストファリーの條約を楯に、アルザスを占領したのは、大なる誤りでした。ビスマルクがローレーヌを要求したのも、了簡違でした。モルトケ將軍が此州の併合を將來の平和の爲に必要であると言つたのも思違です、ビスマルクは程なく自分の間違を覺つて、佛蘭西に對して莫大な賠償を夢想したのです。』

## (3) 露國某次官及び獨逸軍人の露佛同盟觀

へ將軍は露佛同盟に就ていろ〳〵語りたがつてゐたので、余にこんなことを云つた。

『露西亞は佛蘭西の爲には何の役にも立ちますまい、私は數年前露都聖彼得堡よりの歸途露西亞の某次官と汽車中で一緒になりましたが、其時次官は私に申しますには、「佛蘭西と同盟するなどとは、私共は唾棄してゐます、これはホンの歐洲に於ける現狀維持の條件の爲に結ばれたのですから、獨逸と締結すると毫しも違ひありますまい、何せなれば獨逸だつて現狀維持を希望して居りますもの……實は吾々は我國の軍備の爲め、シベリア鐵道などの爲に佛蘭西の金が入用ですからネ。」貴下方は一體何の爲に金を殘らず露西亞に注ぎ込みますかドマはいつでも露帝の借金を承認するだらうと貴下方は思つてゐますか？　吾等も露西亞には三十億を貸しましたが吾等はバルチック地方を擔保に取りましたよ、貴下方は何の擔保がありますか？

又英國などは貴下方に何の爲になりますか？　何にもなりますまい、貴下方こそ馬鹿を見るでせう。



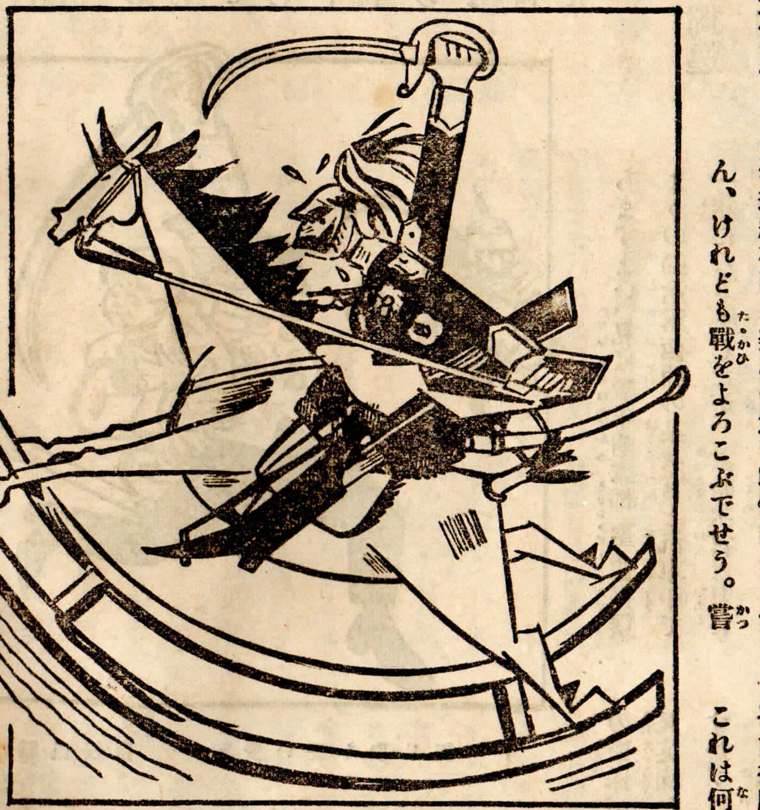
戰亂漫畫　可愛い見を取り返へす

貴下方だつて同盟國には左程多大の信用を置いてゐないでせう。

### (4) 獨逸休職士官の獨逸將校觀

今では休職になつてゐるが、獨逸軍人社會には交際が甚だ廣く、特に陸軍部內の事情に精通し、今でも尙獨逸國中に散在してゐる前同僚と絕えず文通してゐる某士官の話に曰く、

『獨逸將校團の現狀を調べて見るに、イザ戰爭となれば、凡ての準備がチヤンと出來てゐます。良し戰爭に負けるとしても・力を落すやうなことのないのは、疑なき所です。概して獨逸の將校團は悧巧で、勇敢で、自發心に富んで、そして理想の戰爭を希望してゐます。



戰亂漫畫　カイゼルの出陣

獨逸將校團は樂みの爲に戰爭はしません、けれども戰をよろこぶでせう。嘗てモロッコ事件が紛糾したとき、獨逸の將校社會に出入した者は、獨逸の將校等は如何に政府の緩慢なるを見て切齒扼腕したかを知つてゐるでせう。これは何にも敵國の兵力を輕蔑した譯ではありませんが、獨逸の軍隊は今正さに全盛時代に在ると確信したからであります。』

### (5) 獨逸の名將

余は獨逸で一番名高い將軍は誰であるかを知りたかつた、聞く所によればフオン・デール・ゴルツ將軍、フオン・ビエーロー將軍、フオン・ビッシング將軍等であるさうな。然しその中一番人望のあるのはフオン・デール・ゴルツ將軍とのことである、將軍は軀幹大にして、銀鏡をかけてゐる、學者で、文學的素養もある。（以上佛人ジユール、ユーレー氏著『近世獨逸』より）

# 思出の巴里籠城

貴族院議員　渡正元

## 一

兵學研究と云ふ目的で、丁度佛京に滯在中であつた私は——幸か、不幸か、かの普佛戰爭に際會した。愈々佛蘭西が獨逸に壓迫を加へられ、巴里に籠城する決心を致した時に、大抵の外國人は避難する事になり、佛國駐在の外國公使でさへも、唯だ米國公使ボスボルン氏を殘して、外交團の代表者たらしめ、（或は領事、書記生位のものを留守居役として、書記官なども、殆んど總て引揚げた。それ位であつたから、私も避難すべきであつたかも知れぬ、が、何分私の目的から申せば、眞個に千載一遇とも云ふべき好機會であつたので、遂に私は前田正名君と太田德三郎（陸軍中將まで進んだ人である）と三人して、俱に巴里人と籠城の辛酸を嘗める事にしたのである。

勿論、巴里籠城に就いて、その詳細を私が知つてをるとは云へぬ。併し日々の出來事、戰場の實際などは、餘程の注意をしてをつた次第であるから、窃かに自信を以つて語ることが出來るかも知れぬ、が、何を申しても、既に四十有餘年前の事ではあり、且つ此處に再び獨佛の間に戰爭があらうなどゝは考へなかつたので、眞に往時は夢の如く、感慨に堪へぬ……誰も知つてをるやうに、普佛戰爭の開始されたのは一千七百三十年——我が明治三年八月十三日で、その前一日即ち八月十二日に佛國の代表者が伯林政府に、最後の回答を二十四時間內に求めたにも拘らず、遂に不滿足に終つたので、開戰となり、獨逸も、佛蘭西も、俱に與に國境に兵を進めて、こゝに雌雄を決することになつた。

然るに佛蘭西は脆くも敗北に敗北を重ね、不名譽の退却となり、防戰の効なく、同じ年の九月十八日には巴里も亦籠城せねばならぬ勢ひになつた。こゝに於いて三十萬頭の牛、五十萬頭の羊と共に、籠城に必要なる糧食は運搬され、退居すべきものは退居せしめて、堅く城門を閉塞し、嚴かに出入を監視し、專心一意、獨逸の侵入軍を阻止することになつた。當時の巴里人は二百萬と傳へられてをるが、その以上もゐたかも知れぬ。御承知のやうに巴里の周圍には城壁を廻らし、その中に市街がある。詳しく申せば、巴里城の周圍が三十五里あつて、之を守るにフオル即ち要塞が十七個ある。ソシテその外に城內には守備隊として三四十萬の兵があつたので、如何に勇敢なる軍隊を以つてするも、猶ほ五十萬はなければ、

完全に巴里を包圍すると云ふ事は、到底困難であるとせられてをつた。處が勝に乘じた獨逸軍は、五十五萬と云ふ大兵を擧げて、殆んど晝夜の差別なく、攻擊に亟ぐに攻擊を以つてしたのである。

かう云ふやうに、獨逸の軍隊が勇敢に攻擊すれば、これに應じて、佛蘭西の將卒も善く防戰した。ソシテその爲に血の河を流し、屍の山を築けば、双方休戰して、その收容をしては、再び戰ふと云ふやうに、實に立派なもので、何れを賞し、何れを貶すわけにも行かなかつた。殊に係る籠城の際には、之が支那とか、朝鮮のやうな處であれば、戰爭のどさくさ紛れに强盜、追剝、强姦と云ふやうな、恐るべき罪惡が行はれ勝ちである、が、流石に禮儀を重ずる西洋人——殊に巴里人のことであるから、さう云ふやうな出來事は、唯一度も見聞したことがない。勿論、佛國は獨逸の爲に破られて、遂に巴里も城下の盟ひを餘儀なくさせられたもの丶、軍規の整然として紊れざる、又非常の際にも、決して國民が禮儀を忘れるやうな事のなかつたなど、これは私共の最も感心した處で、巴里籠城中に厭ふべき蠻行があつたなど云ふ風説は、遂に一顧の價値だにないものである。



戰亂漫畫　桑原々々

## 二

最初に獨逸は巴里を包圍してその何れかの一方を攻略しやうと云ふ考へで、盛んに四方から攻擊したものである。併し何分にも南方には三個の堅固な大要塞があつて、如何に獨逸軍が猛烈に攻擊しても、何等の反響がなく、唯だ損傷を蒙る丈けであつた。これは獨逸軍の堪へざる處であり、且又攻圍軍の戰略としても、甚だ拙劣なるものである。こゝに於いて獨逸軍は——巴里の白耳義國境に面した方面に四個のフォルがあつて、其フォルが餘り强固のものでないと云ふ事を發見すると同時に、此方面に全力を傾注して、巴里城の一角を擊破しやうと努めた。獨逸軍の發射する海岸砲三十三珊の巨大なる砲彈の落つる處は、木石、人畜の區別なく粉碎せらるるので、非常に籠城者の心肝を寒からしめた。その頃の事である、三十三珊の巨彈が通行人の腰に命中して不發の儘に其の人を胴から眞二つにしたなど云ふのは……

かう云ふやうに、獨逸軍の壓迫は日一日と猛烈を加へ、精鋭の將卒を增して、愈ゝ攻擊が嚴しくなるに比較して、防禦する佛蘭西の軍隊は、或は倒れ、或は傷き、その戰鬪力を弱められてをる。加之、最初に籠城の決心をした時に、先づ充分の糧食の用意をして、半ケ年位の籠城には、何等の支障ないと云ふ事であつた。併し計算したやうに好都合ではなく、兵力の減退と共に、糧食の缺乏と云ふことも、漸く籠城者の知る處となつた。そこで少し黃白を有つてをるものは、全く糧食の缺乏しない中に、豫め購つて貯蓄して置くことにしやうとするものも少くなかつたのである、が、これに對しても、巴里城内の爲政者は遺憾なき取締をして金錢の有無に依つて、糧食の多寡を分ち、貧富に依つて、生活の困難を感ぜしむるやうな事は決してしなかつたのである。

これを詳しく話せば——巴里城内の政府當局者は、籠城中に個人として糧食を蓄へる自由を與へず、その當時に必要なるものを一人に付き何程と云ふやうに、嚴かに制限して賣らしめる事にした。勿論、それを販賣する場所に於いても、吾勝ちに買ふやうな亂雜はなく、丁度劇場などで切符を賣るやうに、長く列をなし、順序に從つて買ふと云ふ有樣で、これを巡査とジャンダム即ち憲兵で取締つてをつて、つゆ程も騷擾するやうな事はなかつたのである。併し何と云ふても、二百餘萬と云ふ多數の市民が籠城してをる事であり、且つ外部との交通は杜絶して、必要品の補給を受けるわけに行かぬので日一日と糧食の缺乏を感じ、生活に困難を來し、長い籠城中には、婦女子は恐怖して、城外の生活を欲するものも少くないやうになつたので、巴里政府では、實際に戰鬪に參加せぬ婦女子を安全な場所に避しむべく、獨逸に對して、非戰鬪員の退居を交渉した。併し獨逸は、斷乎として此の要求を拒否し、唯一人と云へども、巴里市民の退居を許さなかつたのである。

この要求を獨逸が拒否したのは、如何にも國際法規を無視し、人道に叛く行爲のやうに考へられるが……國際法規も、人道も、非常の際には何等の權威がない、唯だ巴里を開城せしむるのが大目的で、その目的を達する爲には、何等の手段も選む處でない。殊に手足纏ひの婦女子を退城せしめないと云ふのは、一面には恩愛の情に訴へ、他面よりは糧食の缺乏を速かならしめやうとするのである。かく開城の目的を達する爲に、人道も、國際法規をも無視した獨逸は、更に巴里人に

向つて、最後の強壓を加へた。と云ふのは外の事でなく、セーヌ河畔に建つ巴里の中心とも云ふべき王城の附近に、傷病者の野戰病院が設けられ、そこには大きな赤十字の旗が樹てられてあつた。その赤十字旗に向つて、盛んに敵軍から三十三珊の海岸砲を浴せるので、米國公使ボスボルン氏を以つて、その非人道的行爲を難詰するに至つた、が、例のビスマークは冷然として、『理解力ある軍隊であれば、云ふ迄もなく、軍規に依つて嚴重に取締ることも出來る。併し何等の理解力のない砲彈に向つて、何とも命令するわけには參らぬ』と回答した。その白々しい回答に滿足はせぬ。ケレドそのビスマークの云ふやうに、何とも致方がない。而して巴里市内の二十大區中、僅かに中央の二大區を除く十八大區には、晝夜の別なく、大小の砲彈が落下して、愈々巴里人を恐怖せしめたのである。

## 三

かう云ふやうに、不斷に獨逸の攻圍軍は、猛烈なる攻擊を加へるので、巴里城内の婦女子達が恐怖を感じた許りでなく堂々たる男子と云ふと雖も、猶ほ慄然たるものがなかつたではない。併し帝都を敵手に委ぬるが如きは、佛國民の堪へ得る處でない。それ丈けの恥辱を受けて、生きてゐやうなどゝは、決して巴里人の夢想だにする處でなく、死守！　唯だ頑強に死守して、援軍の來るを待つのみであつた。

然るに不幸にして、獨逸の馬蹄に汚された佛國は……到る處の戰ひに不利を招き、露西亞のコサック騎兵と共に、その驍勇を以つて稱せられてをつた佛領アルゼリヤより送られたズワーブでさへも、餘りの酷暑に堪へ難いと云ふので、獨逸と國境に對峙しながら、大膽か、愚昧か、悠々と水泳をしてをる處を、不意に襲擊されて、慓悍無比と唱へられたにも拘らず、殆んど再起する事の出來ない程の傷害を蒙つたなど、何處からの報告も、遂に戰勝を齎すなく、常に敗報を語るのみで、ナポレオン三世も亦セダンに籠城をせられた、が、その防戰に利なく、脆くも獨逸の軍門に白旗を樹てゝ、城門を開くと云ふ迄に不名譽を重ねたのである。

この凶報の巴里城内に達した時、勿論、多大の失望はあつた、少からぬ悲しみもあつたのである。併し奮起せる巴里人は、直ちに巴里城内に假政府を開き、當時の下院議員にして、手腕あり信用のあつたチエールは、衆望の歸する處、選まれて佛國大統領となり、ジュルファーブルは外務大臣の任に就き、有名なるガンベッターは内務大臣を以つて陸軍及び海軍大臣を兼任し、ゼネラルトルッシュは衞戍總督として、巴里籠城軍の總司令官になつた。が、何を申しても、獨逸が精銳を盡して攻擊を續行し、新手を以つて壓迫を加へるに、巴里城内では、第一糧食の缺乏を訴へ、將卒の病傷、戰死するものゝ多いにも拘らず、之が補充を受くべき方法がない。殊に獨逸の戰略としては、包圍戰である、が、唯だ漫然として包圍する丈けでなく、何處か——最も守備の不完全、充分でない處があるならば、そこから侵擊しやうと云ふのである。

これを知る巴里城内では、その防備に忙殺され、將卒の補充に焦慮し、最初には丁年以上の男子を以つて兵役に服せしめてゐたのが、遂に丁年以上の男子のみでは不足を感じ、窮餘の結果として、十七歲以上は男子でさへあれば、一切徵集すると云ふ迄になつた。

かう云ふやうに、男子と云ふ男子の總てが國難に赴き、光榮ある巴里城を死守すると云ふ事になれば、今は決して佛國——巴里の婦人達も、徒に恐怖を感じ、慄然たるものではない。流石に其の頃から女權の尊重されてゐた佛國のことであるから、遂に婦人は昂奮し、その結果は糧食の不足を訴へるやうな事は絕えてなく、蹶起して長劍を帶し、商館の番頭とか、料理屋の給仕、洋服屋の丁稚と云ふやうなものを驅り集めて、之が司令官となり、婦人達は寒暑を厭ふの風もなく、不足勝ちの將校に代つて、練兵、調練をしてをつた。私共が戰場の光景を視察する爲に、市街を右往左往する時、到る處に、婦人が國民軍の指揮、命令を司つてをるのを目擊した。勿論、婦人達の指揮する軍隊は、用ふるには足らなんだものゝ、その意氣は愛すべきものがあつた。彼等の胸裡には、假令飢渴に倒れ、彈丸に生命を奪はるゝも、猶ほ獨逸人をして、足一步も巴里城内に踏込ましめまいと決心してをつたのである。眞に此の時の巴里人の意氣は沖天の勢ひで、如何に獨逸の精銳を以てするも、猶ほ容易に拔くことの出來なかつたのも、決して無理ならぬ次第であつて、眞個に巴里人は——男子も、婦人も、否な、子供達に至る迄も、猶ほ祖國の名譽と光榮との爲に、



戰亂漫畫　怪しいぞ

善く巴里城を頑強に死守して、佛國々民の眞骨髓を内外に示したのである。

## 四

かく巴里人は、その眞氣意を示して遺憾なきものがあつた。併し此の年位に時候の不順であつたことはなく、夏は未曾有の酷暑で、阿弗利加からやつて來たズワーブでさへ、その暑さに堪へず、水泳中に不意に襲撃を受けて、脆くも敗北したと云ふ位であつた、が、冬になれば、何十年來比較すべきものゝないと云ふ位に、寒氣が烈しく、巴里籠城中の工兵隊が胸壁を築く爲に土を掘れば、一米半迄は石のやうに凍つてをると云ふ有様で、その防備に非常の困難を感じ、陸續として凍傷者を出し、困難は層一層の困難を加へたのである。

困難と云へば、巴里籠城中の困難の最大なるものは、外部との通信で、今日のやうに飛行機があるではなく、無線電信があるのではなかつたから、籠城と共に、殆んど全く外部との通信は杜絶した。ここに於いて何とか通信の方法を考へねばならぬと云ふので、かの輕氣球を飛ばす事になり、その籠の中に數羽宛の傳書鳩を携へて、或はナンシーに、或はボルドーに、その鳩を置いて、通信機關にあて、巴里城中の——東京市で云へば、かの愛宕山のやうな——モントルロー丘上のカルビンと云ふ場所を鳩の飼養場にしてあつたので、カルビンの鳩の中に、足に紙片を結び附けられてをるものがあれば、その文書に依つて、僅かに外部の事情を知ると云ふ有様であつた。

併し何分にも輕氣球は操縱する事の出來るものでなく、風力に任せて飛ぶものであるから、思ふやうに行かず、或は敵軍に射撃されて墜落し、或は英國海峽に沈むと云ふやうなこともあつた、が、遂に内務大臣を以つて陸海軍大臣を兼任してゐたガンベッター（この人は片眼ではあつたが容貌魁偉、軀幹長大の立派な人物であつた）は、深く決心する處あつて、自ら輕氣球に投乘し、一は巴里城内の狀況を内外に知らしむべく、他は以つて援軍を求め、背面より敵軍を撃ち、内外相應じ、こゝに血路を開いて巴里城内に入るべく、ボルドーに達した。ソシラスの最初の目的のやうに援軍を得て、巴里攻圍中の獨逸軍を攻撃した、が、不幸にして撃退せられ、目的を達することが出來ず、巴里開城の日まで、遂にガンベッターは入城する事を得なかつたのである。

かう云ふやうに、苦心に苦心を重ねて眞に頑固に巴里籠城軍は巴里を死守した。併し糧食の缺乏、援軍の絶望となり、夜毎に燈火すべき石油（その頃は瓦斯、電燈がなかつたので……）も盡きやうとする。不斷には不夜城と誇つてゐた街路の燈火は、五本であつたランプが三本になり、二本になり、一本になつて、漸く黑白を辨ずる位のものであつた。この暗澹たる光景は——流石に巴里人にも、末路の遠からぬを暗示されるものゝやうに感じ、一千八百七十一年一月二十八日には開城することになつた！　勝利に誇る獨逸の軍隊は、堂々隊伍を整へて入城しやうと云ふ、併しチェールは單身敵陣中にビスマーク公と會商して、獨逸の要求を拒絶したのである。

何故なれば、巴里人が力盡き、刀折れて開城をしたものゝ、愈愈獨逸の軍隊が陸續入城する事になるならば、どうして傍觀してゐやう。獨逸人の血を吸ひ、肉を喰はんとするは巴里の婦人子供に至る迄も、猶ほ有つてをる敵愾心がある。獨逸の希望を實行すれば、再び巴里は紛亂の巷と化し、焦土に歸するはチェール、ジュルフリーブルなどには分り切つた處であつた。この道理ある申出でに對しては、勿論、ビスマークも耳を傾けて、僅かに三個大隊の獨逸軍を送ることにし、その通行する街路は巴里市民の通行を嚴禁して、見せしめず、人影なき公園内で、殆んど内密の間に入城式を行ひ、單に三時間しか、獨逸軍の三大隊は巴里城内に滯留しなかつた位である。



戰亂漫畫　どうする氣か

その最後の一月廿八日には——何人も入城する獨逸人を見ようと焦慮して、殆んど狂氣のやうに右往左往し、巡査やジャンダムの制止も耳に達せぬやうに、通行禁止の街路を突破しやうと男子、婦人、子供の混雑は一通でなかつた。

その様子は、今日も猶ほ昨のやうに眼前に髣髴するやうに思ふ。……私は籠城中に、何時とはなく攻圍軍の中に、日本の武官が七八名も加はつてをると云ふやうな噂を耳にしてをつた、が、愈々開城となり、巴里市民に給與すべき糧食などを積んだ汽車と共に入城した大山彌助（今の元帥公爵巖氏）、品川彌二郎及び池田彌一などに逢つて、この人達が觀戰の爲に當時の政府から派遣せられたものであると云ふことを初めて知つたのである。（八月十五日、談話）

# 朔風吟

朔風子

◎歐洲の大動亂（突發的戰爭）
一抹の雲一陣の風すはやはたゝ神
◎動亂の近因（墺國皇儲の遭難）
金魚とりし猫にくむより隣同志
◎墺塞二國（先づ衝突す）
田草投げて日頃の仇と犇めきぬ
◎獨、墺を助く（塞の背後に露國あり）
子の喧嘩親が出て來る暑さかな
◎英佛續いて起つ（共に塞國を助く）
聲かけて鳥追ひに出るや瓜の主
◎スラヴとゼルマン（人種の鬪爭）
贅六とヘゲタレと取る相撲かな
◎白耳義怒る（中立地帶を侵され）
路次拔けて叱られけりなとんぼ釣
◎白獨の陸戰（リエージュ塞要落ちず）
神かけて堰くこの堤秋出水
◎カイゼルの孤立（奮擊突戰す）
楚歌聞いて劍を按ずれば稻妻す
◎空中戰（獨佛兩國の第一犧牲）
音なきは開かで落ちし花火かな
◎米國仲裁說（ウイルソン氏の失敗）
折合はせ話仕出して秋暑し
◎伊國中立（三國同盟の無視）
今朝秋の世並習はず籠り居る
◎帝國の態度（日英同盟の實現か）
隣り田の鳴子が我れにし鳴るよ
◎闇討深夜に及ぶ（元老參加）
小田原といはれて秋の灯かな
◎佛軍アルサスに入る（多年の本懷）
此の州の雲さへうれし陣の秋
◎獨皇太子負傷說（第二軍司令官）
鹿笛や怪させ給ふ御曹子
◎白耳義休戰を諾す（獨逸の請求）
ヤイ烏鳴子もしばし休まうぞ
◎獨軍苦戰（死傷算なし）
瞬く間蚊遣りよく利く蚊の死骸
◎新聞記事制限（帝國漸く活動）
敵持ち身の啞まなびけり今朝の秋
◎墺露會戰（露軍大捷すと）
今日西に負け星多き土俵かな
◎英國との交涉（日本の助力を期待す）
手廻らぬ山田は賴むその案山子
◎地中海々戰（獨艦の損傷多大）
海荒れて船の木の葉に秋立ちし
◎各國進軍（大戰頻りに進めらる）
馬肥えて進むに利あり陣の秋
◎膠州灣の邦人引揚（靑島の風雲急）
風が出て地芝居の客なだれ去る
◎大元帥陛下（日光より還幸）
秋晴の錦旗にをどる心かな
◎御前會議（聖斷昭乎たり）
搔き合はす大臣の襟や秋涼し
◎最後通牒（膠州灣交附と武裝解除）
唾を呑んで返事待つまや秋暑き
◎大會戰切迫（戰線二百五十哩）
滿を持して案山子の數や田に畑に

（八月十七日）

## ●獨逸人在留數

其筋最近の調査に依れば本邦在留の獨逸男女各府縣別は左の如し

| | 男 | 女 |
|---|---|---|
| 北海道 | 一六 | 二 |
| 東京 | 八九 | 九三 |
| 京都 | 三 | 三 |
| 大阪 | 四 | 三 |
| 神奈川 | 二七五 | 九三 |
| 兵庫 | 一九三 | 九三 |
| 長崎 | 一三 | 一二 |
| 新潟 | 七 | 二 |

間諜奇譚

# 露獨同盟の破壞

○△生





（一）

モルスカイアのカバッ樓は彼得堡で有名な料理店だ、露國を見舞つた人で、此料理屋を知らない者は、恐らくないだらう時しも某年十二月の末つ方、英國人のヅルーは、或夜カバッ樓の食堂で、今にも愉快の食事を濟まして、一杯のクンメルに舌打鳴らして一番上等の卷煙草ババダグリー――露國以外の所では容易に手に入らない――を喫ながら、ノヲ、ウレミヤを擴げ立て、如何にも其最近雜報欄に興味を感じて、夢中になつて居るかの如く見せ掛け、其實向合はせのテーブルで今しも食事中なる二人の客――一人は白髯の老紳士、一人は寧ろ奇麗で、妙齡な婦人――の擧動に、それとなく注意して居たのだ。元來、其晩食堂は大邊な御客で、却々の混雜であつたが、二人の客はブルーの後を引續いて食堂に割込み、他に幾らも空席があつたに拘はらず、無理にヅルーと向ひ合はせに席を占めたのだ之が普通の人間なら、兎も角英國外務省の特務として、最も敏腕の聞え高いヅルーである、注意をせずに濟ます筈はない二人の服裝は立派であつた、特に婦人はジノブイフ仕立の素破らしい毛皮を纒ひ一入奇麗に見えたのであるが、椅子に腰掛けやうとして、件の毛皮を取り去つたところを見るに、柔かき藍寶石織の美事な夜會服を着け、露西亞の婦人が能く用ふる西伯利亞産濃綠色の寶石を結び附けた小さい金鎖を、グルくと頸の周圍に卷き附けて居る、何處から見ても上流社會の婦人だ、其上容色も亦思切つて奇麗で、黑い髮、恰好な眉、時々ヅルーの方に向つて、惡意的に閃めく兩の眼、先づ一點の非難すべき點もなかつた、けれども此同伴者なる老紳士はと言へば、服裝は兎も角、顏附は醜惡といふの外なく其無暗に角張つた腮などは、如何にも見苦しく、料理の如きも婦人には一言の相談なしで、自分獨りで獻立書を窺き込み勝手に注文したことから見ると、其醜男なる割合には、婦人に對して餘り注意を拂つて居たとは思はれなかつた。二人は殆んど二三十分間も食卓に向つて居る、ヅルーは其前なる美人の蒼白い何

となく用心深さうな顔附に見とれて居ると、突然一人の新聞配達が外から飛び込み、山のやうに抱へ込んだ束の中から、一枚宛拔取つて食卓から食卓へと配達し終にヅルーの側に近寄り、小さな聲で露西亞語を以て、

『五ペック下さい、他から氣附かれないやうに注意して、欄外の處をよく御覽なさい』

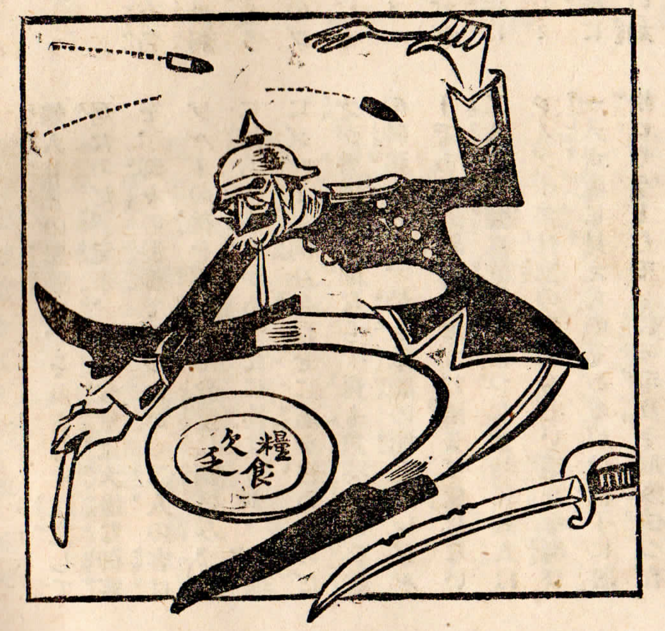
と言ひながら、束の中から一枚の新聞を拔取り、食卓の上に投げ置いた。

ヅルーは餘りの突然に打驚きながら、洋袴のポケットから、銀貨を摑み取り、食卓の上に投げ出しざま、何は扨て措き、件の新聞を取上げ見ると、欄外記事の大きな見出の傍に、鉛筆で微かに文字が書いてある、曰く、

汝の前面に在るニコラス、レブイツキ及びボーリン、ヲゼコフに注意せよ、

彼等は探偵の手先なり！

文章は佛蘭西語であるが、扨て手跡は露西亞人の手跡といふだけは、確かに解けたけれども、果して何人の手跡なるか一向に解らない、ヅルーは此意外の警戒を受けて、寧ろ呆然自失の體である、何人よりの警戒か、それがヅルーに取つて、一向合點が行かぬのだ。



戰亂漫畫　情ない事ちやなア

ヅルーは今より一ヶ月前、例の通り外務大臣から或重大な任務を託されたので、直に倫敦を出發し、オストエンドからノルド急行列車に投じ、彼得堡に乘込んだのであるが、全部探偵の巣窟ともいふべき、彼得堡で秘密に重大な任務を遂行するヅルーの地位は、非常に危險なことで、無論一寸も油斷は出來ないのだ。

（二）

ヅルーが今回外務大臣から託された重大任務とは抑も何であらう。露國が英國と提携して、覇を歐洲の天地に唱へんとの野心は、實に久しいものであつて、露英同盟して歐洲の天地に立つならば、天下の事悉く意の如くならざるなしだ、左う甘く行かないまでも、少なくとも歐洲平和の保障となる上に於ては、固より十分の効力があるといふ見解は、夙に兩國の外交社會に行はれて居たのであるが、今を去ること四年前、ヅルーが外務省に於る例の秘密室で、外務大臣〇〇〇〇〇〇〇〇〇卿から親しく話されたところに依ると、其頃露帝は英露同盟の理想を實現せんとて其駐英大使をして、全力を揮はしめ、其成立に狂奔せしめて居たので、既に大使は外務大臣に對し、阿富汗問題に關する露國の不干渉、土耳古問題に關する英國の不干渉、及び清國に於る英國利權の限定を條件として、攻守同盟條約を結ばんと正式に申込んだ、英國政府に於ては、一般の形勢に鑑み、大に贊同の氣味があつて、交渉を開始しやうといふまでに、内議は纏まつて居たところに外交社會の風說に依ると、一方に於て彼得堡では獨逸が近頃頻に露國に接近し、絶東に於る英國の形勢に對し、攻守同盟條約を結ばんとの野心から、既に其駐露大使をして、具體的に條約締結を申込ましめ、目下談判進行中といふことで、爲に英國政府も大に躊躇し、露國の申込に應じて、交渉を開始する前に當り、一應露獨交渉の眞相を調査するに決したるが駐露英國大使〇〇〇〇、〇〇〇〇卿は、此際事態の眞相を探知することの不可能なる旨有體に上申した、そこで外務大臣はヅルーを煩はすことになつた次第で、ヅルーはそれが爲に、彼得堡に滯在し居るのである。

閑話休題、ヅルーの地位は、其遂行すべき仕事の性質から見て、非常に危險である處に、カバツ樓の食堂に於て、何處よりとも知れず、突然の警戒を受けたので

ヅルーは寧ろ底氣味惡く思ふて居る、何故といつて、此の如く警戒を與へた人は既にヅルーが何人であるかは勿論、英國政府の秘密特務といふ事實さへ知つて居るものと見なければならないからだ、が廣い彼得堡で、ヅルーを、知る者は一人もない筈だ、ヅルーは探偵の尾行を恐れ彼得堡に足踏み入れて以來、自分に密接の關係ある英國大使館さへ一度も訪ねたことがないのであるから、其館員すらもが、ヅルーの彼得堡に居ることを知らないのだ、況んや他の者に於ておやである。それにヅルーは彼得堡に到着以來、其佛國旅券に書いてある如く、ライムのシャンペン釀造商ベイルロンド商會の番頭アドルフ、ソレルと稱して居る、彼得堡の角々に、ウザ〳〵と徘徊して居る探偵すらもが、既に爾と信じて、少しも疑つて居ない位であつて見れば、他にヅルーを知る者はない筈だ、警戒の一件が愈よヅルーに取つて解らなくなつて來るのも道理である。

全體露國の警官が、外國の間諜を發見した時の處分は、甚だ簡單である、捕縛する、要塞監獄に投げ込む、軍法會議の秘密審理は兎も角、其他の公開裁判で、正當の審理を行ふなどのことは、無論ないのだ、此時に當り、不幸なる間諜の本國

政府は、其處分の不當を知るも、復如何ともすることが出來ないのだ、露國警察の手に摑まつては、堪つたものでない。ヅルーは其寧ろ蒼白い奇麗な探偵婦人の顏に、他の一瞥を加へながら、例の何人か送つて呉れたのか分らない、不思議な新聞紙を折疊みて、カバツ樓を立出で、雜沓せる群集を押分けて、モルスカイアを通り越し、早ネヴスキ通りの角へ來た此夜寒月高く中天に懸り、市街は一面白皚々の銀世界、冴けき月光の之に映ずる光景は、眞に一幅の好畫題であつたが、それに彼地此地と飛び交ふ雪橇の響きは一種音樂的で、少なからぬ趣味を添へて居る、ヅルーは此好景に見惚れながらも例の警戒一件に付て、大に煩悶して居る煩悶するばかりでない、寧ろ少なからぬ恐怖の念に襲はれて居た。

（三）

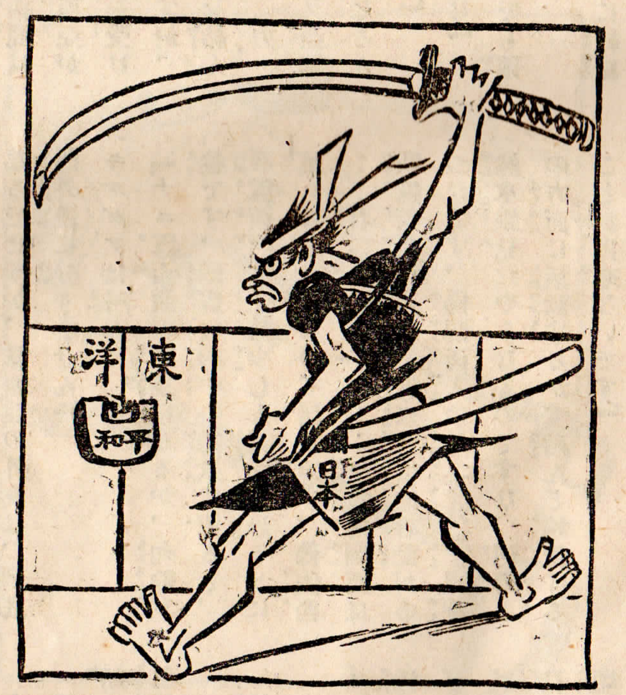
ヅルーは彼得堡到着以來、酒屋の手代といふ觸れ込であるから、爾贅澤な生活をする譯には行かない、で、其宿室の如きも、アレキサンドル橋の對岸で、此頃やうやく開けたばかしの新しい町に住んで居る銀細工師のヴラスキーといふ者の宅に一室を借受け、此處を本據として活動して居るやうな始末であつたが、ヅルーは斯て倫敦で懇親の間柄なるソボロフといふ虛無黨の亡命客から、特に此銀細工屋に紹介されたのだ。

ヅルーはモルスカイアから、殆んど下宿の前に辿り着いた時一應前後左右を見廻はしたが、二人の手先が尾行した模樣もなければ、其他に迂論と思はるゝ者も見えなかつたので、ヅルーも聊か安心することが出來た、若しヅルーが實際其筋の人に疑はれて居るとすれば、ヅルーを下宿させた銀細工師のヴラスキーを初めとし、始終此家に出入する彼れの友人も、一網の下に捕縛されて居なければならぬ筈だ、銀細工師の友人なるものは、ヅルーの考に依りて、當時嚴密に探偵中であつた、虛無黨の一團としか思はれなかつた、それが總て異狀のない模樣であつたから、ヅルーは大に安心した。

其頃ヅルーがそれとなく探知したところに依りて、例の露獨同盟問題に關しては今や露國外務大臣△△△△伯と駐露の獨逸大使□□□□□□公との間に、祕密交涉が盛んに行はれて居るので、獨逸大使館の繁忙は言はん方なく、密使は每日彼得堡と伯林との間を往復して居る模樣である、時局は餘程進行して來たらしい

實はヅルーは銀細工屋に厄介になつて居る中、主人の友人たるスキルダアといふのとマスロフといふ二人の紳士と懇意になつて居る、彼等は兩人にも露國外務省政務局勤務の書記官であつたから、ヅルーは時々話の序に外務大臣△△△△伯の人物性行なども尋ねることもあツたので或は此等の不謹愼なことからして、多少自分の身上に疑いを招ぎ、終にカバツ樓に於て警戒となのつたではあるまいかと非常に心配して居た、で、其晩スキルダアと會見の約束があつたけれども、大に躊躇して居た、けれども、事情は會見を中止する譯に行かぬので、ヅルーは進まぬながら、勇氣を鼓舞してバルチック停車場の近所の下宿にキルダア書記官を尋ねることに決心し、下宿に入らず、其儘再び周圍を見廻したが、誰れも怪しい者も居なかつたので、家畜市場に近い、運河の河岸まで、辻車を飛ばし、それから徒歩でスキルダアの下宿を訪ねた。

殆んど廿分ばかしすると、ヅルーは既や暖爐の前に、主人のキルダア書記官に相對して席を占め、懶うさうに卷煙草を喫ひながら、ウオツカ酒を傾けて居る、スキルダアは、ヅルーに對して、是まで通り少しも變はつた樣子も見えない、ヅルーは如何やら安心の體である。



戰亂漫畫　どうするか

スキルダアといふ男は、四十歳輩で、兩頰に黒い髯を蓄へ、眼容鋭く、素晴らしい體格で、其風采如何にも露國官吏の好標本といふ方であつた、彼は外務省に於て、政務局第一部長の椅子を占め、局長ワクゼールの次席といふ要位に在つたのだ。

ヅルーは銀細工屋で懇意になつてから、此頃では餘程打解けた親密の間柄となつて居たけれども、是まで外交問題や、政治問題などに付ては、スキルダアに話を試みたことがなかつたのである、が、ヅルーは時局進行の程度を確かめたいために、今夜は思切つて問題を擔ぎ出して見やうと決心したので、話の途切れた頃を見計らひ、當日發行の巴里パトリー新聞に、露獨同盟問題といふ記事があつたを幸ひ、之を端緒に話を持掛けた。

『近頃露獨同盟といふ風說が、盛んに行はれて居ますが、實際そんなことが行はるゝものでしやうか、現にパトリー新聞なども斯樣に大變書き立てゝ居ますが。

（四）

ヅルーはスキルダアの平素の態度から考

へて、外交問題しかも現在の外交問題に付ては、恐らく沈默を守るであらうと思ひの外、彼れは不思議な微笑を顏面に湛へながら。

『左樣、實際なんです、軈て露西亞は全歐の帝王となりませう、我露西亞が英吉利に脅迫され、不當の侵略を受けて居るのも、實に久しいものですが、今度といふ今度は、獨逸と同盟を結んだから、露西亞は絕東に於る勢力範圍を憂ふるの必要がなく、又亞細亞問題に付ても、同樣のことゝなるんですから、モウ占めたものです』

『南方亞細亞、成程印度の方ですな』

スキルダアは點頭た、而して飽までも確信の風で

『露獨間の交涉も最早近日の中に終結しましやう、我外務大臣△△△△伯と獨逸大使□□□□□□公は既に淸國に於る勢力範圍の分界線に關し、一致したので、唯だ此上は獨逸政府の同意を得れば可いといふことになつて居るです』

ヅルーは態々空惚け

『成程、しかしそれが露西亞の利益になるでせうか、露西亞の外交は、到底門外漢に分りません』

スキルダアは叫んだ

『ナニ露西亞の利益になるか、勿論利益です、同盟條約中の約欵に依ると、我露西亞は今後少しも英國を恐るゝに足らぬことゝなつて居るです、佛蘭西：：君の御國ですか：：全體佛蘭西は我露西亞に對し、近來背信的行動があつたです、佛蘭西人の外交政略は全然水銀見たやうなものですな、何時どの方面に活動するか、殆んど端倪することが出來ないです』

『して露獨同盟に關する交涉は、何時頃終了するのです』

『獨逸大使館の特使が、條約案を携へて、昨日伯林へ出發しました、此水曜日の晚には又此處に歸着することになつて居ますが、△△△△伯は一刻と早く締結を了へんと焦慮して居るです何でも英吉利の方に何か一と狂言持ち上りさうな形勢があるからといふやうな譯ださうです』

斯く言ひつゝ、スキルダアは態とらしく打笑ふた、ヅルーは透さず、

『水曜日の晚？』、ツアスコエセロ宮に於て、ウイルヘルム公招待の宴會がある晚ぢやありませんか』

スキルダアは其然る旨を答へ、且宴會の性質、出席者の重もなる者を說明した、ヅルーは出席者の姓名に餘程耳を傾けた

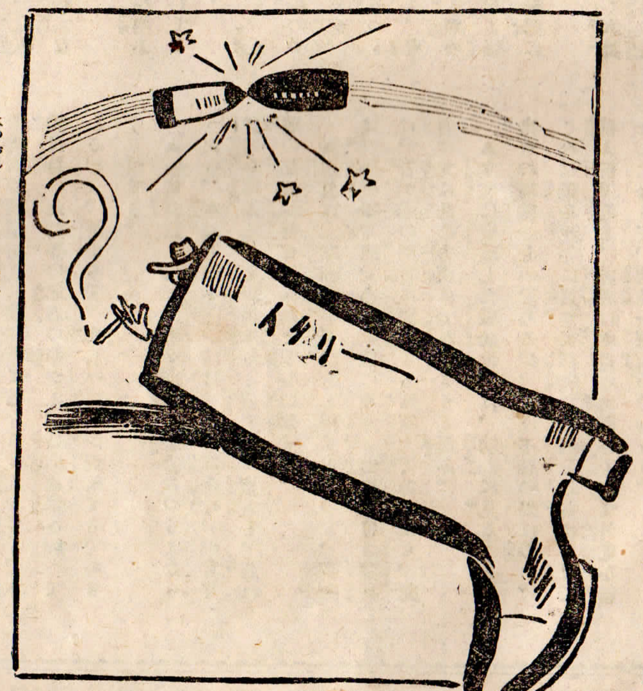
ヅルーはスキルダアと手を携へて、芝居見物と出掛け、下宿へ歸つたのは十二時頃であつたが、此處五日の中には、何とかして露獨同盟の秘密を手に入れねばならぬ場合となつて來た。

翌日、ヅルーは非常の勉强を以て、秘密の穿索に奔走したけれども、何の得る所もなかつた、彼是する中、時日は猶豫なく經過する、獨逸大使館の特使は、既や伯林に着いた、十中の八九、條約案は獨逸政府の贊同するところとなつたに相違ないと思はるゝけれども、其確報を手にすることが出來ない。

其晚方、ヅルーは一日の徒勞に、身體綿の如くに疲れ果て、下宿に歸つて見ると、不思議にも銀細工師ヴラスキーの細君が、應接間で一人の婦人を欵待して居る、見れば意外!!此婦人は先夜カバツ樓で見受けた婦人探偵であるのだ、彼の不思議な警戒でボーリン、ヲゼロフと指示された探偵の手先であつたので、ヅルーは事の意外に一寸呆然自失の體であつたが、ヴラスキーは幵んなことは少しも知らず、自分で婦人をヅルーに紹介した、其名は全然異つて居た。(未完)

### ◎戰局の地名

このたびの戰況を報道するに當つて、誰れしも大に閉口するのは、固有名詞の發音である。何しろヨーロッパの列强悉く紛亂中にあるのだから、電報中の人名や地名は、各國勝手の讀みやうをしてゐるので、之れを地圖上に捜索することは非常に困難である、のみならず之れ等を我が片假名に寫すと、尚更に分らないものが出來る。日々の新聞紙を讀まるゝ讀者は、定めて此の點に就いて、大に不便を感じてゐられるであらう。例へば、リエーヂ、リーヂ、リエヂユとあり、ブラッセル、ブルユクセル、ブルッセルスとあり、或はナムール、ナミユールとあるやうのもので、尚ほ佛獨語に由つて、同じ所が、全く別の名をもつてゐるのがある。佛語のアルサス、ローレーヌが、獨逸語のエルザス、ロートリンゲンである位のことは、どうやら見當もつくが、獨逸のアーヘンが、佛語でエークス、ラ、ヤシペルであるとか、白耳義のリエーヂが、獨逸語で、リユチッヒであるなどは全く分らぬ。だから本誌記者は、次號からは、完全な地名辭典を作る筈である。なほ次號以下の地圖も、なるべく確實の發音を附するやうに計畫する。




戰亂漫畫　イタリアの中立

# 讀者諸氏へ

▲歐洲大動亂、東洋に於ける吾が帝國の大活動、實に世の中が面白くなつて來た。此の歷史の一大廻轉期に當つて、うろ〳〵してゐては、文明史上の落伍者になつてしまふのだ。一國民としても、一私人としても、大に頭腦を働かせて、日本帝國の絕大なる發展を計るべきは、實に此の機會である。

▲本誌を發行するわけは、只彼の地の戰報を傳ふといふ計りでなく、同時に列强の現狀を紹介して、諸君の活動の參考に供せむとすることである。

▲今や世界の列强は、孤立してゐるのでなく、互に密接な關係を有してゐること、なほ神經系統のやうであることは、此の大動搖によりて、我が外交、政治、經濟、思想の各方面が大なる影響を蒙りつゝ事實によりて知ることが出來る。即ち吾が國は、東洋の一强國ではなく、世界の一大强國で、全人類の運命を支配してゐるものだと言ふ自覺心が、愈よ强くなつて來たのである。此の際世界の現狀、形勢に精通することは、國民の任務の一である。

▲歐洲動搖の報傳へられてより、幾許もなく本誌初號を編輯發行したのであるから、不滿足の點は甚だ多い。これは編者もよく知つてゐることだ。幸にして地圖、寫眞、列國形勢の調査等は、本館多年の苦心をもつて蒐集した材料があるから、此の點につきては誇るに足ると思ふが、たゞ戰爭の近況に至つては、遺憾ながら詳細を傳ふることが出來ぬ。

▲何しろ重なる國々が、直接間接に此の大動亂中に加はつてゐるので、通信交通の機關が斷絕したから、只今急に確實なる詳報を傳ふることが出來ぬ。併し本館とは最も親密の關係ある諸氏で、目下歐洲や米國や浦潮附近に滯在してゐらるゝ人が多く、本誌は特に此れ等の諸君に向つて、特別通信を願つてあるから、遠からず、珍しい材料が到着するであらうと信ずる。

▲通信機關とても、追々無事に通ずるやうにならうから、本誌も號を逐ふに從つて、完全な、確實な詳報を傳ふることが出來ると信ずる。讀者も、此れ等の點は諒察せられむことを切望する。

▲本誌は『歐洲戰爭實記』と稱するものゝ、實際は世界戰爭實記である。殊に東洋方面に於ける動搖は、吾が國の利害に關係する所深大であるから、記者は大に此の方面に力を盡さうと思ふ。

▲本號に登載した戰局地圖は、坊間に見ることの出來ぬ精確のものであるが、なほ不備の點は多い。これは號を逐ふに從つて詳細なる部分地圖によりて補ふ筈である。讀者は本誌の地圖をもつて外電を讀まれたならば、興味一層深いであらう。

▲第二號には、リエーヂ、ナムール、セダン、メッツ、ストラスブルグに亙つて詳細なる地圖を添える。又誌上の挿畫には、諸方より得たる珍品が多い。本文には歐洲の事情に精通された諸名士の寄稿が多い。


每月 五日 二十日 二回發行
紙數百二十八頁

一册定價（郵稅金貳錢）金貳拾錢
六册前金（郵稅共）金壹圓貳拾貳錢
十二册前金（郵稅共）金貳圓參拾四錢

御註文要略

◎圖書雜誌は凡て前金にて御註文の外送本致しませぬ
◎御拂込の前金が切れますれば送本停止いたします
◎郵劵代用は一割增にて五厘一錢の切手に限ります
◎本館圖書目錄御望の方は郵劵二錢御送りあれ
◎廣告料は御問合せ次第に御知らせ申します

大正三年八月二十五日印刷納本
大正三年八月二十五日發行（第一卷 第一號）

編輯兼發行人 長谷川誠也
印刷人 市川七作
印刷所 博文館印刷所 東京小石川區久堅町百八番地

發行所 東京市日本橋區本町三丁目 博文館
振替貯金口座東京二四〇番
電話本局 二六二〇番 一六二五番 三三二九番 三〇三番

（大正三年八月二十五日第三種郵便物認可）



（大正三年八月二十五日印刷納本）

（定價金貳拾錢　郵税貳錢）

（東京市日本橋區本町三丁目博文館發行）